

日本写真家協会会報

NO.156

(2014. June)

■座談会「名取洋之助写真賞受賞者のいま」

■震災から3年、JPSの活動

■「第39回 2014JPS展」開催

JPS



Photo Seiya Nakai

エプソンの高画質は
次のステージへ。

EPSON
EXCEED YOUR VISION



3つのコアテクノロジーが実現する、卓越した高画質。

色再現性や階調性、粒状性などを高い次元で制御するLCCS（論理的色変換システム）。
3つのブラックインクで繊細なモノクロ表現だけでなく、色空間全体の精度を高めるK3インク。
ブルー・バイオレット領域の色域を広げるビビッドマゼンタインク。
エプソンが培ってきた3つのコアテクノロジーが、
あなたの作品づくりをさらに高度に、高画質に変えていきます。



徹底的に進化した、ユーザビリティ。

■さらに精緻な表現力へ、最小インクドットサイズ2pl。■インクの容量を大きく増量。フォトブラック・マットブラックインクの同時装着も可能に。■より確実なプリントのために、前面からの手差し給紙方式を採用。
■天面がフルフラットなスクエアデザイン。■LCD操作パネルを搭載。PCを介さず、設定やメンテナンスが可能。■有線/無線LAN標準対応。複数PCの共有はもちろん、Wi-Fi接続で、ワイヤレス印刷を実現。



写真家画質、PX-5V

Epson Proselection
エプソンプロセクション

*受賞商品名は「Epson Stylus Photo R3000」で「PX-5V」は国内相当品になります。*オープンブライズ商品の価格は取扱販売店にお問い合わせください。*この広告に記載の仕様、デザインは2013年6月現在のものです。技術改善等により、予告なく変更する場合がありますので、予めご了承ください。

【PX-5V インフォメーション】 KDDI光ダイレクト 050-3155-8100 (042-585-8444) 【受付時間】 月～金曜日 9:00～17:30 左記電話番号はKDDI株式会社の電話サービスKDDI光ダイレクトを利用しています。左記電話番号がご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTT 東日本・NTT 西日本の固定電話(一般回線)からおかけください。かつこの番号におかけくださいますようお願いいたします。

ご購入はお近くの販売店 または  **エプソンドイレクト** で検索 >> お電話でも **0120-956-285** 【受付時間】 9:00～18:00(月～金) 【※祝日、当社指定休日は除く】

エプソンのホームページ <http://www.epson.jp> エプソン販売 株式会社 セイコーエプソン 株式会社



At the heart of the image

D4s

挑み続ける プロフェッショナルたちへ。

D4から進化した主な仕様

- 高速でかつ予測しにくい動きでも、撮影距離を問わずに捉える進化したAF捕捉性能
- 被写体捕捉性能をさらに高めた「グループエリアAF」搭載
- 高速、多機能、高性能、低消費電力の新画像処理エンジンEXPEED 4
- 常用ISO 100～25600、ISO 50相当までの減感、ISO 409600相当までの増感が可能
- 新たな画像の分析法を採り入れ、より正確な判別を可能にしたオートホワイトバランス
- 撮影したままのJPEG 画像データで得られる高い鮮鋭感、健康的な肌の調子、立体感
- 最高約11コマ/秒の高速連続撮影時にもAF・AEが追従
- ワークフローの高速化を実現するRAWサイズS (12bit、非圧縮) を搭載



デジタル一眼レフカメラ

D4s

NEW

- D4S 価格: オープンプライス
- オープンプライス商品の価格は販売店にお問合せください。
- レンズ、記録媒体は別売です。

Nikon College ニコン カレッジ 受講生募集中

「ニコン カレッジ」は、ニコンイメージングジャパンが運営する写真教室です。初心者から経験者まで、レベルや目的別に選べる各種講座を全国各地で随時開講しています。詳細は、ホームページ (www.nikon-image.com/nikoncollege) でご確認ください。



【ニコンカスタマーサポートセンター】
0570-02-8000

一般電話、公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。営業時間9:30～18:00(年末年始、夏期休業等を除く毎日) ●ナビダイヤルがご利用いただけない場合は、(03) 6702-0577におかけください。●ファクシミリでのご相談は、(03) 5977-7499へご連絡ください。

www.nikon-image.com | 株式会社 ニコン・株式会社 ニコン イメージング ジャパン

8500万本
NIKKOR

■ Gallery	JPS ギャラリー 管 洋志、高井 潔、山本宏務、周 剣生 5 薄井大還、ハービー・山口、本橋成一、齋藤康一
■ First Message	平成 26 年度 定時会員総会を終えて 田沼武能 13
■ Telescope	震災から 3 年、JPS の活動 島田 聡 14
■ Zooming	写真×写真(連載 4) 偉大なジャズ・ミュージシャンの半世紀を記録 河野和典 16 中平穂積写真集『Hozumi Nakadaira: JAZZ GIANTS 1961-2013』
■ Wonder Land	座談会「名取洋之助写真賞 受賞者のいま」 18 出席者：清水哲朗(第 1 回受賞者・会員)、今村拓馬(第 3 回受賞者・会員)、 安田菜津紀(第 8 回受賞者) 司会：小城崇史(出版広報委員)
■ Archives	「日本写真保存センター」調査活動報告(15) 松本徳彦 26 戦後史を彩る写真の数々を収集・保存した写真原板から
■ Workshop	著作権研究(連載 31) 日本にフェアユースはなじむか 山田健太 28
■ Congratulation	おめでとうございます「ハッセルブラッド国際写真賞」受賞 30 石内 都さん、「第 33 回土門拳賞」受賞 桑原史成さん
■ Exhibition	第 39 回 2014JPS 展開催 熊谷 正 32
■ Topics	賛助会員トピックス 36 フレームマン、ケンコー・トキナー、ニコンイメージングジャパン、タムロン、学研パブリッ シィング、リコーイメージング、清里フォトアートミュージアム、キャノンマーケティングジャパン
■ Digital Topics	Windows XP を使い続けていませんか? 38
■ Comment	写真解説 41
■ New Face	平成 26 年度 公益社団法人日本写真家協会 新入会員紹介 42
■ Message	Message Board 46
■ General Meeting	平成 26 年度(第 15 回)定時会員総会報告 48
■ Report	セミナー研究会レポート 平成 26 年度第 1 回・2 回技術研究会 49
■ Books	JPS ブックレビュー 50
■ Infotmation	物故者＝岡村 崔、内山英明／経過報告／お知らせ／編集後記 54
■ International	日本写真家協会の沿革(英文) 56
■ Technical	エプソンのデジタルプリント最前線 64 「ファインアート用紙で発見するインクジェットプリントの可能性」 表紙・中井精也、表 4・安念余志子

広告 案内

- | | | |
|--------------------|-------------------------|-----------------------|
| ■ エプソン販売(株) | ■ (株)堀内カラー | ■ (株)タムロン |
| ■ (株)ニコンイメージングジャパン | ■ (株)シグマ | ■ (株)日経ナショナル ジオグラフィック |
| ■ キヤノンギャラリー | ■ キヤノンマーケティングジャパン(株) | ■ (株)マッシュ |
| ■ リコーイメージング(株) | ■ Photo Gallery Artisan | ■ 富士フイルム(株) |

Canon

キヤノンギャラリーのご案内

キヤノンギャラリー

◎公募展開催ギャラリー

毎年 2 月と 8 月に募集した作品から選出された写真展を開催しています。



キヤノンギャラリー S 展示風景、諸河久写真展「電車道」～日本の路面電車今昔(いまむかし)～ 展示の様子

〔銀座〕 東京都中央区銀座 3-9-7 トラサス銀座ビルディング 1F	TEL. (03)3542-1860 10:30-18:30 (日祝休)
〔梅田〕 大阪市北区梅田 3-3-10 梅田ダイビル B1F	TEL. (06)4795-9942 10:00-18:00 (日祝休)
〔名古屋〕 名古屋市中区錦 1-11-11 名古屋インターシティ 1F	TEL. (052)209-6180 10:00-18:00 (日祝休)
〔仙台〕 仙台市青葉区一番町 1-9-1 仙台トラストタワー 15F	TEL. (022)217-3210 9:00-17:30 (土日祝休)
〔福岡〕 福岡市博多区綱場町 4-1 福岡 RD ビル 1F	TEL. (092)281-1400 9:00-17:30 (土日祝休)
〔札幌〕 札幌市中央区北 3 条西 4-1-1 日本生命札幌ビル 高層棟 1F	TEL. (011)207-2411 9:00-17:30 (土日祝休)

※銀座・梅田・名古屋の最終日は、15:00 閉館

キヤノンギャラリー S・オープンギャラリー(品川)

◎企画展開催ギャラリー

品川本社のキヤノンギャラリー S・オープンギャラリーは、デジタルイメージングの楽しさ、映像表現の無限の可能性を体感していただくためのアートスペースです。話題のアーティストによる作品展を開催しています。

キヤノンギャラリー S・オープンギャラリー(品川)
東京都港区港南 2-16-6 キヤノン S タワー
開館時間 10:00-17:30(日祝休) TEL. (03)6719-9021



◎キヤノンホームページ

canon.jp/gallery

キヤノンマーケティングジャパン株式会社



ヴェトナム サパ——管 洋志
写真集、写真展「一瞬のアジア」



合掌屋根の葺き替え—大泉家主屋—— 高井 潔
写真展「葺き替えの家」



砥鹿神社「火焚祭」—— 山本宏務

写真集『晴れの日と 常の日と』



バンディアガラの断崖 —— 周 剣生

写真集『世界遺産精粹』

写真展「悠遠なる世界遺産」



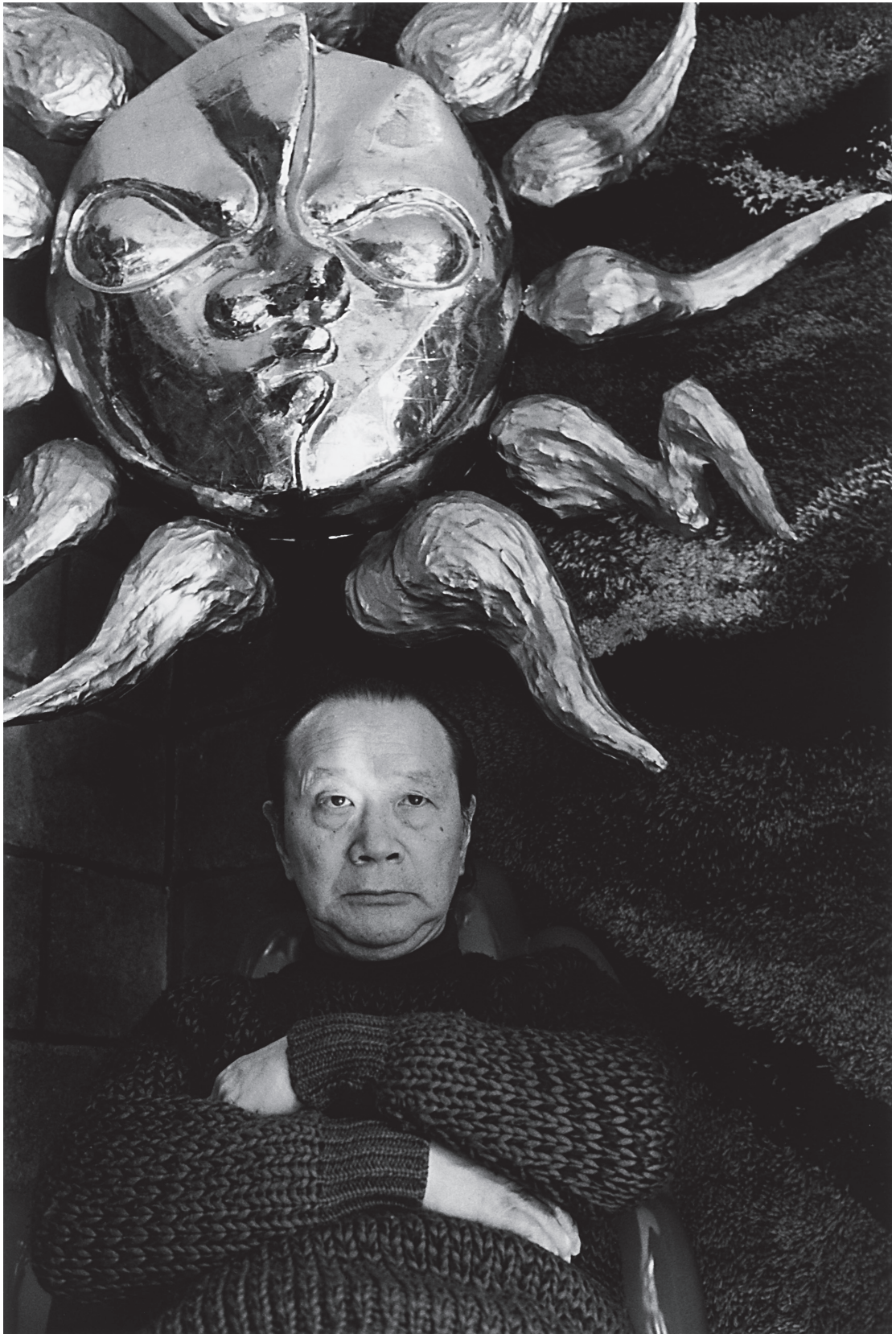
ピアニスト、イングリット・フジコ・ヘミング—— 薄井大還
写真集、写真展「視線の先にあるもの」



パレスティナ 壁に閉ざされた子どもたち——ハービー・山口
写真展「パレスティナ 壁に閉ざされた誇り高き子どもたち」



上野駅の幕間 —— 本橋成一
写真集、写真展「上野駅の幕間」



岡本太郎 —— 齋藤康一

写真集『時代に応えた写真家たち』
写真展「THE MAN ～時代の肖像」

平成 26 年度定時会員総会を終えて

会長 田沼 武能

去る5月23日東京都写真美術館ホールで定時会員総会が行われた。総会が近づくと総会を成立させるために運営委員や担当理事は電話で議決権行使書（委任状）の提出をお願いするため躍起になるのが常であったが、近年は催促の電話をしないで定足数に達している。それだけ会員の協会に対する期待が強くなっているのではないだろうか。

議事の報告及び議決事項については『総会報告』を読んでいただきたい。

JPS 総会も創立後 63 回、法人になってから 14 回目になる。いつも総会になると創立当初のことを思い出す。当協会は「写真家集団」と「青年写真家協会」が一緒になり、フリーの写真家団体として設立した。その時の会員数は約 70 名と発表しているが正確な人数は把握していない。1950 年は戦争で焦土と化した中のどん底生活からやっと社会に明るい兆しが出始め、カメラ雑誌の復刊、新雑誌の創刊などが相次ぎ、写真家の世界にも活気を感じ始めた時代であった。とは言っても写真家の地位はお粗末であった。写真の著作権は「公表後 10 年」であった。撮影してから 10 年というと、作者の生きているうちに消滅してしまうのだ。貸し出したフィルム原板が、使用后写真家に戻らないことも往々にして起きた。そんな苦い経験を一つひとつ解決し、現在の写真著作権は文芸・美術と同じ「作者の死後 50 年」に改正されたのである。この法律を勝ちとるためになんと 47 年の歳月を要したのである。その他、社団法人の許可を受けるなど写真家の社会的地位を高めるため、先輩諸氏の並々ならぬ努力があったことを忘れてはならない。そして公益社団法人になってからは写真に関わる出版、JPS 展、企画展、フォトフォーラム、日本写真家協会賞、名取洋之助写真賞、教育事業など公益性の高い事業が多くなっている。それは公益社団法人になると全ての事業活動の 2 分の 1 以上を公益目的にあてなくてはならないという縛りもあるが、これらの事業を行

うことにより、日本写真家協会の社会的地位を確立すると同時に写真家の地位の向上につながるものと私は考えている。

平成 18 (2006) 年に「日本写真保存センター」の設立発起人会を設け、戦後活躍した物故写真家の残した大切な「写真原板」の保存活用をするための推進連盟を発足した。残された写真の大切なことは幕末、明治、大正期に写し残された写真を見ても明らかである。いくら写真科学が発達しても「過去を撮ることはできない」。現在は文化庁からの委嘱事業として「文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究」を行っており、東京国立近代美術館相模原分館のフィルムセンター保存庫の一部を文化庁から無償で借り受け、その施設に寄贈、委託された「写真原板」を昨年は 25,000 本を収蔵し、今年も 6 月に 15,000 本以上の「写真原板」を収蔵した。

これらの事業を推進するには多額の費用が必要である。いま、キヤノン、ニコン、富士フイルムの 3 社に幹事会社になっていただき、保存センターの支援組織を 5 月に作り、活動が始まったところである。これからは個人や写真団体にもお願いする予定である。猛スピードとはゆかないが着々と進んでいる。

近年写真はデジタル時代を迎え、その環境は激変している。暗室作業がなくなり、世界中何処にでも瞬時に写真が送れ、便利になった。その反面、発表の紙媒体である雑誌の激減により、原稿料単価の下落、著作権の所在が曖昧になったり写真家にとって好ましくない状況が続いている。この時代を乗り切るためには写真家たちが力をあわせ新しい思索を打ち出すことである。写真家は自身の感性とアイデアを駆使し、スペシャリストとしての仕事で対処して行かねばならないと思う。

協会自身もより強力にならないと、このすさまじい社会の荒波に飲み込まれてしまうのではなかろうか。写真力で頑張ろう。

東日本大震災復興支援事業報告

震災から3年、JPSの活動

島田 聡（企画担当 常務理事）

2014年3月、未曾有の被害をもたらした東日本大震災から丸3年の節目を迎えた。3月11日前後には、その節目に合わせた、マスコミ各社の震災・復興関連の報道も増えたが、被災地から聞こえてくるのは、復興の遅れやばらつき、放射能への不安などとともに、風化を案じる声が大きいように思われる。

日本写真家協会では、これまで、写真展「生きる」―東日本大震災から一年―を、東京、仙台、ケルン市・フォトキナ2012で開催するなど、様々な形で東日本大震災復興支援事業を行ってきた。更に、去る3月には、グランシップ静岡にて、国内では2年ぶりに「生きる」展を中心とした写真展を開催した。また、フォトキナ2012での開催以降も、国際交流基金ケルン日本文化会館の協力を得て、ドイツを中心に海外を巡回開催中である。

協会の復興支援事業の目的、ひいては写真の力についても、あらためて確認できる機会になれば幸いである。

■静岡グランシップでの「生きる」展覧会

静岡グランシップでの展覧会は、震災4年目の3月11日をはさみ、被災地の小・中・高校生の撮影した3/11キッズフォトジャーナルの写真と「桜ライン311」の活動から今村拓馬会員の近作とを合わせて、「ほくたちの3年～写真展『生きる』から見えるもの～」と題して開催した。初日には現地マスコミがこぞって取材に訪れるなど反響は大きく、通常より非常に多くの感想が寄せられた。そのアンケートから、いくつかを抜粋して報告としたい。

- ・「3年しかなのか…、3年もなのか…。人間の強さを改めて感じました。決して忘れてはいけない、無駄にしてはいけない!」
- ・「映像より写真のほうが想いが伝わってきてすごく感動しました。静岡でも東海地震がいつかきて、僕達は何にしなければいけないのかよく伝わりました」
- ・「その場でいなければわからない状況を写真で残し、未来に伝えること、とても大切なことだと思いました」
- ・「涙ができました」・「すばらしかった」(多数)

■海外での「POST-TUNAMI」巡回展

海外での巡回展は、フォトキナ2012での展示を皮切り



①グランシップ静岡会場（撮影・島田 聡）

に、まず2012年10月5日、ケルン日本文化会館で始まった。特に最終日の11月3日は、ケルン市中の美術館が深夜までオープンするイベントの「美術館の長い夜」とも重なり、大勢の観客を集め、大きな関心と反響を呼んだ。

2013年の4月11日からは、オーストリア・グムンデン市で開催がスタートした。市長や多くの来賓が訪れたオープニングでは、主催者が「人間にとって記憶は大切なものであり、その記憶を留める写真が、いかに重要な役割を担っているか…」と語り、好評の内に1カ月の会期を終えた。

その後、6月16日からは、旧東ドイツのハレ市、ハレ芸術ホールで開催した。オープニングでは現地の愛好家による和太鼓のイベントが花を添え、盛況な開幕となった。ハレ市は会期直前にドイツ東部を襲った洪水に見舞われたが、その被害にもめげず「このような時にこそ開催したい」という主催者の英断により開催に至ったそうである。

秋に入り10月22日からは、カイザースラウテルン市に巡回した。同市は文京区と25周年を迎えた姉妹都市であり、同市の支援の申し出は、文京区から同区と交流のある釜石市に伝えられ、義捐金(4万8千ユーロ)が直接寄付されることになった。展覧会はその25周年に合わせ開催され、文京区長一行をはじめ、釜石市からも代表がそのお礼に駆けつけ、



③グムンデン市役所

感動的なスピーチをされたそうである。

震災から丸3年の節目を迎えた2014年3月11日からは、デュイスブルク市のエッセン大学での展覧会が催された。主催は同大学の東アジア研究学部であり、日本地理を専門とする同学部の教授が、あらためて今回の大震災について解説し、キャプション中には撮影地の地図を独自に挿入するなど、大学ならではの工夫がされ、観客の理解を大いに助けたとのことである。以上が、4月末現在の巡回展の報告であるが、最後に、今回の巡回展実施について、並々ならぬ協力をいただいたケルン日本文化会館館長の清田とき子氏の感想を紹介して、その報告を締めくくりたい。

「ドイツには『記憶』を大事にする国民性があり、それが印象づけられる巡回だと思いました。写真の力は大変大きいと思いますが、本展では作品解説を丁寧に読んでいる来場者が多く、撮影者の一言は、遠く離れた土地で起こったこの惨事への人々の理解を、さらに助けたと思います。…『忘れない』ことを大事に思い、震災後3年たった今、私達日本人の方が記憶から遠くなりそうな時になっても、本展展示希望をいただいています」

思い起こすこと、振り返ること、そして忘れないこと、これらの風化を防ぐ行為には、写真の持つ大きな特長のひとつである記録性が大きな役割を果たしてくれるに違いない。関係者の皆様に感謝申し上げるとともに、今後の復興支援事業へのご協力をお願い申し上げる次第である。

(写真提供／ケルン日本文化会館)

■開催データ

- ①「ぼくたちの3年～写真展『生きる』から見えるもの～」
静岡県文化財団、日本写真家協会共催
会期：2014年3月8日～30日
会場：グランシップ静岡6階展示ギャラリー
以下は、国際交流基金ケルン日本文化会館及びドイツ連邦共和国写真団体と日本写真家協会による共催
- ②ケルン日本文化会館
会期：2012年10月5日～11月3日
会場：ケルン日本文化会館
- ③第11回グムンデン写真ウィーク(パリ出版社主催)
会期：2013年4月11日～5月20日
会場：グムンデン市役所およびフォルクスクレジット銀行社屋
- ④ハレ・タールシュトラッセ美術協会ハレ・独日協会共催
会期：2013年6月16日～7月14日
会場：F2-ハレ芸術ホール
- ⑤カイザーズラウテルン市
会期：2013年10月22日～2014年2月2日
会場：カイザーズラウテルン・テオドル・ツィンク博物館
- ⑥デュイスブルク・エッセン大学東アジア研究学部
会期：2014年3月11日～7月30日
会場：同大学・デュイスブルクキャンパス



②国際交流基金ケルン日本文化会館会場



④ハレ芸術ホール



⑤カイザーズラウテルン テオドル・ツィンク博物館



⑥デュイスブルク・エッセン大学

偉大なジャズ・ミュージシャンの半世紀を記録

中平穂積写真集『Hozumi Nakadaira: JAZZ GIANTS 1961-2013』

河野和典 KOHNO Kazunori (フォトエディター)

盛大な出版パーティ

2014年4月5日(土)の夕方、新宿京王プラザホテルにおいて、上記写真集の出版記念パーティが開催された。来場者は301人。ジャズクラブDUGのオーナーであり写真家の中平穂積の元に参集したのは、ジャズプレイヤーをはじめ、ジャズ評論家の佐藤秀樹、瀬川昌久、同業のジャズ喫茶オーナー菅原正二、寺島靖國、鳴海廣、そしてジャズ好きの写真家として池英文、木村恵一、熊切圭介、沢渡潤、立木義浩、松本徳彦、さらにデザイナーの和田誠や矢吹申彦、そして出版関係者などであった。

会は音楽プロデューサーの伊藤八十八の司会により進められ、途中からサクスを抱えた渡辺貞夫、坂田明、トランペットの外山嘉雄、TOKU、クラリネットの中村誠一らがジャムセッションを開始、そこへケイコ・リーなどのボーカルも加わって、やんやの喝采を浴びることとなる。乾杯は渡辺貞夫、祝辞はDUGのマークをデザインした和田誠、一関から駆けつけた菅原正二、大学の先輩の木村恵一や熊切圭介など。それはそれは盛大なパーティであった。

写真集『Hozumi Nakadaira: JAZZ GIANTS 1961-2013』の魅力

すでに中平には写真集として、『JAZZ GIANTS THE 60'S モダン・ジャズ・ジャイアンツ』(1981年4月、構成+アートディレクション: 矢吹申彦、講談社、定価: 2,000円)、『JAZZ GIANTS 1961-2002』(2002年11月、デザイン: 屋嘉比盛弘、東京キララ社、定価: 4,762円+税)の2冊があり、さらには『DIG DUG 物語 中平穂積読本』(2004年9月、高平哲郎編、東京キララ社、定価: 2,800円+税)という書籍もあるが、今回の写真集『Hozumi Nakadaira: JAZZ GIANTS 1961-2013』(2014年4月5日、造本: 町口覚、東京キララ社、定価: 13,000円+税)は、実に52年という半世紀以上を費やした文字通りの集大成であり、その表したジャズ・ミュージシャンの幅の広さ、取材の世界的スケールから言っても、極めて貴重なモダンジャズの記録である。

特長的なのは、これまでの2冊が最初に何ページかをカラーで見せていたが、今回はデザイナーの町口覚の意向もあって、全編モノクローム、唯一最後の1ページだけを、タバコを吸うセロニアス・モンクのちょっとブレた横顔をカラーで締めくくるといふ凝りようだ。それだけではない。本体は布張りのハ

ードカバー、さらに布張りのケースに収まっている。ケースのポートレート印刷には、アート・ブレイキー、マイルス・デイヴィス、ジョン・コルトレーン、ビル・エヴァンス、セロニアス・モンクの5バージョンから選ぶことができる。判型は縦354mm×横266mmとこれまでにない大型で迫力がある。

そして、肝心の中身だが、まず中平のジャズの出発点ともなった1961年来日したアート・ブレイキーの東京公演にはじまり、ドラマー白木秀雄とのツーショットでアート・ブレイキー、マックス・ローチ、セロニアス・モンクとつづく。この導入部はととても斬新である。その後はマイルス・デイヴィスなどをはじめとするJAZZ GIANTSがつづく。ただ、その名前を列挙すると残りのスペースが埋まってしまうので、ここでは割愛させていただくが、ジャズ好きの人が思い浮かべるそれも内外の名プレイヤーはまず、例外なく採り上げられていると言って良いであろう。

そもそも中平は、最初にアート・ブレイキーを撮影した後、郷里の大先輩の紀伊國屋文左衛門ならぬ田辺茂一創業の紀伊國屋書店近くにジャズ喫茶DIGを、そして1967年にDUGをオープンし、その2店を経営の傍ら撮影にいそしむのである。毎年の如く東京はもとより、ニューヨーク、パリ、あるいはニューポート・ジャズ・フェスティバル、ヴィレッジ・ヴァンガードのライブ、スウェーデンはストックホルムのゴールデン・サークルのライブなど、ジャズのあるところ何処へでも出かけ、そしてジャズ・ミュージシャンと交流もする。当然、来日する有名無名を問わず多くのミュージシャンが彼



出版記念パーティでジャムセッションに登場した左からクラリネットの中村誠一、アルトサクスの渡辺貞夫、坂田明、トランペットの外山嘉雄

の店へ立ち寄るのである。中平作品の幅の広さ、豊かな奥行きは、舞台上の演奏だけではなく、このようなミュージシャンとのコミュニケーションまで含んだところから生まれる素晴らしさにある。かつて毎晩 DUG に通い詰めていた写真家の荒木経惟に「中平さんの写真は頼まれ仕事じゃないところがいいんだよな



出版記念パーティで挨拶する中平穂積

あ」と言わしめ、野口久光をはじめ多くのジャズ評論家が口を揃えて言ったように、「中平はジャズが大好き」であったこと、そしてそれを写真で記録する情熱が並み外れていたことが、これだけスケールの大きい JAZZ GIANTS の表情を捉えることができたのである。

ジャズと写真

1960 年代後半からジャズを聴くようになった私だが、ジャズの写真というと、まずレコードショップの、そしてジャズ喫茶でリクエストに掲げられる LP レコードのジャケット写真から目にする事となる。聴いていくと、だいたい名盤と誉れ高いジャケットには写真・デザインともに優れたものが多い。かのリー・フリードランダー撮影の『JOHN COLTRANE GIANT STEPS』やマグナムのメンバーでもあったデニス・ストックの『MILESTONES...MILES DAVIS』、さらには撮影者は不明だがハイヒールの女性が闊歩するその足もとを捉えた『COOL STRUTTIN' / SONNY CLARK』などは今も記憶に残る。もうひとつは、ジャズの情報を得るための月刊誌『スイングジャーナル』などの口絵グラビアにおける演奏会場レポートの写真くらいであろう。私の知る限り、ジャズ・ミュージシャンを集めた写真集というのはほとんど見たことがなかった。

そんな中、1991 年 2 月 7 日～3 月 5 日、主催・朝日新聞社で大阪のナビオ美術館において「音とイメージ、ジャズの世



パーティ会場ロビーに展示された「JAZZ GIANTS」の作品

界・写真展 疾走するジャズスピリット」が開催された。中身は 1940 年代、まだマイルスも若くビリー・ホリデーも活躍していたジャズの黄金期を捉えたウィリアム・ゴットリーブと、その後 1952 年から 1990 年までをフォローしたジャン・ピエール・ルロアの 2 人展であった。すべてモノクロームプリントであつたが、このとき図



豪華な中平穂積写真集『Hozumi Nakadaira: JAZZ GIANTS 1961-2013』

録も発行されている。奥付には発行：G.I.P.Tokyo、発行人：倉持五郎とある。想像するに、たぶんこの写真展そのものもコーディネートしたのは倉持ではなかったか。展示プリント、図録の印刷も素晴らしいのだが、惜しむらくは図録に展示作品が網羅されてないことである。折角の印刷物なのに記録的価値は半減する。しかし、「ウィリアム・ゴットリーブ」と「ジャン・ピエール・ルロア」油井正一、「ジャズ・フォトグラファーの役割」児山紀芳（スイングジャーナル編集長）、「ボーダーレスアート——ミュージックそしてフォトグラファー——」吉田ルイ子（フォトジャーナリスト）の 3 名の寄稿文が素晴らしい。特に児山紀芳のテキストには「ある時、ゴットリーブと会って話をしていたら、彼が往時を回想して、『私はカメラでジャズのサウンドを伝えたかった。音が聞こえてくるような写真を、それも単に音だけでなく、音の質感までも表現しようと努力した』」とある。これはまるで、中平の写真——汗びっしょりのセロニアス・モンクや瞑想するが如く首をうなだれてピアノを弾くビル・エバンス、DIG の入口でカメラに対峙するアンソニー・ブラックストン——から受ける印象ではないか。ゴットリーブの写真家としての言葉は素晴らしいが、中平の JAZZ GIANTS の歴史的記録は、この図録に勝るとも劣らない。

そう言えば、もとよりジャズは即興演奏である。写真もまた、シャッターを押すタイミング、フレーミングなど、まさに即興ではないか。少なからず、ジャズも写真もその場の人間が影響し合い、新たなジャズが、そして新たな写真が生まれるのである。

*掲載写真はすべて筆者撮影

【なかだいら・ほづみ】1936 年和歌山県田辺市本宮町生まれ。55 年県立新宮高校卒業。60 年日本大学芸術学部写真学科卒業。61 年 1 月アート・ブレイキー初来日撮影、ジャズフォトをスタート。同年 11 月新宿にジャズ喫茶 DIG 開店。65-74 年ジャズカレンダー制作。67 年新宿紀伊屋裏に DUG 開店。93 年新宿コニカプラザで「ジャズの巨人たち」写真展（入場者数 27,000 人を記録）。2013 年平成 25 年度和歌山県文化功労賞受賞。

「名取洋之助写真賞 受賞者のいま」



出席者：清水哲朗（第1回受賞者・会員）、今村拓馬（第3回受賞者・会員）、安田菜津紀（第8回受賞者）
司 会：小城崇史（出版広報委員）

平成26年4月8日(火)於：JCH 601 会議室

—— 名取洋之助写真賞は、新進写真家の発掘と、その活動を奨励するために、日本写真家協会が2005年に創設した写真賞です。当初の応募規定では30歳以下、第9回からは35歳以下の写真家を対象としたこの賞も、今年（2014年）で第10回を迎えることになりました。そこで本日は、過去の名取洋之助写真賞受賞者の中から、清水哲朗さん、今村拓馬さん、そして安田菜津紀さんのお三方をお招きし、この賞を知ったいきさつや、実際に受賞してその後どうなったのか、現在の活動にどのようにつながっているかなど、受賞者の視点から見た「名取賞」について語っていただきたいと思います。まず第1回の受賞者である清水さんは、この賞をどこで、どのように知ったのでしょうか。

賞と自分のライフワークが出会った

清水 僕はこの賞が始まる前年の2004年にJPSに入会したんです。その年に賞が創設されたっていうのを聞いて、ちょっと応募してみようかなって。

ちょうど2004年6月にモンゴルの風景をテーマに

した個展を開いたんですけれども、多くの方が来てくださって、写真で何かを伝えることができるということを実感しました。それだったら、もうちょっとネットワーク良く、今すぐやらなきゃいけないことをやろうと。

個展では風景作品を通じて草原以外のモンゴルの魅力を伝えることができたのですが、それ以外に何を伝えられるかなと考えたときに、モンゴルに住む貧しい子供たちの顔が浮かびました。ちょうど僕自身に娘が生まれたときだったので、親心からいてもたってもいられなくなったのです。今すぐに取材と発表をしなければと思った矢先に名取賞創設のニュースを開いたわけです。またとないタイミングに、これに照準を合わせてひとつやってみようということになりました。

普通、メーカーなどのギャラリーで個展をやろうとすると、半年先とか1年先とか、人気のところは2年ぐらい先になってしまいますよね。それだとタイムリーなネタはできないので、賞を取って注目されてから個展は開けばいいかなと思って応募しました。名取賞

清水哲朗（しみず てつろう）

1975年横浜市生まれ。JPS会員。日本写真芸術専門学校卒業後、写真家竹内敏信事務所で3年間アシスタントの後、23歳で独立。独自の視点で自然風景からスナップ、ドキュメントまで幅広く撮影。2012年、15年間のモンゴル取材をまとめた写真集『CHANGE』を現地で上梓。2014年、日本写真協会賞新人賞受賞。個展開催多数。

<http://www.tokyokarasu.net>

今村拓馬（いまむら たくま）

1980年生まれ。JPS会員。2005年九州産業大学大学院芸術研究科写真専攻修了。清里フォトアートミュージアムに作品収蔵。主な写真展「Kids-existence-2006-2011」（コニカミノルタプラザ）、「日中未来の子ども100人の写真展」（北京・九州国立博物館・増上寺）。近年は陸前高田市に通い、子どもたちの成長の様子などを撮影している。

<http://imamuratakuma.com>



清水哲朗：第1回受賞作「路上少年」(カラー作品)



今村拓馬：第3回受賞作
「Kids-existence-」(カラー作品)



安田菜津紀：第8回受賞作「HIVと共に生まれる〜ウガンダのエイズ孤児たち〜」(カラー作品)

にいわば決め打ちしたことになります。

—— ありがとうございます。清水さんは名取賞第1回目ということで、後の回に受賞された方々は少し違う流れもあったかと思うのですが、第3回に受賞された今村さんはどうだったんですか？

今村 受賞した2005年はまだ大学院生(九州産業大学)だったんですけど、たしか大学に名取賞の案内チラシが送られてきて、それで創設されたっていうことを知ったと思います。そういえば、1回目も応募したような気がするんですが、記録はありますか？

—— 事務局の記録によると、今村さんは第1回と第3回に応募されています。

今村 受賞したシリーズはもともと撮り続けていたテーマで、枚数は相当持っていて、プリントがちょうど30枚あるから出してみようかっていうぐらいの感じで応募して、受賞したという感じがですね。

—— なるほど。第8回受賞者の安田さんはいかがでしょう。

安田 2006年に初めてカメラを手に入れて写真を始めて、2007年ぐらいもまだ絞りとかシャッタースピードとか初歩的なことを学んでいた頃に、東京都写真美術館でふと目にとまったチラシが今村さんの受賞作が掲載された名取賞のチラシだったんです。名取賞という文字と、机の上に座って今まで見たことがないような表情をしている子供の写真を見て「何だろう、この写真？」って興味を持ちました。それが名取賞との出会いです。そこから、第6回、7回、8回に応募していますよね。

—— はい、応募されています。

安田菜津紀 (やすだ なつき)

1987年神奈川県生まれ。studio AFTERMODE 所属フォトジャーナリスト。カンボジアを中心に、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で貧困や災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。共著に『アジア×カメラ「正解」のない旅へ』(第三書館)、『ファインダー越しの3.11』(原書房)。上智大学卒。http://www.yasudanatsuki.com

安田 この賞が取りたいから写真を撮ってきたというわけではないんですけど、カンボジアとアフリカでずっと写真を撮り続けてきた中で、人に見てもらいたい写真がたくさんあって、この賞は審査において30点もの写真を見てくれるっていうのがすごく大きくて、この当時は自分が写真を撮っていく上で名取賞一つの指標にしていたんだと思うんです。6回目、7回目と応募したのに2回も落とされて「きっと伝える上で何かが足りなかったんだ」って。じゃあそれは何だろうって反省して、メッセージを伝えるためにまだまだ足りない写真があるんだっていうことを考えさせられました。それで「三度目の正直」ではありませんが、3回目の応募となる第8回でようやく賞をいただいて、何かメッセージが伝えられるような形を作れたのかなって。

受賞後、一時的に仕事が減った。 収入が増えることはない

—— お三方とも受賞されて今があるわけですけども、ドキュメンタリーのジャンルをやっていく上で、名取賞の受賞前、受賞後って、何か変化はありましたか？例えば受賞したことによってご自身の作家活動がやりやすくなった、あるいはやりにくくなった、などはあるのでしょうか。

清水 僕の場合はモンゴルをテーマにやったので、仕事にはそんなに関係はありませんでした。ただ、受賞した直後は仕事の入りがゼロになりました。それまでそこそ順調だったのに、受賞したことによって、クライアントさんが「この人の価値が上がったんじゃないか」と様子見をし始めちゃったようなんです。まあ、その後もこれまでと変わらないでやっていたので、だんだんクライアントさんも戻ってきてくれたんですけど。

—— 賞を1回取ると、そこで周囲が引いてしまうとか？

清水 そうですね。でも、ほかの方々はそれはないと思います。僕のときは名取賞の第1回目だったので、おそらく周囲の皆さんも、受賞をどう評価しているの

かわからないところがあったんだと思うんです。本当にぱったりと仕事がなくなりましたね。

—— 第1回は応募が66作品あったんだそうですが、全9回の応募を平均すると42.88件なので、第1回はそれだけ注目度があったってということなんでしょうね、きっと。

清水 そうなんでしょうね。僕、年齢的にはラストチャンスだったんですよ。

第1回目の応募資格は1975年1月1日以降生まれだったので、同学年で応募できる人とできない人がいました。僕は3月生まれだったのでセーフ。これはちょっと追い風かな、と思いました。

さらに審査員に椎名誠さんがいらっしゃって、草原としてのモンゴルを知っている椎名さんに自分の作品はきっとインパクトを与えられるだろうなとも考えました。そういう意味ではますます追い風を感じますよね、自分の中で。

—— 誰が審査員を務めるかまでチェックしていたんですね。

清水 もちろんチェックしますよ。別に審査員が誰であろうと応募をやめることはなかったと思いますが、一応は気にしていました。

—— 今村さんはどうですか。受賞前と受賞後とで。

今村 清水さんと似たような部分があって「そんな賞を取るような写真家の先生に、うちのような安い仕事は・・・」みたいなのは当然ありました。賞を取ると間違いなく仕事は減ります。受賞したことがその後の取材に生きたかっていうと、別に自分から言うこともないので、普段取材をする人たちは知らないことですし、はっきり言うともあまり関係はないのかなと。多少、写真関係の雑誌などに掲載していただいたりとか、写真展をやるときにギャラリー審査が通りやすくなる程度の話ですね。受賞で何かが変わって収入が増えるっていうことも、まあ、まずありません。そこが本当は一番重要なんでしょうけど。

—— 安田さん、お願いします。

安田 受賞する前も今もそうなんですけれど、仕事をする上で写真が私の一番の武器であって欲しいという気持ちはもちろんあります。だからといって写真だけしか伝える手段がないというスタンスで活動してきたわけではなくて、例えば講演したりとか、文章を書いたりとか、そういうことも並行してやってきました。賞をいただく前までは、写真の世界にあまり知り合いがいませんでしたし、写真を撮っている人間として認知してもらっているかといえば、必ずしもそうではなかったと思うんですよね。



清水哲朗さん

でも、賞をいただいてから「写真も撮っている人なんだ」って知ってもらって、今までやったことがないような仕事をいただけるようになったんですね。今まで、講演とか写真展とかが活動の中心だったんですけど、例えば写真らしい仕事というか、ちょっとこのカメラを使ってドキュメンタリーを撮って見ましようかとか、そういう新しい挑戦が結構増えたんです。

—— さきほど今村さんから「賞を取っても、普通の人の認識はそんなに変わるものじゃない」というニュアンスのお話がありましたが、周囲はどのようにこの賞を受け止めているのでしょうか。私たちはたまたま写真業界の中の人間だから「今年の名取賞、誰々」みたいな感じで受け止めるわけですがそれでも、その世界からちょっと出ると、まだあまり認知されていないんでしょうか。

安田 一般の認知度はまだ低いかなって思いますね。もちろん写真の世界の中では名取賞っていうと「あっ」てなるんですけど、写真の世界にいない人たちに、こういう賞を取ったんだって言うと、何かよくはわからないけれども「すごいね」とは言ってくれて、ドキュメンタリーで写真賞を取ったとは認識はしてくれるんですけど、名取賞っていうのがどういう賞なのかっていうのは、まだまだ一般には広がっていないかなっていう気がします。もっと広がったらいなと思います。

—— 今村さん、いかがですか。

今村 正直言って、認知度はありませんよ。写真の賞で世間的に認知されているって、おそらく木村伊兵衛賞だけなんだと思うんですよ。

安田 木村伊兵衛賞もどうかんたいう感じはします。

今村 出版業界にいる人でも「木村伊兵衛賞って知ってる？」って訊いても知らないこともありますし、朝日新聞社の入社試験に木村伊兵衛ってどんな人かっていう問題に、木村家あんばんの創業者っていう答えがあったっていう笑い話を聞いたことがあるぐらいですから。

誰かの名前を冠している賞を取ったっていうのは、それなりにすごいんだろうなっていうぐらいの認識はしてくれるんだろうなとは思いますがそれでも、そもそも名取洋之助って誰なの？っていう話になってしまいますよね。

1 テーマを 30 枚にまとめるということ

安田 名取賞の応募要項では30点の作品を提出しなければなりません、30点まとめるって、すごく大



今村拓馬さん

変だったような気がするんです。せっかく長い時間をかけてひとつの物を見つめ続けて、やっぱり伝えたいものがあるから私はやっているの、写真関係者だけではなく、もっといろいろな人に足を運んでもらって写真を見てもらう機会があったらいいんじゃないか、っていうのは感じますね。とはいえ、「じゃあどうしたらいいのか」って訊かれても、方策はわからないんですけれど。

—— 今の安田さんの問いかけに対して、清水さんはいかがでしょうか。

清水 そうですね。受賞したことで新聞に載ったりラジオに出演したりとかはありましたから、少しは広められたかなとは思いますが。名取賞を取っていなかったら、そういう機会もなかったの。そういう意味では、賞を取ったことで、僕が伝えたかったことを多くの人に伝えられたのかなと思っています。だから全く無意味かというとは無意味ではないとは思いますが、認知度が低いと発展性は少ないのかなと思います。

—— 写真の賞って、確かに世間一般にはあまり認知されていないのかもしれないですね。

清水 そうですね。木村伊兵衛賞自体が写真界の芥川賞みたいな言い方をされること自体が、やっぱりまだまだね。木村伊兵衛賞の創設が1975年ですから、およそ40年前ですね。

安田 そんな昔なんですか。

清水 僕の生まれた年なので（笑い）。40年近く経っている木村伊兵衛賞の一般での認知度がまだまだとすると、やっぱり写真業界自体がもっと活性化していかないと難しいところもあるのかなと思います。

安田 私がこういう年齢（25歳）だからなのか、学生さんから「フォトジャーナリストになりたいんですけど、どうすれば？」みたいな相談をよく受けるんですね。名取賞が、そういった学生が目指すべきひとつの目標になって欲しいなと思っています。

例えば、こうやって集まった3人や、ほかの受賞者の方々が、これからどんどんいろいろなところに出ていって、そのときに経歴を見たら「名取賞」って書いてあって、何だろうって。じゃあ自分も目指してみようかなって、若い世代を中心に賞の価値がどんどん広がってくれたらいいのかなって。若い世代にとって名取賞がいい目標であり続けて欲しいなっていうのはすごく思います。

清水 賞を取った者としては、とりあえず10回は続いて欲しいって思ったんですよ。3回ぐらいで終わったら、僕の賞もプロフィールに書けない過去のものになるかなと思っていましたから。とりあえず10回続いてくれたので一安心です。

安田 賞を目指している過程はすごく楽しかったんですよ。どうやって30枚組み立てようかって。例えばコニカミノルタ・フォトプレミオとかは「30点前後」という要綱なので、25枚になろうと35枚になろうと一応範囲には収まりますけど、名取賞は30点き

かりの中にどうやって収めようかっていうのを考えるのがすごく楽しかったんですね。どうやればこの点数で伝えられる写真を構成できるかって。

清水 30点をどう構成するかはポイントだね。応募しているほとんどの人は途中で息切れしちゃっているはずなんだよね。奨励賞を含め賞を取っている人は皆、それなりに球数（作品点数）を持っていて、30枚をしっかりと構成できている。でも、そうでない人にとっては30点ってすごい苦痛だと思う。

そういう意味では、50枚組でも100枚組でも全然大丈夫ですよ、ぐらゐの取材をしていた自負はあって、あとは年齢的なものですよ。僕は29歳での応募だったので応募資格者の中では最年長なわけで、その経験値は20歳の応募者とは全然違うはずだろうと。

—— そこは違いますよね。

清水 僕は写真業界で何年か仕事をしていたので、その差は大きいなとは思いました。審査に提出する作品の構成にはすごく気を使いましたし、写真にキャプションをつけるのも狙いでした。それも裏面じゃなくて表面に印刷して、写真とともに見せるというアイデアで。

—— 清水さんがおっしゃっていることが実は裏げられていまして。名取賞受賞者の平均年齢は27.66歳、奨励賞受賞者の平均年齢は25.77歳という数字が出ています。

今村 僕はちょうど平均ぐらいで賞を取ったことになりますね。

—— 最年少受賞者は安田さんです。25歳で受賞さ



安田菜津紀さん

れているので、受賞者としては一番若い。でも、安田さんは3回（第6回、第7回、第8回）チャレンジをされて、結局それだけ積み重ねがあって受賞されているわけですから、清水さんがおっしゃった「20代をどう過ごすか」という経験値の結果になっているのかなというのを、この統計の数字からも感じました。ところで、これまでは30歳までが応募資格として定められていましたが、2013年の第9回から30歳以上でも応募できるようになったという話は皆さんご存じですよ。

清水 はい。35歳に引き上げられましたね。

今村 それであれば、僕まだ出せますよ。あと2回は応募できます。

—— 受賞者の再エントリーってできたかどうか・・・（笑い）。

今村 いやあ、落とされるかもわかりませんけれど。

安田 今村さん、出せますよ。頑張って戦ってくださいよ。

今村 初戦敗退とかしたら格好悪いじゃん。

安田 清水さんと今村さんの2人が先に受賞していたのは私にとっては大きくて、第4回受賞者の柳瀬元樹さんもそうなんですけれども、自分が好きな写真家が取っている賞だから、自分も取りたいなっていうのはありました。

—— 柳瀬さんは2度目の応募で取られています。

安田 柳瀬さんは受賞したときに「1年間、これに照準を合わせた」っておっしゃっていました。

他の賞と名取賞の違い

—— 写真の賞はほかにもたくさんありますが、それらの賞と名取賞の違いは受賞者としてどのように感じていますか？

清水 ひとつは自分で応募するのか他薦かで全然違うと思うんですね。自分が既に発表した写真に対して他薦された場合は、受け入れるしかありませんから。

安田 他薦の賞もあるんですか？

清水 たとえば木村伊兵衛賞が推薦ですね。僕は2013年の最終選考まで残ったそうですが、実は本人はまったく知りませんでした（編集部注：2012年までは木村伊兵衛賞は受賞候補者の発表がなく、2013年からアサヒカメラ誌面に候補者名が発表されるようになった）。Twitterのタイムラインを眺めていたら「木村伊兵衛賞の候補に清水哲朗」といった情報が流れていたのを見つけたのですが、はて、「この清水哲朗さんは誰かな？」みたいな感じでまったく気づきませんでしたね。あとになって、えっ、オレだったの？みたいな。

安田 2013年に出した写真集の『CHANGE』が選考対象になったんですか？

清水 そうです。全く寝耳に水の出来事です。

安田 誰が推薦したんだろうとなりますよね。そういうのもわからないんですか。

清水 それもわからない。

—— 清水さんは2013年に「日経ナショナル ジオグラフィック 写真賞2013

ピープル部門優秀賞」を受賞されていますが、あの賞は応募ですか？

清水 応募ですね。たまたま賞の締め切りの3日ぐらい前に思い立って、名取賞以来、久々に応募したんです。JPSから送られてくる会報に同封されていた応募用紙をとりあえず残しておいて、覚えていたら応募しようかな、ぐらいの軽い気持ちでいました。結果的には単写真で入賞したのですが「1枚じゃ足りないよ。なんで組写真にしなかったんだ」って審査員や多くの方々から言われました。ただ、今回の応募は賞そのものが欲しかったのではなくて、ニューヨークのギャラリーで個展ができるという副賞が僕には魅力的だったんです。やっぱり世界に出ていきたいなと思っているんで。

—— 今村さんと安田さんは、ほかの賞を意識されたことはありますか。

今村 「林忠彦賞」（編集部注：山口県周南市美術館主催）には2013年に最終選考まで残ったんですね。締切が2013年12月31日必着で、年末に2日ぐらい時間があつたので、応募できるじゃんって思って、ヨドバシカメラへ行って用紙を買ってきて、プリントして応募しました。林忠彦賞は100万円っていう賞金が大いんですよ。やっぱり取材費は掛かりますし、材料費もどんどん上がっていますから。

清水 名取賞はドキュメンタリーの賞にしてはハイリスク・ローリターンと感じるところがあつて、賞金額の問題はたしかにあるんですね。第6回以降は、写真賞の受賞者にはJPSが制作した受賞作品写真集が50冊贈呈されるようになりましたが、せめて一般の市場に出回る写真集にして欲しいなど。

今村 この写真集を持って売り込みに行けよっていう感じなんですかね。作ってもらうのはいいとしても、その先の広がりが無いような。

清水 2014年（第10回）から賞金をそれまで10万円だったのを30万円に増額したのは、いいことだと思うんです、受賞者にとっては。

安田 賞金30万円と写真集なんですか？

清水 2014年から、そうなったようです。

今村 例えば山本剛士さん（第9回受賞者）みたいに、受賞展のために山梨から出てきて東京に滞在していた



清水哲朗 近作：携帯電話 モンゴル・カザフ族



今村拓馬 近作：陸前高田の子ども・千葉一絵 2011年4月（左）2012年2月（右）

ら、賞金の10万円なんてすぐになくなってっちゃうわけですよ。写真集にしても広げるためのはずなのに、部数も限定されていて、広がりになっていかない。周りの知っている人たちに配って終わる冊数っていうことは、もともと知っている人に知っていることを伝えてもあまり意味がなくて、自分のことを知らない人たちに伝えてこそ写真の魅力だと思うんです。広がれば賞の価値も上がっていくと思いますけど、それができていないとしたら、すごく残念なことだと思います。

清水 ところで、受賞展のときって、会場には毎日いました？

今村 毎日はいなかった……。まあ、大体いましたけれど。

安田 私は毎日いました。

清水 大阪も？ 大阪は何日かだけだっけ。

安田 週末だけは在廊していました。

清水 僕は東京も大阪も受賞展の会期中はずっと在廊したんですよ。だから、大阪の方とも随分広がりができて、仲良くさせていただきました。

安田 受賞展では「写真集はないんですか？」ってよく訊かれましたね。私の手元には1冊しか残っていないので、「ないんです」って答えるしかなくて。会った人からも、私のプロフィールを見て、写真集はないの？と訊かれるんですけど、やはりごめんなさいって。

清水 僕は受賞展を見てくれた出版社の方から、「写真集にしましょうか？」っていう話があったんですけど、出版社の社内プレゼンの段階でだめになったらしいです。ただ、結果的には10年後に『モンゴル（世界のともだち）』（偕成社）ができた。だから、受賞したタイミングではだめでしたが、一応はつながったのかとは思います。

—— 最近は『アサヒカメラ』に受賞作品が必ず何点か載るようになりましたよね。そういった商業印刷物に載ると、こういった写真集が賞としてもらえるのと、どっちがいいのでしょうか。

安田 それは全然別物ですね。『アサヒカメラ』に載せていただくのは結構ありがたいことですが、写真集は写真集で、それこそ名取賞を写真の世界以外の人に

広げるすごいチャンスを含んでいると思います。ただ、いただける冊数が50冊だと、お世話になった人たちにお礼として配ったら終わってしまうというのがあります。

受賞展会場でも、見本を見ていただくだけになってしまったのがすごく残念だなんて。一般の人が会場にふらっと入ってきて、写真を手元に持ち帰りたいっていう気持ちになってくれたときに、ちゃんとつないでくれる写真集になっていて欲しかったなっていうのは、会場にいて感じました。

今村 最初に大量に印刷してしまうと在庫を抱えてしまうリスクがありますから、受賞展の会場などで注文をもらってから印刷して後で届けますよ、っていう形式なら可能じゃないかなって思いますよね。そうなればゼロがイチになって少しでも広げていけるんじゃないかと。

—— 清水さんをご自身の個展を開催された際に、写真集や本を手売りされていましたが、そうやって写真展の会場に置いておくのと反応はあるものですか？

清水 すごく反応がありましたね。絶版のフォトエッセイ『モンゴリアンチョップ』（エヌエヌエー）を大幅に値引きして売ったのですが、それが呼び水となって、写真集の『モンゴル（世界のともだち）』もください、っていう感じになりました。本当は僕がモンゴルで500冊限定で自主制作した写真集『CHANGE』が欲しかったお客さんもいたみたいですけど、こちらは既に在庫がありません。

日本でもオンデマンドで写真集は制作できますが、結構な金額になるじゃないですか。それなりの写真集を出そうと思うと、印刷の安い国で作って、自分で手売りしたほうがいいのかなと。モンゴルで作った『CHANGE』はISBN（国際標準図書番号）もちゃんと取りましたし、モンゴルで撮った写真はモンゴルに残したいって思っていたので。実際、モンゴルという国自体が変わっていく中で、印刷技術とか製版クオリティーとかも含めて残したかったんですよね。だから僕の中では一番いい着地点だった。

—— 印刷をモンゴルで行うに当たってどんな点で苦労されましたか？

清水 デザイナーがモンゴル人で、モンゴル語と英語でやりとりをしました。出版社とのやりとりはお金を幾ら払うかっていうだけなので意外と簡単なんですけれど、色校がないんです。いきなり本番印刷が回ってくる感じです。しかも500部って注文すると500部びったりしか作らない。色はバラバラだし、途中でページの天地が反転しちゃっているものもありましたね。あと、落丁する可能性もあるだろうと思って、あえてノンブル（ページ番号）を打たなかったんです。これだけのページ数がありますから、落丁があったとしても誰も気づかないんですけどね。

この写真集はトータルで100万円ぐらいでできたんですよ。1冊2kg弱あるのでモンゴルから持ち帰って



安田菜津紀 近作：陸前高田の沖合、籠漁の様子

くるのは大変でしたが、現地の国立図書館にも残せたとし、向こうのテレビ番組に出たりとか、インタビューも受けたり、現地に貢献できるものを残せたかなと思っています。

あと、現地で作るとは世界営業にもなるんですよ。日本でどんなにモンゴルのいい写真集を作っても、モンゴルに興味がある人はモンゴルへ行っちゃいますよね。日本でわざわざモンゴルの写真集を買って「この写真家、誰かな？」とはならない。具体的な仕事にはなっていませんが、何件か海外から問い合わせのメールは来しました。

最近では写真集も手軽に作れるようになってますから、出版社や取次ぎを通さず手売りでやるっていう方法もありだと思います。写真集があれば、仮に賞金や副賞をあまりもらえなかったとしても、これを売ることである程度回収できますから、その売り上げを次の取材につなげられればいいんじゃないかと思っています。

テーマと現実生活（お金）の折り合い

—— 清水さんから取材費の話も出てきましたが、ドキュメンタリーでひとつのテーマを追いかけると、時間もかかるし、相応にお金もかかることだと思います。傍から見ていると「やっていることの答えはいつ出るんだろう」と考えてしまうのですが、その辺は皆さんのように折り合いをつけているのでしょうか。

清水 僕はほかで仕事をしつつ、やりたいことには身銭を切ってもいいかなと考えているので、損得はあまり考えないようにしています。家族には申し訳ないんですけどね。師匠（竹内敏信氏）のアシスタントを務めていたときに「(写真なんて)食えなくて当たり前で、それよりもひとつの作品は10年かけてやれ」みたいなことを言われたんですよ。写真学校でも、ほかの先生方からも同じように言われました。だから食えないってこと自体に何の違和感も感じてなくて。もちろん、いろいろ発表できたり、いただけるものはいただけるのであればありがたいかなと思います。

僕は、いわゆるドキュメンタリー畑だけを仕事にしているわけではないので、その辺は逃げかもしれませんが、やはり生活をしつつやりたいことをやるには、そういう方法になってしまうのかなと思います。

安田 私の場合は高校生のときにカンボジアに行ったのが原点なんですけど、そこで同世代の少女たちがお金で売られているのを目の当たりにして、「絶対にこれは何とかしたい」というのが最初にあります。何とかしたいけれど何もできない。でもやっぱりこれを伝えたい、っていう想いの先に写真というものにたまたま出会って今に至っているんで、食える、食えないを考える前に、そうした状況を何とかしたいっていう原点みたいなものが自分の中では十数年続いています。

ですから、清水さんと同じで、食えないことが前提で当たり前みたいな感覚ですね。食えないからやめらんだったらそれまでであって、食えようが食えまいが

何とかしたいっていう想いが勝っているんで、苦には感じません。かといって、食えないことを楽観視しているわけではありませんが（笑）。

今はすごい恵まれた環境にいるなと感じるのは、例えば広告のお仕事をいただくにしても、ただ単に広告写真を撮ってくれではなくて、ドキュメンタリーで今まで追っていたものを生かして撮ってくれていうことで依頼を受けるようになりました。たとえば、このカメラの良さを生かして東北を撮ってくれとか。そうやって自分のやりたいこともできるし、ちゃんと収入にもなるようなお仕事をいただいているので、それがまた次の取材のステップになって、という感じですね。

私は学生時代が写真のスタートだったので、今の年齢でもお二方に比べたら全然経験は浅いんですけど、カンボジアや東北での活動を通じて、この人はこういう写真を撮っている人だっていうのをある程度は認知していただいたと考えています。ドキュメンタリーでひとつのテーマを追いつけると、自然とそれについてくるものがあるのかなっていう気はします。

清水 写真撮影に関するハウツーの原稿を書いたり、写真教室でレクチャー的なことをしながら作家活動をする、写真家としての価値というか見られ方はどうしても低くなって、息抜きの的に写真を撮っているように思われてしまう傾向がありますよね。それを今後変えていかなきゃいけないなと思っています。

僕は、10代から20代、20代から30代、30代から40代って、自分なりに区切りを一応つけながら仕事への取り組み方を変えてきているんです。今は39歳なので、今後の10年を見据えて、現在は仕事を調整しています。

安田 今の自分の年齢は、新しいあり方をどんどん開拓していったいい歳なんだなと考えています。今まではドキュメンタリーのフォトジャーナリストっていうと、どこかへ取材に行って写真誌とかに記事を書いてっていうのが定番だったと思うんですけども、一方でそれとは違う広告の分野にすごく魅力を感じるのは、やはり広告は見てくれる人が圧倒的に多いし、興味の少ない人の目にも触れる可能性がすごく高いからなんだろうと思うんですね。なおかつ収入にもなって、そこに自分の主張したい写真が載れば、それにこしたことはない。そういった方法で仕事と表現とが両立できるような可能性が拓けてきたっていうのは、すごくあると思います。

先ほどの話にも通じるんですが、写真が写真の世界にとどまっていって欲しくないなという想いもあって、今度渋谷のタワーレコードで写真展を開催するのですが、写真家3人に加えてロックバンドのボーカリストと一緒にやるんです。ジャンルを超えることによって、私たちがいくら声を大にしても届かなかったメッセージが、音楽という範疇に興味がある人たちに写真を通じて届くようになる。

そういうふうにジャンルを超えて、ドキュメンタリ

ーはドキュメンタリー、広告は広告、音楽は音楽じゃなくて、もっと全部飛び越えて、新しい形を築いていけるといいのかなと思っています。伝えたいことも伝えられるし、収入にもなると思うので。

今村 僕はどちらかというと清水さんと似ていて、自分が撮りたいもの、取材したいものに、稼いだお金を突っ込めるタイプです。

一方で、依頼された仕事もそれはそれで楽しい。僕の場合は仕事では人物の撮影が多いので、いろいろな人に会えて、こんな面白い人もいるんだっていう、それがすごく勉強になって作品づくりにもプラスになるので、そこはシナジー（相互作用）が起きています。ですから、今やっているスタンスは、これはこれでありなのかなって思っています。

たとえば子供たちを撮っているときに、「（カメラマンさんは）普段はどんな仕事をしているの？」みたいな質問がくるんですけど、タレントの誰それさんとかテレビに出ている人も撮っているんだよって答えると、子供たちはわあーってなるわけですね。そんなすごいカメラマンが来てるんだって、コミュニケーションにいい影響も出てきたりもするんですよ。まあ実際は僕自身は大したことはないんですけども。ただ、僕も安田さんと同じで、写真が写真の中だけで終わってしまうのはすごくもったいないと思っています。

写真家っていう職業って、世の中のパーセンテージでいったらすごく少なくて、我々の周りには石を投げれば当たるぐらいごろごろいますが、普通の人にとっては、そんな職業って成立しているの？とか、どうやって食べているの？とかを訊かれるわけですよ。

安田 私も言われますね。

今村 地方に行けば行くほど「カメラマンなんですか？へえー？」みたいな感じなんですよ。地方に住んでいる人にとってのカメラマンのリアリティーって、ブライダルと学校アルバムだけじゃないですか。それでも、写真が写真の中だけで終わるっていうのは、すごくもったいないなと思っています。

陸前高田でも子供を撮ったりつながりを持ちながらいろいろやっているんですが、自分が撮らせてもらっているものに対してどう還元していこうかと。実際に、子供たちのサマーキャンプを企画するような団体を運営しているんですけど、そこでリアルに子供たちを預かって見ていると、いろいろなシナジーが起きて、作品作りにはプラスになっているなと思っています。安田さんと同じで、やっぱり枠を広げて活動していくのってすごく大事だなと思います。ひとつの目標として、死ぬまでシャッターを切って、ちゃんと稼いでいきたいと考えているんですが、そのためにすべきことであれば、作品作りにお金を使うことを苦しいと思ったことは一度もないですよ。材料費が上って、フィルム代が高くなっちゃったな、ぐらいは思いますけれど。

要は写真って自分の生活の一部になっていて、息を

するのと同じことなので、多分やめることもないでしょうし、一瞬離れるぐらいのことはもしかしたらあるかもしれませんが、必ず戻ってくると思いますし、おそらくずっと続けていくんじゃないんでしょうか。写真を嫌だと思ったこともないし、嫌だと思ったら、そもそもやっていないでしょうから。

自分を信じて「できる道」を探す

—— 座談会の最後に、20代半ばで、写真を始めて2～3年ぐらいの人たちに向けて、アドバイスなりメッセージなりがあれば一言ずつお願いしますか。ここを大切にしたいほうがいいとか。

安田 写真関係の学生さんの前でお話をする機会が結構あるんですけど、必ずといっていいほど、「どうすれば食べていけるか」とか「どう生計を立てているのか」という質問が出てきます。でもそれは仕事としてやっていく上の前提として、自分で向き合っていくしかないわけです。

やれない理由を数えたら切りがないんですよ、この仕事って恐らく。でも、そうじゃなくて、やれない理由を探すよりも「どうすればやれるようになるか」を探していったほうがいい。写真を通して自分は何をやりたいのか、何を達成したいのかを、せっかく学生として学べる期間が何年もあるのですから、とにかくチャンスがあれば何でもやってみて、いろいろなものを試してみて、磨いてみて、その中でやっぱりこれを表現したいっていうものを探していくべきでしょうし、学生時代をそういう時間に充てて欲しいなと思います。

今村 若い人宛てのメッセージではないのですが、第10回の応募の要項とかがJPSのウェブサイトに掲載じゃないですか。そこにこの座談会の内容を載せてもらったほうが、広がっている意味においてはいいのではないかなって思います。JPSの会報にだけ掲載されるのはとてももったいない内容だと思うんですよ。今は多くの人がインターネットで情報を調べるのに、JPSのウェブサイトには賞に関連するインフォメーションはほんの少ししか載っていません。せっかくの機会ですから、形式はpdfでも何でもいいので、ウェブに載せたらいいんじゃないかなって思いました。

清水 自分の活動を信じること、続けること、そして発表すること。若い人に伝えたいことは以上の三つです。

—— 受賞者の写真展や作品を雑誌などで見る機会があっても、その肉声を聞く機会というのはほとんどないだけに、本日は貴重なお話を沢山伺うことができました。これからドキュメンタリーを目指す若い人がこれを読んで、一人でも多く名取賞に応募していただけると嬉しく思います。

本日はどうもありがとうございました。

（構成／小城崇史、撮影／桃井一至）

「日本写真保存センター」調査活動報告(15)

戦後史を彩る写真の数々 ―収集・保存した写真原板から―

松本 徳彦 (専務理事)

「日本写真保存センター」の主たる活動は写真原板の収集・保存と利活用に向けてのアーカイブの構築である。写真原板についてはすでに物故写真家の遺族のもとを訪ね、写真原板の保存状況の調査を行ってきた。ここで問題となったのが「保存環境」で、多くのところで加水分解によるフィルムの劣化(ビネガーシンドローム)の発生があった。わが国の「保存環境」は高温多湿と決してよいものではない。さらに保存についての科学的な情報が一部の専門家だけに留まっていて、現場の写真家にその情報が正しく伝わっていなかったために、フィルムの劣化に気付くのが遅れてしまったきらいがある。保存センターではフィルムの劣化について、マスコミやセミナー、JPSの会報を通して実態と保存対策を公表してきたが、いまだに写真家自身がフィルムの劣化や保存対策を考え真剣に検討しているように思えないところがある。その理由の一つに情報不足に加え保存に適した包材等の入手先が限られ、しかも値段が高いことから使用されていない。これは写真家個人だけでなく、公的機関のフィルムについても同じことが言える。

現在保存センターが収集している写真原板の一部から、敗戦から昭和 35 (1960) 年ごろに撮影されたわが国の戦後史を彩る写真を掲載し、保存センターが収集している内容を紹介すると同時に、各地に眠っている(残されている)フィルム類の発掘と収集に協力をお願いしている。

戦後史を彩る記録と写真家の眼

「写真は時代を目撃者」と呼ばれ、1 枚の写真が物語る内容は言語を超えて多くの人に訴える力を持っている。戦前は勿論のこと敗戦後の日本の姿を知る人も次第に少なくなっている。それだけにその時代の証となる写真記録が貴重になってくる。その時日本人はどんな暮らしをしていたのか、なにを食べ、どんなところに住み、どんな働きをしていたのか。そんな些細とも思える事柄も時を経るごとに記憶から薄れ、苦しかったこと辛かったことは忘れ去り、佳き思い出だけが記憶に留まる。家族の古いアルバムをめくるとその時代の空気がそこに漂っていることに気付く。

写真には出来事や事象だけでなく思い出もいっしょに写し込まれている。写真が「記憶の鏡」と言えるのもそうした記録だけに留まらない不思議な鏡だからなのだろう。東日本の震災時に被災された人たちが真っ先に探したものに「家族アルバム」があったことは記憶に新しい。アルバムが心の拠りどころとなり、癒やしや絆となっていた。

写真保存センターでは様々な写真原板を収集している。会報 154 号で紹介した「原爆長崎の被災状況」(撮影山端庸介 1945 年)のようなドキュメントから、日々の暮らしや風俗、都市景観、銀幕を飾った有名スターたちや文士、芸術家、政治家などの人物像、数寄屋建築に町の家並み、コンテンポラリーな写真表現と多彩である。今回は戦後間もなくの激動した時代を捉えた写真を紹介することにした。

●吉田 潤「額縁ショウ」 1947 年

見渡す限りの焼け跡にバラックが建ち始め、闇市に人が群がり、復興の兆しが見え始める。軍国主義の閉ざされた社会から、民主的な社会に移り変わる戦後混乱期、官能的な裸婦が粗末な仙花紙に刷られたカストリ雑誌

が飛ぶように売れる。昭和 22 (1947) 年「民主化は裸から」の掛け声で始まったのが「額縁ショウ」であった。舞台に額縁が置かれそ

の中に上半身裸の女性がたたずんでいる。そのわずかな数分のショウに大勢の観客が列をなした。抑圧から解放された民衆の姿がそこにあった。撮影したのは吉田潤 (1909 ~ 2003)。戦前満州で活躍し敗戦と共に裸一貫で引き上げ、『週刊サンニユース』で戦後風俗や時の人物を撮影し、『戦後フォーカス 293』を著した。

●エリザベス・ウォルシュ・オハラ 「花嫁衣装の着付け」 1948 年頃

昭和 23 (1948) 年、アメリカン・プレジデント・ライズ社に勤務する夫と共に来日したエリザベス・ウォルシュ・オハラ (1918 ~ 1966) が 1923 年から 54 年まで、西宮市夙川滞在中に捉えた日本人の姿を写真集『JAPAN: 1948 ~ 54』としてアメリカで出版。そこには日本人の日々の暮らしや風習が文化人類学的視点から淡々と記録されていた。オハラは「日本人の忍耐力、独創性、勤勉さ、細やかな心遣い、おもてなし振り、礼儀正しさ、ユーモアのセンス、子供への愛情、家族の絆、内





面的な美と落ち着きを貴ぶ心」に感銘を受けたという。異文化圏から見た日本人観が素直な目で撮られた貴重な写真群である。こうした写真記録も収集し、戦後史に厚みを加えたい。

●フォーレス・プリストル
「破壊され修理を待つ戦車群」 1950 年頃



昭和 25 (1950) 年 6 月に朝鮮半島で勃発した朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国の戦いは、南を支援する米軍を中心とする国連軍と、北に義勇軍を送り込んだ中国軍との戦いに発展。戦乱は 3 年におよび、占領下にあった日本は米軍の基地として軍需物資の調達、戦車や艦船の修理、運輸通信機器の整備など米軍の後方支援で、日本経済の復興をもたらした特需景気に沸く。戦後間もなく来日したイーストウエスト通信社所属のフォーレス・プリストル(1908～97)は、動乱で破壊された戦車や軍用車両の修理状況や国内産業を撮影し、通信社を通して内外に配信した。

●浅野 隆 「浮浪児の取調べ」 1950 年頃



敗戦後の混乱は全国各地で見られた。横浜は米海軍の基地横須賀に近く、戦後も長らく基地機能を残して接収された場所が多く残っていた。市内に歓楽街や風紀地区があり、夜の女や浮浪児を取り締まる警察官の姿が随所に見られた。戦前の東方社で木村伊兵衛の暗室作業を行っていた浅野隆(1926～2013)は、昭和 25 (1950) 年頃から神奈川県警や横浜市警の捜査に同行して撮影に従事する。のち横浜市の広報課に勤務。革新市長といわれた飛鳥田一雄横浜市長のもとで広報誌の撮影を長らく手掛ける。

●佐伯義勝「内灘村の子どもたち」1953 年



昭和 28 (1953) 年 6 月、金沢市の北、日本海岸に広がる砂浜の漁村内灘に「駐留米軍の試射場」が設けられることになり、地元漁民が猛烈な反対闘争を行った。その内灘で佐伯義勝(1927～2012)は「金は一年、土地は万年」のスローガンを掲げて試射場設置に反対する漁民や村民、応援する労組員等を撮影する。その後、昭和 31 (1956) 年の東京立川の砂川町での立川基地拡張に反対する無抵抗の町民や労組員に、警棒を振りかざして襲いかかる警官隊を撮り、迫真のドキュメントとして知られる。以後、経済発展の波に乗って婦人雑誌の料理写真で活躍し、その卓越した表現はこれまでの料理頁を一変させた。

日本にフェアユースはなじむか

山田健太

著作権委員会

ネットワーク社会となった今日、世界経済と流通は情報の渦の中に埋没し、必要且つ正確な情報の把握や運用が難しい時代になっている。アジア太平洋地域に関しては、昨年来継続して開催されてきた環太平洋経済連携協定（TPP）の日米間交渉が難航し、米オバマ大統領の来日時（4月24日）の首脳会談においても早期妥結に向けた閣僚級の交渉継続を確認するにとどまった。

中国、韓国をはじめとする日米安全保障条約と合わせ、日本を取り巻く環境が大きく揺らいでいる今日、TPP関連では知的財産分野における米国主導型交渉の先行きが大変気がかりである。

そこで今回、流通の加速化に伴うアメリカの「フェアユース」導入になった時点を考え、アメリカの「フェアユース」について、造詣の深い専修大学教授、山田健太さんに以下の観点から著作者や写真家への影響も含め、写真家に解りやすい解説をお願いした。

米国の考え方や制度は世界ではどういう位置づけにあるのか、EUでは、アメリカのフェアユースをどのようにとらえているか、欧州とアメリカの著作権の考え方の違い、英国等という「フェアディール」の違いは、アメリカ型のフェアユースが日本に導入された場合の著作者、写真家への影響は、そして、「TPP」との関連性はといった観点から「アメリカにおけるフェアユース」についての理解を深めていただく機会にしたいものである。

（著作権委員会）

著作権とは表現の自由の問題である、といってもピンとこないだろうから、少し大きな話から始めてみたい。表現の自由の対抗的利益として大きく、国家・社会・個人の利益が考えられる。たとえば、国の安全は国家的利益だし、街の美観維持は社会的利益といえるだろう。したがって、政府のヒミツを暴露したとか、ハダカが公序良俗に反するなどとして、1枚の写真をめぐって写真家が捕まるということも起こりうるわけだ。同様に、個人的利益の代表例は、名誉やプライバシーで、これらを毀損したり侵害するような写真は罪に問われることになる。何気ないカットが被写体の肖像権を侵害するとして手痛い出費を強いられることにもなりかねない。

著作権の「例外」設定と表現の自由の「原則」

そして「著作権」もまた、この個人的利益の1つとして守られるということになる。したがって、作者が作品をわが子のごとく愛おしく思う気持ちは、著作者人格権あるいは著作財産権として法的に守られている。

しかし一方で、文化の継承や発展の観点からは、個人的利益をあまりに強く守りすぎると、せっかくの創造物を社会で共有できず、宝の持ち腐れになってしまいかねない。そこで、両者の間には適度のバランスが求められることになる。

その結果、多くの国ではいくつかの「例外」を設定して他人の作品を一定程度自由に利用できるようにし、その結果として自己の人格形成に役立てたり、社会全体の利

益に寄与することを考えている。これらはまさに、表現の自由の意義そのものでもあるわけで、その点からは自由な利用を認めることは表現の自由の「原則」に戻すことともいえることになる。

この時に、「例外」を強調するか「原則」を優先するかで社会の制度が異なってくるわけで、日本は前者の立場にあることから、相当程度厳格に自由利用の場面を限定して、著作権を保護している。具体的には、報道目的、教育目的、裁判目的など、報道機関のストレートニュースや、学校または図書館、裁判における資料や情報公開請求した場合の開示資料など、誰でも簡単に想像できるような事項が法律上に列挙されて、そうした利用法に限り著作者の許可を得ることなく、一般には対価を払うことなく利用ができることになる。

あえて上記に入れなかったが、もちろんもっとも有名な利用のシーンは「私的利用」で、自分のためだけにひっそりと活用している限りにおいて、人のものを自由にコピーしても誰からもお咎めを受けることはない。もちろん、それがオープンになった瞬間、それらは無断複製、剽窃等々と著作権違反になることは言うまでもない。

これに対して、アメリカを代表とする一部の国では「フェアユース（fair use、公正利用）」と呼ばれる、いわば「公共利用」ならば自由に使えるようにしようといった考え方が採用されている（米国著作権法 107 条）。先ほどの「原則」に忠実になれば、著作物として著作者に一定の権利があるに

しても、あくまで原則は自由に利用できるものであって、そのバランス(基準)は社会的利益に合致する、すなわちみんなのため>に活用するのであればよい、とするものだ。

この結果、日本では個別具体的に限定された利用法のみが許されていて、それ以外はほぼ絶対に認められない構図になっているのに対し、アメリカでは利用者は自分の意志で「公共的な利用方法だ(原作者に市場で悪影響がない)」と思えば、いつでも自由に他人の著作物を使うことができることになる。その「歯止め」は裁判所に委ねられており、勝手に使われた著作権者が自分の権利(著作権)を守るために裁判に訴えることで、司法判断として許されるか否かが決まることになる。訴訟社会ならではの社会的解決法であり、判断基準の決め方ともいえる。

グーグルにおけるフェアユースの考え方

こうした制度の裏には、アメリカではもともと「著作権」は「コピーライト(copy rights)」で、著作財産権のことを意味し、人格権としての著作権(著作者人格権)は存在しなかったことも関係があるとされている。したがって、上記の不正利用を訴える裁判においても、自身の財産権侵害を主張することになるのが一般的だ。それはまた、表現の自由に関する憲法上の規定で、「表現の自由を保障する」と定める日本と、「表現の自由を阻害するような法令を制定してはいけない」とするアメリカの違いともいえるだろう。

どちらが絶対的に正しい、というものではないものの、間口を広く開いたうえで絞り込む方法と、特別に許可されたところにだけ小さな穴をあける方法では、全く考える方向性は逆であることに気づいてもらえるのではないか。少なくとも日本では、フェアユースの導入に躊躇するのは、こうした根本的な「最初の1歩」に大きな違いがあるからだ。

通常は海を隔てた国の話で、直接、私たちに関係してこないはずであるが、デジタル時代を迎え、表現物がインターネットを通じて世界中を行き来するようになったことで、別の国の話とは言っていられなくなっている。たとえば、2000年代後半から起きたグーグルが提供するサービスの一つである「ブック検索」を巡る訴訟がある。そこではグーグルが、図書館の所有する蔵書(出版物)を著作者の意思とは関係なく「勝手に」スキャンし、そのデジタルデータを「勝手に」に公開するというを行ったからである。結果として、ネット上で仮想の図書館が生まれ、私たちは家に居ながらにして世界中の本が読めるという夢のような世界が実現するはずであった。

グーグルは裁判において当初は明言していなかったが、まさにフェアユースの考え方に則ったといえるだろう。これに対し、米国をはじめ、日本を含む世界中の作家や出版社が声を上げ、裁判として争われることとなった。結果として英語圏を除いて、グーグル公開データは制限されることになり(スキャンしたデジタルデー

タ自体は保有し続けているが)、日本の場合でいえば、ブック検索自体はサービス提供されているものの、書籍の一部もしくは全部公開は著作権者の許諾を得たもの以外は原則行われていない。

写真著作権(物)とフェアユースの関係

もともと写真集は対象外であったので、写真家の間ではあまり大きな問題にならなかった節もあるが、いったん世に出た著作物(出版物)が誰のものかを問う、ターニングポイントになる事件であった。裁判自体はまだ最終決着がついていないものの、事実上、そしてなにより世間では、作者を含む多くの人がグーグルの行為を支持し、ネット上で自由に著作物を読める状況を望んだことが重要である。

すなわち、インターネットによって著作物の公開・非公開を、だれもが自分の手で容易に行えるようになったことで、著作権法は一部の著作者や権利者のための「業界法」から、誰もが関係する「お茶の問法」に変質したのである。また同時に、デジタル化によって劣化することなく、これまた誰でもが容易にコピーすることが可能になって、個別例外規定が無効化する事態が急速に進行している。

そうしたなかで、一般例外規定と呼ばれる「フェアユース」が脚光を浴びて、日本でも導入しようという声が高まっているわけだ。あるいは、米国のフェアユースより目的が多少絞り込まれ、制限的な英国のフェアディール(fair dealing)なら日本でも適用可能ではないかとの声もある。しかし現実的には、日本では著作権者である写真家や作家の法的地位がきちんと守られているとは言い難い面があるほか、なによりも日常的に権利の争いを裁判所に判断を委ねるという社会的制度ができていない。そうしたことから予測可能性にも乏しく、いったいどこまでが良くてどこからが悪いのかが、曖昧になってしまう可能性がきわめて高いといえるだろう。

したがって、少なくとも当面の間は、現行の個別的な例外規定によって限定的に利用を認める手法を継続しつつ、作り手であり送り手である写真家は、デジタル・ネットワーク時代に対応した作品の発表方法を提案していく必要があるだろう。そのひとつは、「自由利用」と呼ばれる方法で、特定の作品については利用者が一定のルールを守れば自由に使ってもらえるようにするなどである。これはいわば、フェアユースの進化した型ともいえるだろう。

略歴：山田健太(やまだ・けんた)

専修大学人文・ジャーナリズム学科教授。専門は言論法、ジャーナリズム論。日本ペンクラブ理事・言論表現委員長ほか。大学では日本写真家協会と協力講座「報道写真論」を展開中。近著に、『3.11とメディア～新聞・テレビ・WEBは何をどう伝えたか』(トランスビュー)、『言論の自由～拡大するメディアと縮むジャーナリズム』(ミネルヴァ書房)、『ジャーナリズムの行方』(三省堂)、『法とジャーナリズム 第2版』(学陽書房)、『現代ジャーナリズム事典』(三省堂、監修)など。

おめでとうございます

2014年3月、スウェーデンのハッセルブラッド財団は、創業者夫妻の遺言で1979年に創設された「ハッセルブラッド国際写真賞」に石内都さんを選び賞金を贈った。本賞はアンセル・アダムス、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、アーヴィング・ペン、ロバート・フランクなど世界15カ国から33人の錚々たる写真家が毎年選ばれ、これまでにわが国からは濱谷浩と杉本博司が受賞している。

—— この度は受賞おめでとうございます。石内さんの35年間にわたるひたむきな創作姿勢と作品の独自性、たゆまぬ探究心と革新性、次世代を刺激する先駆性が評価されたと受賞理由に挙げられています。

石内 ありがとうございます。世界の錚々たる方々が受賞されていることに驚いています。受賞の対象となった写真は2005年に催されたヴェネツィア・ビエンナーレに出展した「Mother's 2000 - 2005 未来の彫印」があると思います。

それと2013年のロンドン、カナダで催した原爆被爆者の服飾品を撮った「ひろしま」が評価されたようです。いずれも世界各国の何万人もの人に見られたというのは大きい。それと写真を見る目は厳しいが、人種や男女の区別なく評価されたことが嬉しい。1979年に木村伊兵衛賞をいただいた時、カメラ雑誌と無縁だった女性がもらったことに、「どこの馬の骨だ」と言われたのはショックでした。その意味では「いいものはいい」とストレートに評価されたことが一番嬉しく思います。

—— 石内さんは1947年桐生で生まれ。横須賀で育ち、多摩美大デザイン科で染織を専攻されており、写真を撮り始めたのは1975年と遅咲きですね。

石内 写真技術のことは何も知らないまま、我流で始めました。育った横須賀はアメリカに占領された街ですが、ドキュメントしようといった考えはなく、気付いたものを淡々と撮り、現像液を溶いた高温のまま現像するといった無謀なことを平気でやっていました。30℃で20分も現像したため、真っ黒い濃度のフィルムができ、印画紙に何分も露光するといった異常さでした。それが結果的にあのザラザラとした粗い調子のプリントになり、1977年「絶唱・横須賀ストーリー」が生まれ、粒子の美しさを感じさせたようです（笑）。続いて1978年に「アパートメント」、1980年に「連夜の街」と立て続けに展覧会を開き、写真集を出しました。この3部作は斬新な表現と評価されましたが、これで何かが

終わった感じでした。

1990年になって自分と同年齢の女性の人の手足を接写した「1・9・4・7」を発表し新境地を求めました。詩人の伊藤比呂美や舞踏家の大野一雄の肌に歴史を感じ、刻まれた傷をテーマに「Scars」を1999年に発表し、表現を一変させました。

そこから生まれたのが、母の遺品と、亡くなる年に撮った身体の一部をクローズアップした「Mother's」（2002年）でした。広島市の平和記念資料館で被爆者の衣服を撮る機会があり、逆光で見ると素材や織りの透명한美しさに驚き、染織をしていたので、遺品というより当時の流行や着飾っていた人の雰囲気のようなものを感じながら撮りました。

—— 初期の3部作のころは、自分の写真は「創作であって、記録ではない」と話されていたようですが、いまはどのように感じられ、どのようにものを観察されているのかを話して下さい。

石内 そうね。写真は表面しか撮れないというけど、実は人が記憶している歴史や痛みといった内面的なものに関心が広がっている。「時間や記憶」を撮っているというのかな…。

今回の受賞評では、「横須賀」のような記憶を軸とする自分史と、「Mother's」や「Scars」などの心のキズに日本の近現代史が交差するところを表現しています。初期から今日まで「極めて首尾一貫した制作姿勢と、強固なまでの独自性のある表現方法」が評価されると言われ、自分がやってきたことが評価されたことに感謝しています。勿論これからも変わることなく、自分の視点で写真を続けていきたい。

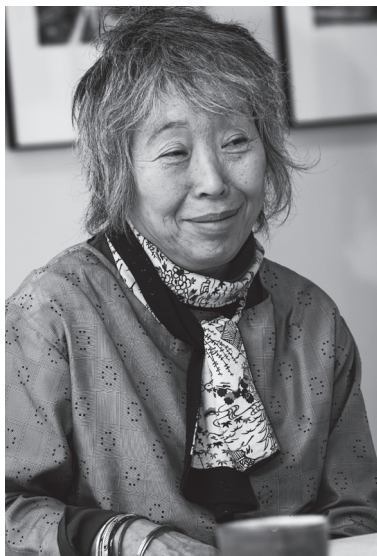
—— 最後に一言。

石内 納得がいけないことはしないだろうし、まだまだやりたいこともあるし、「写真には未来がある」と、この受賞で感じました。最近では女性の写真家が増えてるので、次の世代を担う女性にもっと活躍して欲しいと思います。受賞記念の写真展はスウェーデンのイエーテボリ市立美術館内のハッセルブラッドセンターで2014年11月4日から。2015年9月にはロスアンゼルスJ・ポール・ゲティ美術館で「Postwar Shadows」が予定され、国際的な活動でますます忙しくなりそうです。

—— ありがとうございました。

（平成26年3月26日：ツァイト・フォト・サロンにて
聞き手／松本徳彦 撮影／飯塚明夫）

「ハッセルブラッド国際写真賞」受賞



石内都さん

おめでとうございます

——この度は、第33回 土門拳賞の受賞おめでとうございます。今回、受賞の対象となったのは写真展「不知火海 The Minamata disease Disaster」と写真集『水俣事件』の二つということですが、受賞して感じたことなどを聞かせてください。

桑原 ありがとうございます。受賞の第一報を電話で受け取ったときは、正直驚きました。「青天の霹靂」というのは、こういうことを言うのだろうと思いました。しかし、その対象となったのが水俣の事件だったことには、戸惑いがありました。これは授賞式でもお話ししたのですが、水俣事件はまだ係争中の大きな事件なんです。これまでに2,000人を超える方が亡くなっていますし、新潟の水俣病も含めると認定患者が約3,000人。水俣病救済特別措置法の対象者は65,000人にものぼります。僕はその事件の周辺をうろついて写真を撮っていた、いわば門外漢です。そういう部外者がスポットライトを浴びることに、正直負い目を感じてしまいました。最終的には「素晴らしい賞なので、ありがたくいただきます」と伝えましたけれど、最初は本当に困ったなあと思いました。

実は、水俣でもう何年も取材させてもらっていて、親しくさせていただいている10家族があるのですが、その方々には受賞のことを伝えられないでいます。新聞などで受賞のことを知った方からは「おめでとう」と言ってもらっていますけれど、ご家族の気持ちを考えると、どう伝えたらいいのかわからなくて…。

—— 長い間、ひとつのテーマで取材を続けることには、いろいろご苦労があったと思うのですが。

桑原 水俣での取材は慣れた場所でもあり、砲弾も飛んできません。慌てず、怠らずに淡々とやってきたことが、続けられた理由だと思います。しかも正確には、継続してきたというわけではなく、断続的に50年続いてきたものです。水俣の取材を始めたのは1960年からですが、1964年からは激動の韓国の取材にも行きましたし、その後もベトナム戦争や他の取材にも行ったりしていました。日本に帰ってきて、思い出したように、また水俣に行こうというような感じでした。取材に行かない年もありましたよ。他の取材先では、水俣のことなどすっかり忘れてしまっていましたから、薄情なものです。

—— 半世紀に亘るほどの取材になるという予感のよなものはありましたか？

桑原 取材を始めた当初から、「これは一過性の事件で

はないな」ということを強く感じていました。取材の対象となるテーマには、それぞれ器の大きさのようなものが存在すると考えていますが、水俣事件の大きさは、普遍的で超弩級のテーマだと思っていました。水俣事件というのは、「平時の戦場、紛争地」のようなものです。

—— 写真集や写真展にまとめることにおいても苦労があったと思うのですが。

桑原 苦労はあまりありませんでした。写真集はこれまで、いろいろなテーマで30冊ほど出版してきましたが、自費出版では出さないという主義でやってきました。この本も出版社の理解があって出せたものですが、印刷されればめっけものであるという考えでおりました。本としてまとまれば足跡として残ります。そして後世に伝えられる。それが重要なんだと思います。写真集『水俣事件』は、できるだけ安い値段で出版して、多くの人に手にしてもらいたいということで4,000円を切る価格で出せるようにということを出版社の方にお願いしました。

また、土門拳賞の受賞作の写真展が、銀座と梅田ニコンサロン、土門拳美術館をはじめ、外国特派員協会のラウンジ、池袋の床屋ギャラリー、丸の内の快晴堂ギャラリー、津和野にある桑原史成写真美術館など、今のところ9月までに7会場で開催される予定になっています。多くの方にご覧いただければと思います。

—— 今後の取材活動の予定などが決まっていたらお聞かせください。

桑原 実は、先のことはあまり考えていません。傘寿(80歳)まであと3年となった僕のこれからの人生は、サッカーで言えばロスタイムに入ったようなものだと思っています。これまで、

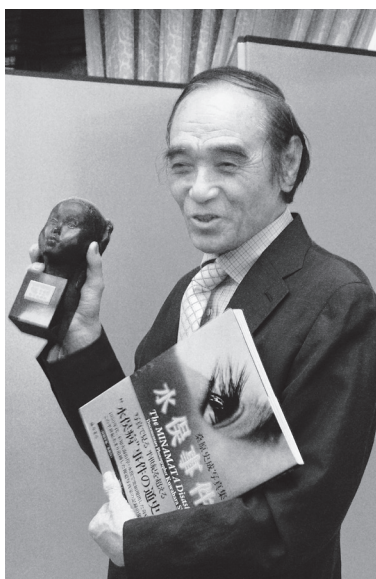
それなりに得点できたという自負はありますから、ここからさらに追加点を取ってやろうとは考えていません。けれども残された時間の中で、これまでの取材を補足することはできると思っています。現在、フィルムだけです。後世にきちんと残し、伝えていきたい。焦らず、怠らず、そしてくよくよせずにやっていこうと思っています。

ですが、もし生まれ変わったとしても、この職業だけは絶対にやりたくない。経済的な不安定さというのはどうしようもないものがあります。表現すべきこと、やるべきことはやったという思いはありますが、辛い時期もありましたから…。

—— ありがとうございます。

(取材：平成26年4月23日 JPS 会議室、撮影：4月16日授賞式会場にて 聞き手／柴田 誠 撮影／小池良幸)

「第33回土門拳賞」受賞



桑原 史成 さん

第39回 2014JPS 展開催

写真展事業担当 理事 熊谷 正

第39回2014 JPS展は、公募部門の応募者数2,165名、応募枚数7,298枚となり、全国の写真愛好家の力作が集まりました。また、20歳以下部門への応募数が増加し、若い世代への着実な浸透を感じるようになりました。その公募部門の審査結果発表は、例年同様3月中旬に行いましたが、文部科学大臣賞と東京都知事賞を受賞したお2人は、ともに66歳、写真を撮ることで益々元気になっているそうです。私的な写真が溢れる日本の写真界の中で、ストレートな手法で捉えた作品が上位になったことは、写真の力である記録性を再認識することができ、有意義なことであります。

今回のJPS展の講演会は、長年、日本の親子を撮影し、ソーシャルアクションとして「親子の日」を提唱している米国人写真家ブルース・オズボーン会員にお願いいたしました。

更に、会期中には、JPS展アトリエセミナーとして「デジタルおもちゃ箱」を開催し、岩本朗会員による「お手軽ライティング術」「タイムラプス超入門編」のレクチャーがありました。また、上位入賞作品を中心に作品解説をする、例年好評となっているフローアレクチャー

も行いました。

会員部門では新たな企画として「プロの眼」を展示しました。

最後になりましたが、2014 JPS 展開催にあたり、東京都写真美術館をはじめ、様々な形でご支援ご協力をいただいた関係各位に感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

応募者総数	2,165 名	7,298 枚
入賞・入選者数	291 名	499 枚
会員出品者数	50 名	150 枚
ヤングアイ参加数	17 校	17 枚



公募作品審査風景 撮影：天神木健一郎
審査員（左から）、石橋睦美、長倉洋海、田沼武能（審査員長）、前田利昭（『日本カメラ』編集長）、ハナブサ・リュウの各氏

東京展

東京都写真美術館／5月17日（土）～6月1日（日）月曜休館
（B1F 展示室） 10：00～18：00（木・金20：00まで）

共 催／東京都写真美術館

後 援／文化庁、東京都

協 力／パナソニック株式会社

表彰式／5月17日（土）13：00～14：30

講演会／5月17日（土）15：00～16：30

東京都写真美術館 1F ホール

「写真の可能性～ソーシャルアクションとしての『親子の日』～」講師：ブルース・オズボーン（JPS会員）

受賞パーティー／5月17日（土）17：00～19：00

恵比寿ガーデンカフェ

アトリエセミナー／5月24日（土）10：30～15：30

東京都写真美術館 1F アトリエ（創作室）

「デジタルおもちゃ箱」第一部10：30～「お手軽ライティング術」、第二部13：30～「タイムラプス超入門編」

講師：岩本 朗（JPS会員）

協力：株式会社ケンコー・トキナー、株式会社よしみカメラ

フロアレクチャー／会期中随時

名古屋展

愛知県美術館／7月1日（火）～7月6日（日）
（展示ギャラリーE、F室） 10：00～18：00
（金曜日20：00閉館、最終日17：00閉館）

後 援／文化庁、愛知県、愛知県教育委員会、
名古屋市、名古屋市教育委員会

表彰式・講演会／7月5日（土）19：00～20：30

愛知芸術文化センター12階A室

「写真集『村の記憶』そこからはじめたこと。」

～里山在住写真家活動報告2014～

講師：松原 豊（JPS会員）

イベント／7月5日（土）10：00～11：30

愛知芸術文化センター12階A室

「ステップアップ！写真家が教える撮影のポイント

&写真何でも相談室」

講師：森田廣実、加藤智充（JPS会員）

文部科学 大臣賞

賞状・楯・副賞
賞金 50 万円

高田 泰子 (埼玉県)

「本番前 (95 才)」 カラー単写真



東京都 知事賞

賞状・楯・副賞
賞金 30 万円

中澤 仁 (愛知県)

「往く夏」 カラー 3 枚組



20歳以下部門

最優秀賞

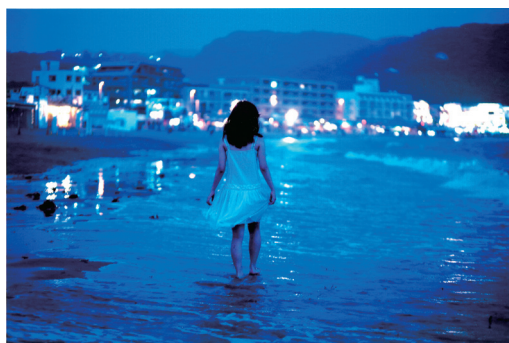
賞状・楯・副賞

高橋 佳沙音

(東京都)

「光海」

カラー単写真



関西展

京都市美術館別館／7月22日(火)～7月27日(日)
9:00～17:00

後援／文化庁、京都府、京都府教育委員会、
京都市、京都市教育委員会

表彰式・講演・講演会／7月25日(金) 13:00～16:30
京都市国際交流会館イベントホール

「アイヌ民族に寄り添って～取材22年目を迎えて～」

講師：宇井真紀子 (JPS 会員)

イベント／7月22日(火) 10:00～16:00

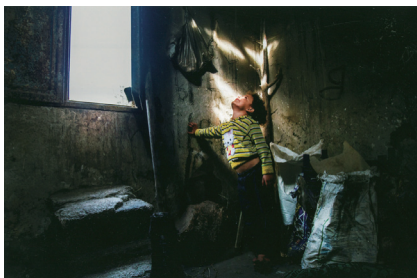
「浴衣で撮影教室」 講師：柴田明蘭、大道雪代、
田口葉子、西村仁美 (JPS 会員)

協力：株式会社ニコン・株式会社ニコンイメージング
ジャパン、エプソン販売株式会社

金賞

賞状・楯・副賞
賞金 15 万円

川畑 嘉文 (千葉県)
「シリア難民の子どもたち」
カラー 5 枚組



銀賞

賞状・楯・副賞
賞金 10 万円

加藤 泰子 (愛知県)
「空中遊泳」 カラー 3 枚組



銀賞

賞状・楯・副賞
賞金 10 万円

藤井 のぼる
(徳島県)

「瀬戸内沿岸 2013」
カラー 3 枚組



銅賞

賞状・楯・副賞
賞金5万円

金森 光紀 (岐阜県)

「ビッグマウス」 カラー単写真



銅賞

賞状・楯・副賞
賞金5万円

木村 正司 (滋賀県)

「春夏秋冬」 カラー4枚組



銅賞

賞状・楯・副賞
賞金5万円

保屋野 厚 (東京都)

「竜巻被害」 カラー4枚組



【ヤングアイ部門】

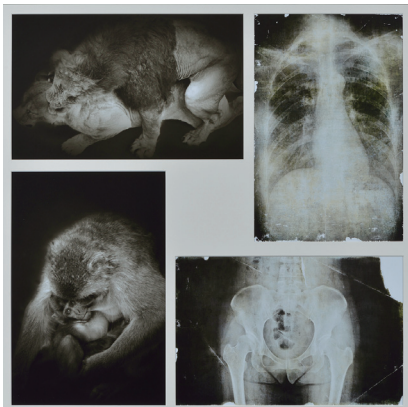
日本写真家協会 会長賞

賞状・メダル・副賞

日本大学芸術学部
写真学科

タイトル
「生 -Ontology-」

重松 駿
陳 程



ヤングアイ 奨励賞

賞状・メダル・副賞

専門学校 札幌ビジュアルアーツ
写真学科

タイトル「SSS~Sapporo Street Style~」
松田健太郎、本塚貴之



フレームマン

フレームマン・ギンザ・サロンは、写真愛好家の皆様へ、スペシャルプライス企画をご用意しております。

◇ミニギャラリー：作品 15 点まで ¥30,000(税込)

◇ギャラリー：作品 30 点まで ¥150,000(税込)

開催期間は1週間。作品は半切 or A-3。額装費・加工費・レンタルフレーム費・会場費・展示撤去作業費・キャプション&ご挨拶、そして消費税まで全てを含んでおります。



審査や制約はございません。先着順にて、大好評受付中です。

会員の皆様はもちろんのこと、ご指導されている写真教室の生徒の皆様や、写真を始めて間もない方、個展にグループ展に、ぜひご利用下さい。

写真愛好家の皆様が集まる場所、賑やかで活気の有る、元気が出るスポットとして、フレームマン・ギンザ・サロンは皆様を心よりお待ちしております。

株式会社フレームマン

フレームマン・ギンザ・サロン事務局

担当：筒井(つづみ)

連絡先：〒104-0061 東京都中央区銀座5-1

銀座ファイブ2F

TEL&FAX：03-3574-1036(フットサロン)

Mail：ginzasalon@frameman.co.jp

HP：http://www.frameman.co.jp

ケンコー・トキナー

iPhone5/5s をクラシックカメラに

ケンコー・トキナーでは、2014 年 1 月から、GIZMON ブランド(有限会社アドプラス製)の iPhone カバー「iCA5(アイカ5)」を発売しています。iCA5 は、アップル社製スマートフォン「iPhone5」「同 5s」に対応し、こだわりのパーツによるカバーで、お持ちの iPhone をまるでクラシックカメラのような外観とすることができます。

iCA には、シャッターボタン、ファインダーを備えており、撮影スタイルをカメラとしての形で進めることができ、さらに別売アクセサリーの「GIZMON iCA FLASH」(クラシックスタイルの LED ライト)、「GIZMON REMOTE SHUTTER」(フィルム型リモートシャッター)を活用すれば、よりファッショナブルに iPhone での撮影を楽しむことができます。

楽しさが広がる GIZMON



iCA。ぜひ WEB サイトをご覧ください。

http://gizmon.com/ja/

株式会社ケンコー・トキナー

担当：広報・宣伝課 田原 栄一

連絡先：〒161-0031 東京都新宿区西落合 3-8-19

TEL 03-5982-1069 FAX 03-5988-9305

Mail:etahara@kenko-tokina.co.jp

ニコンイメージング ジャパン

ニコンデジタル一眼レフカメラ「ニコン Df」が、「カメラグランプリ 2014 大賞」「カメラグランプリ 2014 あなたが選ぶベストカメラ賞」をダブル受賞

「Df」は、2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日までの 1 年間に日本国内で発売されたスチルカメラの中から、もっとも優れた 1 機種として「カメラグランプリ 2014 大賞」に選出されたと同時に、一般ユーザーの投票により選ばれる「カメラグランプリ 2014 あなたが選ぶベストカメラ賞」を受賞しました。

「AF-S NIKKOR 58mm f/1.4G」が、もっとも優れたレンズに与えられる「カメラグランプリ 2014 レンズ賞」を受賞し、「カメラグランプリ 2014」の 4 つの賞のうち 3 つをニコン製品が受賞しました。

http://www.nikon.co.jp/news/2014/0520_camera-gp-2014_01.htm

また、「D4S」が「TIPA アワード 2014」の「ベスト プロフェッショナル デジタル一眼レフカメラ」を受賞。有効画素数 1623 万画素、新画像処理エンジン「EXPEED 4」と新開発の FX フォーマット CMOS センサーによって高い鮮鋭感と立体感のある静止画を実現。さまざまなフレームレートでのフル HD 動画撮影も可能だ。広い常用感度域を実現し ISO 409600 相当までの増感もできる。新たに「グループエリア AF」を搭載した 5 つの AF エリアモードと AF・AE 追従で約 11 コマ/秒*の高速連続撮影機能を連動させることで、撮影の高速化を実現している。※ AF モードが AFC で、露出モードが S または M、1/250 秒以上の高速シャッタースピードで、その他が初期設定時。

http://www.nikon.co.jp/news/2014/0509_tipa_01.htm



【製品に関するお問合せ】

ニコンカスタマーサポートセンター ナビダイヤル 0570-02-

8000

株式会社ニコンイメージングジャパン

担当：プロマーケティング部プロ企画課：相馬 政則

連絡先：〒104-0061 東京都中央区銀座 7-10-1

STRATA GINZA

TEL:03-5537-1506 FAX:03-5537-1471

タムロン

世界初* 約 18.8 倍ズーム
16-300mm 高倍率ズームレンズ。
手ブレ補正機構「VC」と超音波モーター「PZD」搭載で新発売

現在、タムロンでは APS-C サイズデジタル一眼レフカメラ用の高倍率ズームレンズとして 18 - 270mm (Model B008) を発売しており、15 倍ズーム、高画質、快適なオートフォーカス、手ブレ補正機構搭載、さらに大幅なダウンサイズを実現した画期的なレンズとして、全世界で高い評価をいただいています。



そして、この度、さらに広角に、さらに望遠というお客様からのご要望に応え、全く新しい設計を採用し、これまでになく広角端 16mm から望遠端 300mm までの幅広い焦点距離をカバーする高倍率ズームレンズを 4 月 24 日にキャノン、ニコン用同時にて発売致しております。

今後とも、タムロンは高い評価をいただけるレンズを開発してまいります。何卒、タムロンレンズにご注目いただけますようお願い致します。

※デジタル一眼レフカメラ用交換レンズにおいて(2014 年 4 月現在、タムロン調べ)

タムロンレンズ お客様相談窓口 ナビダイヤル 0570-03-7070

株式会社 タムロン

担当：マーケティング・コミュニケーション室 青木隆幸

連絡先：〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼 1385 番地

TEL048-681-1513 FAX 048-681-1514

学研パブリッシング

「CAPA」「デジキャパ!」を発行している学研パブリッシングでは、最新カメラの情報や写真テクニックに関するムックを多数発行しています。

「最新版フォトショップエレメンツ・30 日でマスター」は、画像加工ソフトとしておなじみのフォトショップエレメンツの操作方法をわかりやすく解説。その名のとおり、1 日 1 テーマずつ丁寧に説明していくので、初心者でも非常にわかりやすい構成となっています。また、切り抜き、不要な物を消したりと



いった加工も1ステップごとに詳しく解説。まさにカメラファンのための画像編集ガイドです。

「ニコン一眼レフのすべて」は、ニコンファンのための1冊。ニコン初の一眼レフモデルであるF1にはじまり最新デジタル一眼レフのDfまで、全一眼レフモデルの歴史を網羅。プロ向けフィルム一眼レフはFからF6までの各モデル変遷の紹介や50ミリの撮り比べなど、非常に資料性の高いつくりになっています。

発行=学研パブリッシング

発売=学研マーケティング

フリーダイヤル 0120-92-5555

<http://capacamera.net/mook/>

リコーイメージング

映像表現の頂点を目指した中判デジタル一眼レフカメラ「PENTAX 645Z」を新発売
～新型CMOSイメージセンサー採用、有効約5140万画素の超高精細とライブビューを実現～

本製品は、定評のある防塵防滴構造に加えてさらなる高画質と信頼性の向上を追求しイメージセンサーや画像処理エンジンを一新、有効約5140万画素という超高精細で立体描写に優れた画像を実現しています。また、最高約3コマ/秒の連写性能、高精細なチルト式液晶モニター、最新のAFシステムとライブビュー機能、高精度な露出制御、耐久性能を向上したシャッターユニット等、主要な機能の大幅な強化と動作レスポンスの向上を図ることで、プロの現場に必要なとされる機動性も備えています。



フィルムデュプリケーター
写真撮影の感覚でフィルムのデジタル化が可能

35ミリ判(24×36mm)から69判サイズまでのボジ/ネガフィルムを、「スキャン」ではなく「撮影」によって複写し、画像をデジタルデータ化する為の装置です。



リコーイメージング株式会社

担当: 東日本営業部 プロ機材グループ 原 清文

連絡先: 〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-1

TEL 03-3580-2052(ダイヤルイン)

Mail: kiyofumi.hara@ricoh-imaging.co.jp

清里フォトアートミュージアム

清里フォトアートミュージアム(K・MoPA)開館20周年 記念

原点を、永遠に。

世界の若い写真家の情熱を未来に伝える
「ヤング・ポートフォリオ」20年の軌跡

■主催: 清里フォトアートミュージアム

■共催: 東京都写真美術館

■会期: 2014年8月9日(土)～24日(日)

■会場: 東京都写真美術館・地下1階展示室

■開館時間: 10:00～18:00 木・金は21:00まで [入館は閉館の30分前まで]

■休館日: 毎週月曜日

■入場料: 無料

清里フォトアートミュージアム(館長: 細江英公)のヤング・ポートフォリオ(YP)は、写真を通して世界の若者を育てる文化支援で、1995年の開館から継続しています。YPは、若者の創造性に富んだ力作を35歳まで何でも公募購入、成長を見守ります。また、作家の個性を重んじてポートフォリオを購入・展示、活動を応援します。そして、若者の才能の真価を世に問い、美術館に収蔵、作品を後世に伝える、世界で唯一の企画です。過去20年の応募総数は、世界74カ国、のべ9,191人、106,224点。本展では、当館が購入した698人、5,296点から選出した作品と、選考委員を務めた日本を代表する写真家35人による青年期の作品を併せ、約500点を展示いたします。ぜひご来場ください。

清里フォトアートミュージアム

担当: 広報主任 小川直美

連絡先: 〒407-0301 山梨県北杜市高根町清里 3545-1222

TEL 0551-48-5599 FAX 0551-48-5445

Mail: ogawa@kmopa.com

<http://www.kmopa.com>



(左) 亀山亮(日本、1976)

《コンゴ 忘れ去られた戦争/モンゴロ食糧不足のためコンゴ軍に投降した武装勢力の兵士》2005

© Ryo Kameyama

(右) ハンネ・ファン・デル・ワウデ(オランダ、1982)

Hanne VAN DER WOUDE

《MCIR(自然な赤毛)―モニカ》2007

MCIR(Natural red hair)―Monica

© Hanne van der Woude

キャノンマーケティングジャパン

EOS 5D Mark III などに対応する
「USB プロテクター」を取扱い中

本製品は、カメラとPCを接続した状態で撮影するリモート撮影(テザー撮影)を行う際の、USBケーブルの抜けやカメラ本体のUSBコネクタの損傷を防止する株式会社新進テック製のプロテクターです。

■商品名・価格

USB プロテクター 標準タイプ 22,000円(税別)

USB プロテクター ラージタイプ 23,000円(税別)

■対応カメラ

EOS 5D Mark III、EOS 5D Mark II、EOS 6D、EOS 7D

■USB プロテクターの特徴とメリット

1. ケーブルの抜けを排除できます。
2. ケーブルへの不慮の接触に伴うコネクタの損傷を防ぐことができます。
3. アルミダイキャスト製の本体がコネクタ類へのダメージを防ぎます。
4. アルミダイキャスト製のサイドプロテクターに専用USBケーブルを固定でき 自由な撮影が可能です。
5. 底面には三脚用のねじ穴があり、三脚や無線装置(WFTシリーズ)の取り付けが可能です。
6. 重量軽減を考慮しアルミ軽量合金ダイキャストを使用しています。
7. 使用材料はRoHS指令(特定有害物質の使用制限)をクリアしています。



■主な取扱店

プロショップおよび一部の一般カメラ店で取扱いをしております。

■「USB プロテクター」に関するお問い合わせ

キャノンマーケティングジャパン株式会社

フォトソリューション推進課

TEL: 03-6719-9754(直通)

キャノンマーケティングジャパン株式会社

担当: プロサポート部 キャノンサロン課: 松岡 史洋

連絡先: 〒104-0061 東京都中央区銀座3-9-7

トレランス銀座ビルディング

TEL 03-3542-1831 FAX 03-3542-1857

Mail: matsuoka.fumihiko@canon-mj.co.jp

(構成/伏見行介)

Windows XP を使い続けていませんか？

～マイクロソフトによるセキュリティ対策が終了／
最新 OS 環境への速やかな移行を～

マイクロソフトは2014年4月9日(米国では4月8日)を以って「Microsoft Windows XP」のサポートを終了しました(図1)。

Windows XPは個人ユーザーだけではなく企業や官公庁でも数多く使われており、サポート終了の影響がきわめて大きいため、一般のニュースでも連日のように取り上げられたことはまだ記憶に新しいかと思います。また、2014年4月1日からの消費税増税(5%→8%)とタイミングが重なったこともあって、3月後半にはパソコンの買い替えが集中し、メーカーやモデルによっては一時的な品不足も発生しました。

画像処理や動画編集の分野では伝統的にアップルのMacintosh(OS X)が優勢ですが、写真家やカメラマンの中にもWindowsユーザーは少なからずいると考えられます。そこで、Windows XPを使い続けているユーザーへの注意喚起も兼ねて、Windows XPのサポート終了について状況や影響をまとめておきます。

◆ マイクロソフトのサポートとは？

さて、「Windows XPのサポートが4月9日で終了」などと言われますが、この「サポート」とは何を表しているのでしょうか。

マイクロソフトは、「マイクロソフト プロダクト ライフサイクル ポリシー」として、ソフトウェア製品の発売日から少なくとも10年間は、ソフトウェアの不具合(いわゆるバグ)やセキュリティの脆弱性(セキュリティホール)を修正する「更新プログラム」を提供することを約束しています(ポリシーではほかにもいくつかの事項が定められていますが、本稿では省略します)。

更新プログラムの適用によってソフトウェアは安全な状態に保たれるため、ユーザーは安心して使い続けることができますよ、というのがマイクロソフトのいう「サポート」です。

Windows XPの発売日は、英語版が2001年10月25日、日本語版が2001年11月16日ですから、マイクロソフトのポリシーである10年間を越えてサポートが続けられてきたことになります。「12年以上も頑張ったのですから、Windows XPのサポートはもう終わりにさせてください。代わりに新しいWindowsを使ってください」というのが、今回のサポート終了の背景と考えればいいでしょう。

◆ サポートが終了するとどうなるの？

サポート終了後は、仮にWindows XPに不具合や脆弱性が見つかったとしても、マイクロソフトは更新プログラムを提供してくれません。

では、更新プログラムが提供されないとどのような問題が生じるのでしょうか。

Windows XPは誕生から12年以上が経過し、その間に数多くの更新プログラムを通じて不具合や脆弱性が修正されてきました。普通に考えると、Windows XPはいわゆる「枯れた」(安定した)システムになっていて、更新プログラムが提供されなくてもとくに問題はないように感じられます。

ところが独立行政法人・情報処理推進機構の発表によれば、2013年だけでもなおも123件もの脆弱性がWindows XP上で発見されたそうですし、また、マイクロソフトの発表によれば、Windows XPはWindows 8に比べて「マルウェア」(悪意を持って作成された不正ソフト)の感染率が21倍も高いとされています。

つまり、マイクロソフトのサポート終了後も新たな脆弱性が見つかる確率はきわめて高く、かつ、そうした脆弱性を突いてくるようなマルウェアや「サイバー攻撃」(インターネットを利用した不正行為)に対して、Windows XPは決して強固ではないといえます。

◆ どのような影響が出るの？

サポートが行われないWindows XPを使い続けるとどのような影響が出るのでしょうか。

マルウェアやサイバー攻撃の手口は年々高度化していますし、どのような脆弱性が今後発見されるかは予見できないため、具体的な影響や被害について予測は困難です。

ただし、セキュリティの専門家の見解などを総合すると、最悪の場合、以下のような深刻な問題が生じる可能性が指摘されます。

- (a) ハードディスクに保存してあるファイルが外部に流出する、または消去される。
- (b) パソコンの操作をロックし、金銭を支払わないとファイル等を削除すると脅迫する、「ランサム(人質)ウェア」に感染する。

(c) オンラインバンキングやインターネットショッピングなどのアカウントが乗っ取られ、本人が知らないうちに送金や決済が行われてしまう。

(d) マルウェアが添付されたメールが自分のパソコンから第三者に宛てて送信される。

(e) 自分のパソコンが遠隔操作され、第三者のコンピュータに対してサイバー攻撃が行われる（「踏み台」と呼ばれる攻撃方法で、踏み台にされたパソコンは「ゾンビ」と呼ばれ、訴訟の対象になる恐れもあります）。

自分自身に被害が及ぶだけではなく、第三者にまで被害を拡散させる可能性があることは頭に入れておくべきでしょう。たとえば取引先から受領していた重要ファイルや顧客情報などを流出させてしまえば業務の信用を失いかねません。

なお、マルウェア感染やサイバー攻撃はユーザーに気づかれまいに行われることも多いため、被害が顕在化する頃には手遅れになっている可能性が高いとされています。

◆ ウイルス対策ソフトがあれば大丈夫！？

一般に「ウイルス対策ソフトを使っていれば、サポート終了後も Windows XP を使い続けても大丈夫では？」と考えてしまいがちですが、決してそのようなことはありません。最近ではウイルス対策ソフトだけでは防御できないサイバー攻撃が増しているからです。

たとえば、正当のウェブサイトを装いながらも、Windows XP の新たな脆弱性を突くような特殊なプログラムを埋め込んだ「詐欺サイト」（フィッシングサイト）にユーザーを誘導するような手口は、ウイルス対策ソフトだけでは検知できない可能性が十分に考えられます。

事実、後述する Internet Explorer で見つかった脆弱性は、ウイルス対策ソフトでは対処できませんでした。

◆ ではどうすれば？

抜本的な対策はマイクロソフトが主張するように Windows XP の利用を速やかにやめるしかありません。すなわち、Windows 7 または Windows 8 へ乗り替えるのが最善の策となります（もちろん Macintosh や Linux へ乗り換えるという方法もあります）。

なんらかの理由でどうしても Windows XP を使い続けなければならない場合、マイクロソフトは、(a) 2014 年 4 月 9 日までに提供したすべての更新プログラムを適用する、(b) ウイルス対策ソフトの定義ファイルを最新の状態にする、(c) インターネットに接続しない、(d) USB メモリなどの外部記録媒体は使わない、といった運用を推奨しています。

なお、サポート終了となった 2014 年 4 月の時点で、

なおも 600 万台から 700 万台もの Windows XP パソコンが国内で使われていると推定されています。切り替えにはまだまだ多くの時間が掛かる見通しです。

◆ Office 2003 もサポート終了

以上、Windows XP のサポート終了について説明しましたが、同じく 2014 年 4 月 9 日を以て、オフィスソフトの「Microsoft Office 2003」とインターネットブラウザの「Internet Explorer 6」のサポートも終了になりました。また、Windows 7 の機能のひとつである「Windows XP モード」のサポートも終了しています。

Office 2003 のサポート終了は Windows XP のサポート終了ほどには知られていないようですが、Office 2003 でもこれまで数多くの脆弱性が発見されており、4 月 9 日で更新プログラムの提供が打ち切られたことを考えると、最新の「Office 2013」やクラウド版の「Office 365」、あるいはマイクロソフト以外からリリースされている Office 互換ソフトへの切り替えが求められます。

なお、マイクロソフトは各ソフトウェアのサポート終了時期を表 1 のように告知しています。

◆ システム移行ではここに注意

Windows XP から Windows 7 または Windows 8 へ移行する際の注意点として 3 点を挙げておきます。なお、移行にあたっては、事前検討や情報収集を十分に行うとともに、必要に応じてソフトウェア提供元の技術サポート窓口に関わり合わせるなどしてください。

(a) アプリケーションのインストール数

Adobe の「Adobe Photoshop」（旧パッケージ版）や PhaseOne の「Capture One」などの画像処理ソフトや、税務申告でよく使われる弥生の「やよいの青色申告」などにはライセンス認証の仕組みが導入されていて、規定台数以上のパソコンにインストールした場合はアクティベーションができず利用できません。そのため、これまでアプリケーションを使っていた Windows XP パソコンのライセンス認証をあらかじめ解除しておく必要があります。

(b) 互換性の問題

Windows XP を前提に開発された古いアプリケーションやデバイスドライバの中には、Windows 7 や Windows 8 では動作しないものがあることも要注意点に挙げられます。なんらかの代替策が必要になるでしょう。

(c) ユーザーインターフェースの変更

Windows 7 や Windows 8 は Windows XP からユーザーインターフェースが大きく変更されています。同様に Office 2013 も Office 2003 に対してユーザーインターフェースが刷新されています。

個人差もありますが操作に慣れるまでにはある程度の時間が必要で、業務の繁忙期の切り替え作業はできるだけ避けたほうが無難です。

◆ Internet Explorer で脆弱性が見つかる

Windows XP、Office 2013、および Internet Explorer 6 のサポート終了から一か月も経たない 4 月 26 日（米国時間）に、マイクロソフトは、Internet Explorer 6 から Internet Explorer 11 までのすべてのバージョンにおいて、悪意あるプログラムが埋め込まれたウェブページをアクセスしたときに、そのプログラムを実行してしまうというセキュリティの脆弱性が発見されたと発表しました。

独立行政法人・情報処理推進機構は、この脆弱性によって、(a) パソコンを外部から操作されて、パスワード情報の流出や不正送金などが行われる恐れがある、(b) マルウェアに感染したのち、内部ネットワークへの不正侵入やデータの改竄などを許してしまう恐れがある、などと警告しています。

想定される被害の深刻さを受けて、一部の自治体や企業では Internet Explorer の使用を禁止したほか、米国の国土安全保障省は Google の「Chrome」や Mozilla の「Firefox」など他のブラウザを使うように勧告を出したほどです。

マイクロソフトは 5 月 1 日（日本時間では 5 月 2 日）に、Windows Vista、Windows 7、Windows 8、および例外的な措置としてサポートが終了した Windows XP も対象に、更新プログラムを緊急的にリリースしました（図 2）。

マイクロソフト自らが Windows XP に対して「例外」の前例を作ってしまったことにはなりますが、今回限りの措置であると表明しています。

なお読者におかれては、Windows XP 以外をお使いの場合でも、Internet Explorer を対象とした更新プログラムを必ず適用するようにしてください。

（文責／出版広報委員・関 行宏）

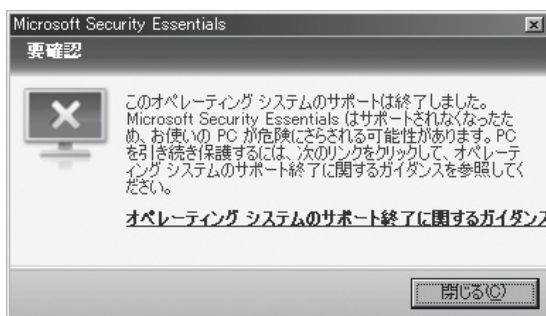


図 1. マイクロソフトが提供するウイルス対策ソフト「Microsoft Security Essentials」を Windows XP 上で起動すると「サポートは終了しました」というメッセージが表示される。

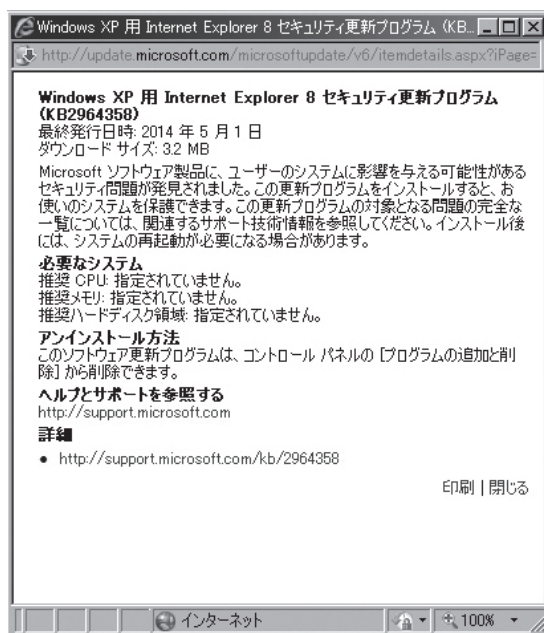


図 2. サポートが終了した Windows XP に対しても Internet Explorer のセキュリティ更新プログラムが例外的に提供された。

ソフトウェア名		サポート終了日 (日本時間)
Windows OS	Windows XP	2014 年 4 月 9 日
	Windows Server 2003/2003 R2	2015 年 7 月 15 日
	Windows Vista	2017 年 4 月 11 日
	Windows 7	2020 年 1 月 14 日
	Windows 8	2023 年 1 月 10 日
Office	Office 2003	2014 年 4 月 9 日
	Office 2007	2017 年 10 月 10 日
	Office 2010	2020 年 10 月 13 日
	Office 2013	2023 年 4 月 11 日

表 1. 代表的な Windows 製品および Office 製品のサポート終了日（2014 年 5 月 20 日時点）

製品名は各社の商標または登録商標です。Windows XP のサポート終了等に関して、日本写真家協会および出版広報委員会に問い合わせをいただいてもお答えできませんのでご了承ください。

写真解説

ハートフルな夏、みつめた！(表紙写真)——中井精也

夏を表現したくて線路際を歩いてたとき、目に飛び込んできたのは、鮮やかな色の向日葵。さっそく近づいてみると、なんと花の中央に大きなハートが！僕はレンズを魚眼ズームに交換して、ハートを画面いっぱいフレーミング。悪いけど、ここでは列車は脇役に徹してもらおう。そして列車が背景の邪魔な住宅を隠した瞬間を狙って、パチリ。目にも眩しい夏の色彩、つかまえた！鉄道の車両を撮ることだけが、鉄道写真じゃない。四季折々、美しく変化する線路に隠された、こんな宝物の風景を探して、僕は今日も旅をしています。(写真展「1日1鉄！」)

「二人で・・・」(表4写真)——安念余志子

少し時間がとれたので当てもなく車を走らせた。新潟の付近に来てふと「奥入瀬」へ行こうとフェリーの乗り場に行き、予約なしで乗せてもらえるかと聞いたところ、個室の部屋が取れた。秋田までフェリーに乗りあとは車。十和田湖に着いてからiPadで宿を探し当日予約。好天続きで水量はそんなに多くはなく、引きで撮るにはあまりいい条件ではない。だが川面に差し込む光は面白い模様を次々と見せてくれる。岩の上でまるで寄り添う夫婦か恋人のような草が目についた。風で揺れ今にも折れそうなのだが、必死で支えあっているようだった。帰りはフェリーの時間に間に合わず車で東北道を走らせたが、行けど行けど着かず、足はパンパンに腫れエコノミー症候群のようになった。さすが富山からは遠い。でもまた行きたい素敵な魅力のあるところでした。(写真集、写真展「光のときき」)

ヴェトナム サバ——管 洋志(故)

「アジアは人間たちがいい、屈託のない生活は僕の憧れでもある」。写真家管 洋志が写したヴェトナムは、戦争の爪痕を切り抜くことではなく、動き出すヴェトナムであった。ラオス国境に近い北西山岳地帯、標高1600メートルのサバには、複数の少数民族が住む村々が点在し、独自の生活を営んでいる。人口過密な都市部に比べるとサバは別天地で、3000メートルを越える山々の麓に大型の棚田がゆるやかなカーブを描き、高度な農耕技術がある人々が住んでいることが伺える。冬は寒く、雪降ることもあると聞き、この寒さと深い霧が納得出来た。(文/管 洋介、写真集、写真展「一瞬のアジア」)

合掌屋根の葺き替え一大泉家主家——高井 潔

岐阜県白川郷荻町集落には、合掌造りの家が今も114棟ほど残っている。1996年春の農閑期に大泉家では46年ぶりに屋根の東側片面約338平方メートルが葺き替えられた。作業は村人を中心に県内外のボランティア約300人の協力で、1日目に古い茅を剥ぎ取り、次の日に8時間かけて仕上げられ、短期間で工事は完了した。昔から作業は「結」と呼ばれる相互扶助の精神のもとで無償でおこなわれてきた。今後、日本にこのような「茅葺きの家」が、なくなることがあっても、新たに造られることがないのは残念なことである。(写真展「茅葺きの家」)

砥鹿神社「火焚祭」——山本宏務

砥鹿神社は愛知県三河国一の宮と称され、火焚祭は1月15日、本殿前庭の四方に青竹を配して注連縄を張り、その中央に丸太を井桁に組み、杉の葉を積み上げ、更に氏子たちが持ち込んだ松飾りや破魔矢も置かれる。神官により点火、火中に御前奉納の願申、絵馬、幟旗などが投入されると、穢れを焼き尽くすように激しく燃え上がる。この火で餅や団子を焼いて食べると病気をしないといわれ、多くの参詣客が黒く焼き上がった餅を手は無病息災を願う祭りです。(写真集「晴れの日と 常の日と」)

バンディアガラ断崖——周 剣生

マリ中央部にある標高500メートルほどの断崖が、独特な景色を作り出している。その厳しい自然環境に住み着いたドゴン族の人々は、観光化の波

の中でも依然として伝統的な集落暮らしを営んでいることから、1989年ユネスコにより世界遺産(複合遺産)に登録された。出発前にマリのガイドは腹黒いから要注意と聞いていた。現地に着いてみたら、やはりガイドなしでは行動が難しい。仕方なく、事前に料金をしっかり交渉したうえで出発したが、一旦山に入ると、約束を全部ひっくり返された。荷物、車、食事もすべて倍の料金を請求された。結局当初約束した料金より600ドルも多く支払わされてしまった。でも、バンディアガラ美しい朝日はそれ以上の価値があったと思う。

(写真集「世界遺産精粹」、写真展「悠遠なる世界遺産」)

ピアニスト、イングリット・フジコ・ヘミング

薄井大遼

「ぶっ壊れそうな鐘が有っていいじゃない、機械じゃないんだから」フジコ・ヘミングの言葉である。82歳にして1年の半分をパリ・シテ島の自宅を基盤にヨーロッパで活躍し、後の半年は日本の世田谷の自宅で30匹の猫と過ごし、国内で精力的にコンサート活動を行う。「一つ一つの音に色を付けるように弾く」演奏は世界中に熱狂的なファンを持つ。2013年にはスペイン最大のラジオ局カタララジオで一位に選ばれる。「自分より困っている誰かを助け、野良一匹でも救うために人は命を授かっている」とフジコ・ヘミング。(写真集、写真展「視線の先にあるもの」)

パレスティナ 壁に閉ざされた子どもたち

ハービー・山口

昨年暮れ、K n K(認定NPO法人国境なき子どもたち)からのリクエストでパレスティナへ参りました。初めて訪れる国でしたが、フレンドリーな彼らの笑顔とは裏腹に、イスラエルとパレスティナの間に立ちはだかる分離壁がいたる所がありました。そして入植地と呼ばれるイスラエル人が住む住宅地が、パレスティナの領土にどんどん広がっていました。このままだと何年かの後にはパレスティナは消滅してしまうのではないかと思われました。K n Kのスタッフが私に言った言葉があります。「世界は私たちをテロリストというけれど、そうじゃないの。私たちは平和に暮らしたいだけ、子どもたちには恐怖から逃れ、希望を捨てないで大人になって欲しい」深く美しく、憂いのある少年少女の瞳が心に残りました。(写真展「パレスティナ 壁に閉ざされた誇り高き子どもたち」)

上野駅の幕間——本橋成一

ぼくが上野駅に通い出したのは、1979年東北新幹線の大宮―盛岡間が開通する3年前のことだった。高度経済成長期を迎えた日本中の駅が、速さと効率を求める駅、つまりただ通り過ぎるだけの通路になり、ぼくの思っていた広場としての役割をも駅は消えていった。そんななか、上野駅には多種多様な人たちが集っていた。そして、みなそれぞれに居心地のよい空間をつくりだしていた。安心感があって、みんなが集まれる。駅はそこに集う人によってつくられる。そしてそこには毎日たくさんの幕間が生まれていたのだった。(写真集、写真展「上野駅の幕間」)

岡本太郎——齋藤康一

以前はそんなことは無かったのだが、いつの頃からか岡本さんにカメラを向けると、レンズを覗みつける癖がついてしまった様だ。一枚のみの撮影の場合、それはそれで済むが何ページかに亘る時は困ってしまう。撮影中目線を外す為に話し掛けたり隙を狙ったりと結構難しい。この写真は1975年に青山の自宅などで8頁を撮影した中の一枚。同行の人に私の後ろに立って話し掛けてもらい目線が少しでも上に行く様にした。写真展「THE MAN～時代の肖像」に使用した中の一枚だが、その一連の人物写真が嬉しいことに、今回、第9回飯田市「藤本四八賞」を受賞した。(写真集「時代に応えた写真家たち」、写真展「THE MAN～時代の肖像」)



Message Board



◆金城真喜子 (2007 年入会)

昨年秋に父、金城裕が亡くなりました。一般的には無名の人物ですが、戦後の空手界を牽引した人として、また多くの著作を残したことで空手の世界では知られています。今年になって遺品の整理をしている際に 20 枚を超える四つ切り大のプリントが出てきました。



初めて見た父の若かりし日の姿に感じるものがあって自分用にデータ化しようと考えました。手順を考えているうちにこの写真には戦後もない時期、写される側と写す側になったふたりの志を持った青年のありようが表現されていることに気づきました。

撮影者は背景をシンプルにするために人物をコンクリートの台らしきものに乗せて、空をバックに写していますが、当時、明るい背景で白い道着を来た動く人物を写すのはかなりの技術を持っていないとできなかったことでしょう。データ化したら希望する方にはどなたにでもさしあげる予定です。

(東京都世田谷区在住)

◆青木 勝 (1972 年入会)

B747 ジャンボが、44 年間の幕を閉じた
2014 年 3 月 31 日、全日空の B747 が、那覇-羽田のANA 126 便をもってラストフライトを終えた。

B747 は、1970 年に登場して以来、今日までジャンボの愛称で知られ、飛行機をよく知らないひとからも、その愛称と丸っこい特徴ある形から親近感を感じてもらえるようになった旅客機で、ジャンボは大型機の代名詞と呼ばれるようにまでなった。JAL と合わせて 44 年もの長い間、日本の高度経済成長をしっかり支えてきた功労者ともいふべき飛行機である。

はくが飛行機を本格的に撮り始めたのは 1970 年。新聞社を退職してフリーになって間もなく、JAL の嘱託カメラマンとして、導入されたばかりのジャンボ機を撮影するのが初仕事だった。以来 44 年間、飛行機を撮り続けてきて、いつしか飛行機カメラマンと呼ばれるように現在に至っている。まさに、飛行機カメラマンとしてジャンボとともに歩んできたことになる。

記念すべきラストフライトの機内では、乗務している親しい B747 の機長や、飛行機を通じて知り合った旧知の飛行機ファンの方たちと、ジャンボ最後の瞬間

を共有し、ジャンボが日本の空を飛んでいた、充実した 44 年間に感謝しつつ、別れを告げた。

(東京都世田谷区在住)

◆西川祐介 (2004 年入会)

カメラマンの高齢化を憂う

私は事件現場や記者会見の取材によく行くのですが、広告関係の写真家の人達とは違い、どんな撮影に行っても新聞や雑誌など同業他社のカメラマンが大勢集まります。

4 月のこの時期ですと、新人カメラマンが数名いて、よく名刺交換などを行ったのですが、ここ 10 数年ほど前から顔ぶれがほとんど変わらなくなってきています。

新聞・雑誌の部数の落ち込みや廃刊で全体の仕事量が減ってきているなかで、もちろんベテランカメラマンの生活や権利を守ることが優先されます。でもその反面、若い人たちが写真の世界に入ってこれなくなっていると思うのです。高齢化や規模の縮小は写真界全体にとっては憂う事です。これはもう個人の努力ではなく写真家協会など組織の出番だと思うのですが、みなさん何か良いアイデアはないのでしょうか。

(千葉県四街道市在住)

◆由木 毅 (2003 年入会)

1990 年、植田正治先生宅で水中写真を観ていただいた。例年になく褒めていただく。ネイチャーフォトへ「じゃんこと出しないや」とご指導を受けた。日本フォトコンテスト誌へ応募を検討するが、月例は困難と断念。92 年より応募を開始し、3 年目の 94 年、年度賞 1 位を受賞できた。



年度得点 23 点は、10 年間最高得点を樹立した。植田先生の先見の明である。植田正治生誕百周年にあためて畏敬の念と哀悼の意を捧げる。合掌。

(和歌山県和歌山市在住)

◆山口規子 (2001 年入会)

カメラバッグを普通のバッグに変えると見えてくるもの

皆さん、カメラバッグを何個持っていますか？ 複数持っている方がほとんどではないでしょうか。カメラバッグメーカーのカッコいいバッグも素敵ですが、普通のバッグをカメラバッグにすると、

被写体との距離感がグーンと縮まることを最近とても



痛感しています。これはカメラバッグ＝カメラマンという先入観を意識させず、一般の人々や公共の場では相手の警戒心が少なくなりコミュニケーションが取り易くなります。よって被写体との撮影距離の選択肢が広がります。しかし例外もあり、広告の仕事や有名人の撮影などは思いっきりカメラマンオーラを出して大きなバッグで行った方がクライアントも安心するようです（笑）。カメラバッグも撮影状況に応じて使い分けの時代なのかなと思う今日この頃です。

(千葉県船橋市在住)

◆芥川 仁 (1982 年入会)

山口・九州・沖縄の会員の皆さまへ

お知らせとしてはちょっと早いのですが、JPS 九州会員の親睦会を毎年暮れに開催しています。今年は 2 月に、博多で新年会として開催しました。たまたま九州が大雪の日で、湯布院と阿蘇の会員は通行止めで出席できませんでしたが、長崎、佐賀、福岡、宮崎から出席して近況報告やデジタル技術などの情報交換を行い有意義な時間を過ごしました。

年一回の親睦会は、JPS 展九州展を 1997 年から 5 年間開催した時に始まり、中断した時期もありましたが 20 年間ほど続けています。現在、山口、九州、沖縄の JPS 会員は、今年入会した鹿児島・谷山亮会員を加えて 57 人になりました。

JPS 会員として九州エリアを拠点に仕事をしながらも、お互い交流する機会はなかなかありません。仕事の分野もネイチャー、風景、広告、建築、エディトリアル、ドキュメンタリーなど多彩です。それぞれの分野にはそれぞれのノウハウがあり、得意分野の話聞かせてもらえるだけでも興味津々です。皆さんの話を聞いて仕事への刺激も受け、撮影の意欲も一段と湧いてきます。宮崎に居て独り仕事をしている私は、真摯に写真と向かい合う友人がなかったため、九州の写真仲間と出会えたことが JPS に入会した何よりの収穫だと思っています。

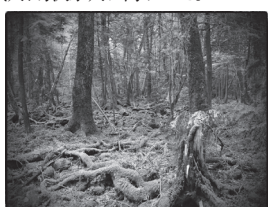
皆さん、頭の片隅に JPS 九州会員の親睦会をインプットして下さい。忘れる頃には、福岡の岩崎隆会員から忘年会の案内が届くことでしょう。

(宮崎県宮崎市在住)

◆イッセイ ハットリ(2008年入会)

GWに5歳になる次男が洞窟に行きたいというので、整備され比較的安全的な富士の富岳風穴、鳴沢水穴に向かった。

朝 早めに着いたため風穴の開口まで1時間以上ある。



樹海の入り口には風穴を囲むように整備された遊歩道、道を外れない限りは2キロほどで元の駐車場に戻ってこれるようになっている。しかし目を引くのは遊歩道から外れた原生林、ストック代わりの一脚とGPSを頼りに樹海の中へ踏み込んでみた。しばらく地形に沿って気の向くままに歩いてみたら、ずいぶん蛇行していることに気がついた。

木々の波にのまれ方向感覚が狂ってしまったという話は本当のようだ。

被写体としてとても魅惑的だが、子連れでの歩行はこれまでと本格的に迷う前に切り上げ遊歩道へ向かった。そのまま駐車場を目指し風穴まで数十メートルのところで3人の警察官と出会う。黒い影が渦巻く妖気。近寄ると木の根元にロープと女性の亡骸。とっさに子供の視線を遮るようにして反転その場を離れた。その後、子供は洞窟探検を楽しみ何があったのか気がつかずすんで安心した。

(東京都練馬区在住)

◆松本徳彦(1962年入会)

4Kドキュメンタリー映画の驚き!

10年にわたって伊勢神宮の式年遷宮を撮り続けてきた宮澤正昭会員が1200年以上継承されてきた遷宮の儀をハイビジョンの4倍の高精細カメラで撮影した映画「うみやまあひだ」の試写を見た。凄いの一言。映像の美しさと音響効果、真っ暗な中で行われる儀式を写し出すデジタル技術に感動。これは見たものにしか分からないほどの映像美に陶酔、感激…。今秋に公開されるという。ご高覧下さい。

(東京都練馬区在住)

◆川村容一(2000年入会)

カメラやレンズを比較する機会が増えている。実際購入するなら特に慎重に比べる。例えばレンズだと同一条件で様々な要素をテストするのはとても手間がかかる。



かる。そして全て満足できるレンズはないという結論になる。先日すばらしい標準レンズに出会ったが、40万円を越える価格に手が出ない。プロは減価償却を考えて諦めるがアマチュアの方々は迷いなく手に入れてしまう。写真産業はアマチュアに支えられているな〜と実感した。

(東京都足立区在住)

◆森田雅章(1996年入会)

50歳を迎えた頃からこれまで撮ってきた「バングラデシュ」「フィリピン」のけじめを付けたいと思っていました。これまで「花」は多数発表してきましたが、僕自身はドキュメンタリー畑の写真家で、花はもう1人の自分なのです。1997年のバングラデシュ取材から始まったバングラデシュとの関わりを「発表せぬままお蔵入りさせてしまっているのか?」そんな思いの中、バングラデシュ「線路沿い」を昨年発表する事が出来ました。1990年から取材しているフィリピン「スモークマウンテン」もキャノン銀座(2014.9.4〜10)で発表できる事になりました。1990年95年98年に出会った子どもたち「みんな元気にしているのだろうか?」2012年に当時の写真を携え訪ねてみたのでした。再会できた22人の「今」を子どもたちの成長、社会の変化と共にカメラ機材の進歩、僕の成長等も感じて頂けたらなあって思っています。

(愛知県名古屋市中村区在住)

◆小池良幸(1989年入会)

我が家の犬自慢

動物好きな妻の影響で現在、我が家では犬6頭と共同生活をしています。また、ペットとして飼うだけでなく様々なイベントに参加して家族で楽しんでいます。最年長14才のボーダーコリーは若い頃にフリスビー犬の競技に出場、4頭のチワワは1頭がアジリティー競技に出場、他にもモデル犬登録してテレビ出演などしました。

現在は最年少のマイティ(ジャックラッセルテリア、オス4才)と還暦を過ぎた妻がアジリティー競技(犬と人間のハンドラーによる障害物競走、世界大会もある競技)に挑戦し、関東近郊で行われる大会に出場していますが、思うような結果が出ない状況が続いています。

ところが、去る5月11日埼玉県で行われたアジリティー競技会において、1度ジャンプスモールクラス(約60頭出走)でなんと1位を獲得してしまいました。過去に2位までは入賞経験がありますが、1位は初めてです。普段は食い意地の張った落ち着きのな



い犬なのですが、足の速さだけはピカイチのようです。

私も以前、競技に出たことがあります。が体力的についていけず、現在は遠征のサポート役に徹しています。今後は遠征の範囲が広がるのではと心配です。

(神奈川県横浜市在住)

◆新 達也(2007年入会)

奥武蔵地方は、里山に抱かれた豊かな自然と、都心へのアクセスも容易な利便性という言わば都市と田舎の良い処取りを享受できる貴重なオアシスとして位置づけられています。

連綿と続く小さな山並み、その先には世界有数の大都市・東京が広がっています。山あいには点在する集落の傍らを流れる水は、漏れなく東京湾へ注いでいます。嘗て川筋を中心に築えた暮らしは、鉄道や幹線道路沿いに移り変わりはしましたが、東京に依存した生活基盤であることに変わりはありません。

その奥武蔵に生まれ育ち早五十有余年が経ちましたが、未だ新たな被写体との出会いの連続で、この地への興味は尽きません。被写体は己の足元にありという言葉は地味に生活は、結局生涯続くのではないかと考えています。

(埼玉県日高市在住)

◆堀内広治(2005年入会)

パラダイス鉄道

大袈裟に言えば構想5年、私の長年の夢が叶った鉄道模型の開通式を先日無事迎える事が出来ました。当日は大学の教え子達も参加し、手には万国旗、一日駅長のタスキ、私にいたってはスイスで求めた車掌の制服に身を包み、参加者が手に持ったクラッカーのテープの中でのテープカット。いい年をしての最後の道楽です。そこでの一番列車を何にするかは思案の末、やはり思い入れが大きい1920年頃のオリエント急行に決定し、それを牽引する機関車は当時のドイツ国鉄の最新鋭蒸気機関車「03」。当日は我が鉄道の記念日でもあり初代オリエント急行から1978年に廃止になった最後のオリエント急行まで7種類の編成が一同に会しました。実に7編成の列車がヤードに揃っている情景は後にも先にもこの一夜だけのようには思われます。バックに流れている効果音はバリのリオン駅で録音した駅のアナウンス。

興味のない人には一笑のいいネタになるので、私にとってみればまさしくパラダイス鉄道です。

(東京都中央区在住)

平成 26 年度 (第 15 回) 公益社団法人日本写真家協会定時会員総会報告

日 時：平成 26 年 5 月 23 日(金)、14 時～16 時 45 分
場 所：東京都写真美術館 1F ホール
総正会員数：1,627 名、定足数：815 名
出席正会員数：1,096 名、(内訳：本人出席 118 名、
代理委任 3 名、議決権行使書 975 名)

定刻に、進行の小川総務理事により平成 25 年度の物故者 12 名と平成 26 年度 1 名の氏名が読み上げられ、黙祷しご冥福を祈った。続いて 26 年度の新入会員 38 名と、出席の名誉会員 4 名、会員外理事 3 名、監事 3 名、正会員理事 13 名の紹介があった。

田沼会長より「JPS 創立当時は写真界に勢いがあった。今日、JPS は会員数の減少など厳しい状況が続いているが、若い世代に向けて変わって行くことが必要だ」と挨拶があった。

定款により議長に選任された田沼会長に、定足数を超える出席があると報告があり、総会が始まった。

報告事項 1：「平成 26 年度事業計画」は、熊切圭介副会長より公益事業 1～6 については継続、平成 28 年度周年事業「日本の海岸線を行く」の編集作業に着手したと報告があった。

報告事項 2：「平成 26 年度予算書」は松本専務理事が、平成 26 年度の経常収入と支出は 139,500 千円の予定と報告し、今後も経費の削減、省力化を進めると述べた。

報告事項 3：第 40 回「日本写真家協会賞」は、田沼会長より(株)アイテムに贈ると報告があった。

報告事項 4：理事辞任の件は、松本専務理事より「吉田慎一会員外理事はテレビ朝日社長に就任されたため、また田中祥介正会員理事は、一身上の都合で辞任されることになった」と報告があった。

報告事項 5：正会員理事辞任に伴う繰上げ就任について、松本専務理事が「小川泰祐正会員が理事に繰り上げ就任した」とことと、理事の辞任と新理事の登記が完了したことを報告した。

報告事項 6：会報滞納による会員資格の喪失の件は、足立専務理事から「平成 25 年度の会費滞納者 16 名(内 1 名からは入金)について、理事会は資格喪失した者として承認し、総会で報告の後手続きを行う」と報告した。

決議事項：第 1 号議案「平成 25 年度事業報告及び決算承認の件」は、熊切副会長が公益事業・収益事業・共益事業について説明。松本専務理事が貸借対照表と正味財産増減計算書をもとに、当期の収益は 145,884,967 円、費用は 148,353,085 円で、当期は 2,468,118 円の赤字となった。理由は事業の活発化による経費増と退職金の支払いによる法定引当金積増のためと説明。監事の栗原安夫公認会計士が監査報告書について、監査概要、意見を述べた。

その後、質疑応答に入り、江口友一正会員から「平成 26 年度の事業計画について、事業内容が古い。“写真学習

プログラム」が未だにフィルムでの講習だ、何故デジタルではないのか。“理事”に若い人を」。荒谷良一正会員から「新入会員が少ない、会員が減少するのは何故か。」と質問があった。「デジタルは多方面で使われているが、フィルムは写真の基礎である」「新入会員の減少には悩んでいる。近年の傾向として若い人は組織に入ることを好まない。理事会推薦を増やしているが、皆さんも努力して下さい」と田沼会長が回答をした。質疑応答ののち採決を行い、賛成多数で可決承認された。

第 2 号議案「名誉会員推挙承認の件」について、足立専務理事が「玉井瑞夫正会員(入会昭和 33 年、在籍 56 年、90 歳)を名誉会員に推挙する」説明があり、賛成多数で承認された。

第 3 号議案「理事辞任に伴う補欠の理事選出」について、松本専務理事が「杉浦信之(朝日新聞社執行役員、コンテンツ統括・編集担当)氏を会員外理事に選出する」ことを説明し、異議なく賛成多数で承認された。

その他の事項として議長より、事前に 2 名の正会員より文書による提案があった旨の報告があり、発言をお願いした。西岡修正会員：1、「細則 19 条で理事立候補又は推薦は、役員、委員を 2 年以上の活動実績があるものとしたのは、不公平である」から、「正会員 10 名の推薦で理事候補になれるように修正して欲しい」。2、「役員が無報酬では良くない。支給できるように」。3、「会友は正会員何名かの推薦、無理のない有料化を」と提案。

松本専務理事が「1 については、誰でも理事になれるのはよいが、事業を継続するためには役員や委員を 2 年程度経験された人が望ましい。2、財政的に無理である。3、現細則では、退会に際し 70 歳以上、在籍 30 年以上がなれる条件で、本人の意向による。辞退もあるが自然増加であり、特に見直しは考えていない」と回答した。

平 寿夫正会員：関西メンバーズ展について種々の質問があった。松本専務理事が「1、メンバーズ展は協会の事業として位置付けていない。2、公益法人等の名称使用、ロゴマーク使用も遠慮願っている。3、「関西地区会員有志による写真展」といった表現を勧めてきた。4、協会事業として認めてない以上、会計調査などできない。5、結論として関西地区委員会内で問題を解決する努力をして欲しい」と回答をした。

最後に総会出席の賛助会員 17 社 23 名の紹介があり、閉会の辞を熊切副会長が行い総会の幕を閉じた。

その後、17 時 30 分より「恵比寿ガーデンカフェ」で懇親会が開かれた。田沼会長の挨拶の後、オリンパスイメージング(株)の隠岐浩史氏による乾杯の音頭で宴がスタートした。途中で賛助会員による各社のアピール、「保存センター募金」の協力お願いなどが行われ、最後に熊切副会長の挨拶と、木村恵一名誉会員による恒例の三本締めで和やかに散会した。

(記／飯塚明夫、撮影／桃井一至)



セミナー研究会レポート

◆平成 26 年度第 1 回技術研究会◆

「デジタルフォト再検討その 1

ー Raw 現像・Raw と JPEG の違い」

DxO Optics Pro 9 と Adobe Photoshop Lightroom
による処理について

平成 26 年 4 月 15 日（火） 於：JCII ビル 6 階会議室

写真家・電塾運営委員の玉内公一氏とソフトウェア・トゥー椎野圭子氏を講師に迎えた Raw データについての基本的な理解、JPEG との違い、そして、DxO 社のオプティクスプロ 9 とアドビ社のライトルームによる現像処理についてのセミナーを開催した。

最初に企画委員会担当島田聡理事より挨拶があり、続いて著作権担当山口勝廣理事より Raw データの著作物性について説明があった。

技術研究会
前半は、玉内



氏が Adobe 社の Photoshop 初代から現在の PhotoshopCC（クリエイティブクラウド）までの画像データの考え方と、Lightroom の発表時期やソフトウェアの開発の、カメラが生成する JPEG と Raw 現像ソフトが書き出す写真データのそれぞれの優位性について解説した。出版等の印刷関連においては、現状のカメラが生成する JPEG は問題ないレベルであり、必要に応じて Raw データから微調整をした TIFF データを作るワークフローが定番であること、またそのためのカラーマネージメントの必要性についても説明した。

DxO（ディーエックスオー）社のオプティクスプロ 9 は、カメラとレンズの組み合わせを解析する同社の研究から生まれた製品で常に様々なデジタルカメラとレンズの収差補正を研究し開発されているとの説明があった。

DxO オプティクスプロ 9 の主な特徴

- ・収差補正をした画像が常にプレビューされる。
- ・通用のノイズカットを更に強力にしたプライム現像モードを搭載している。
- ・ディストーション補正、デッドピクセルの保管パラメータ調整も搭載されている。
- ・長方形強制ツールを搭載し、書き出せるファイル形式は JPEG、TIFF、DNG の 3 種類である。

DxO はカメラとレンズの補正データを自動的にダウンロードし、プレビューした写真に対しデフォルトで収差補正が完了する。

後半は、Lightroom5 のカタログについて簡単な操作

方法や Raw 現像方法について解説した。

今回の技術研究会も平日という事もあり JPS 会員の参加者が多

く、最後の質疑応答も多くの質問があった。参加者 76 名。

（記・撮影／高村 達）



写真家・電塾運営委員の玉内公一氏

◆平成 26 年度第 2 回技術研究会◆

「デジタルフォト再検討その 2

ー Raw 現像・その効率的処理」

平成 26 年 5 月 13 日（火） 於：JCII ビル 6 階会議室

Raw 現像ソフトの効率的な処理に関するセミナーを 2 部構成で開催した。冒頭に前回同様、著作権委員会より、Raw データの著作物性について説明があった。

技術研究会第 1 部は、中判デジタルカメラメーカー、フェーズワンジャパンの下田貴之氏を講師に迎えて行った。Raw データ現像ソフトの Capture One Pro（キャプチャーワンプロ）の効率的な使い方や新機能に関しての説明が行われた。中でも目を引いたのが「Capture Pilot（キャプチャーパイロット）」である。この機能は現行の Capture One Pro7 からではなく Capture One Pro6 から使えたもので、iPad、iPhone、iPod Touch で Capture One の撮影画像が表示できるというものだ。無線 LAN を介して、パソコンではなく iPad などで連結撮影が可能となるので、様々な撮影現場での活用が考えられるだろう。

第 2 部は、写真家で電塾運営委員の平尾秀明氏を講師に迎え、Adobe



フェーズワンジャパンの下田貴之氏

Photoshop Lightroom（アドビフォトショップライトルーム）を使った Raw データの管理方法や現像処理について詳細な使い方が説明された。昨年 12 月に Creative Cloud（クリエイティブクラウド）プランで Photoshop と Lightroom がセット販売となり、Lightroom に対する関心が高くなった。質疑応答では、Photoshop の Bridge&CameraRaw で現像した場合との具体的な違いや、Lightroom を使うメリットは何か、などの質問があった。写真家にとって必要不可欠な Raw 現像ソフトに関する関心の高さを感じるセミナーであった。参加者 75 名。

（記／大屋徳亮、撮影／高村 達）

JPS ブック レビュー

協会に寄贈された会員の出版物を到着順に掲載致します。
(2014・2月～5月)

- ①発行所 ②発行年月
③サイズ (タテ×ヨコ)、頁数
④定価 ⑤寄贈者
⑥電子書籍ストア



小松毅史の花風景 三天写真 撮影講座

小松毅史

- ①日本カメラ社 ②2014年3月
③28×21cm、112頁
④1,800円 ⑤発行所



日本の原風景 町並 重要伝統的建造物群保存地区

森田敏隆

- ①光村推古書院 ②2014年3月
③21.3×15cm、304頁
④2,800円 ⑤発行所



世界のともだち 07 ネパール 折りの街のアヌスカ

公文健太郎

- ①偕成社 ②2014年2月
③24.7×21cm、40頁
④1,800円 ⑤公文氏



光のどけき

安念余志子

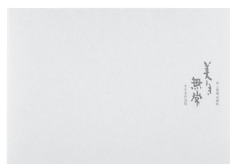
- ①風景写真出版 ②2014年2月
③14.8×21cm、95頁
④1,800円 ⑤安念氏



世界のともだち 05 モンゴル 草原でくらすバタナー

清水哲朗

- ①偕成社 ②2014年2月
③24.7×21cm、40頁
④1,800円 ⑤清水氏



すすきの気色 美しき無常

井上隆雄

- ①自然館 ②2013年10月
③21.7×30.3cm、124頁 ④-
⑤井上氏



LE VIE DEL SACRO

Kazuyoshi Nomachi

- ①NATIONAL GEOGRAPHIC ITALIA
②2013年 ③25×22.5cm、160頁
④- ⑤野町氏



無窮花の哀しみ

伊藤孝司

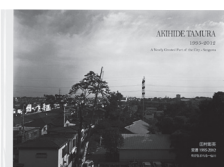
- ①風媒社 ②2014年2月
③21.6×15.5cm、224頁
④1,800円 ⑤伊藤氏



ぼくは高尾山の 森林保護員

宮入芳雄

- ①こぶし書房 ②2014年2月
③19.5×13.3cm、176頁
④1,800円 ⑤宮入氏



変遷 1995-2012 仙川一街が生まれる

田村彰英

- ①東京アートミュージアム
②2014年1月 ③21.7×30.3cm、32頁
④2,000円 ⑤田村氏



一生に一度は乗りたい 超豪華列車 ななつ星 in 九州の旅

櫻井 寛

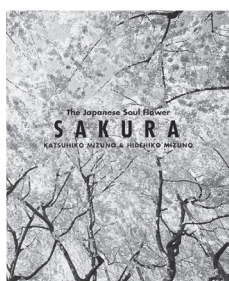
- ①日経 BP 社 ②2014年4月
③28×21cm、82頁 ④1,000円
⑤発行所



誰も知らない
「アジア国境」タブー地帯

山本皓一

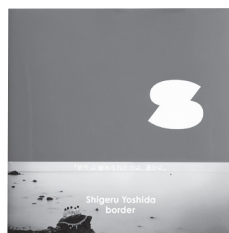
- ①宝島社 ②2014年3月
③25.7×18.2cm、128頁
④980円 ⑤発行所



SAKURA

水野克比古、水野秀比古

- ①IBC パブリッシング ②2014年3月
③22×18.2cm、136頁 ④2,800円
⑤水野氏



JPCO シリーズ 06
Border

吉田 繁

- ①桜花出版 ②2014年3月 ③25.7×25.7cm、48頁
④3,000円
⑤NPO 法人 日本の写真文化を海外へプロジェクト



100歳のファインダー
日本初の女性報道写真家
笹本恒子

編者・東京新聞事務局
写真・笹本恒子

- ①東京新聞 ②2014年4月
③25.7×18.3cm、131頁
④1,800円 ⑤発行所



世界のともだち 11
ベトナム
ふたごのソンとチュン

鎌澤久也

- ①偕成社 ②2014年3月
③24.7×21cm、40頁
④1,800円 ⑤鎌澤氏



京都を愉しむ
また会いたくなる京の桜

水野克比古

- ①淡交社 ②2014年3月
③21×15cm、126頁
④1,400円 ⑤水野氏



四万十川燦燦

本田祐造

- ①日本写真企画 ②2014年4月
③24×26cm、108頁
④2,800円 ⑤本田氏



絶対行きたい！
日本の島旅

加藤庸二

- ①PHP 研究所 ②2014年5月
③23.5×18.2cm、191頁
④1,300円 ⑤加藤氏



知識ゼロからの駅弁入門

櫻井 寛、はやせ淳

- ①幻冬舎 ②2014年3月
③21×15cm、183頁
④1,300円 ⑤発行所



一瞬のアジア

菅 洋志

- ①新潮社 ②2014年3月
③19×26.5cm、160頁
④3,200円 ⑤発行所



富山写真語 万華鏡

261《高志の群像》尾田武雄 262 入道家 263 石田の蔵
264《高志の群像》折谷隆志 265 南砺市立福光美術館
266《高志の群像》山本哲也

撮影・風間耕司

- ①ふるさと開発研究所 ②2013年10月～2014年3月
③25×25.5cm、14頁
④500円 ⑤風間氏



**素王の人
十二代目市川團十郎**

薄井大遼

① JCI フォトサロン ② 2014 年 4 月
③ 24 × 25cm、31 頁 ④ 800 円
⑤ 発行所



ごたっ子の田んぼ

西村 豊

① アリス館 ② 2014 年 4 月
③ 25.7 × 19.7cm、40 頁
④ 1,400 円 ⑤ 西村氏



**これだけは見ておきたい
日本の産業遺産図鑑**

二村 悟、写真・小野吉彦

① 平凡社 ② 2014 年 4 月
③ 21 × 15cm、160 頁 ④ 1,800 円
⑤ 小野氏



**慈悲の人
瑩山禪師を歩く**

百瀬明治、杉田博明、栗津征二郎、
写真・西山治朗

① 学研パブリッシング
② 2014 年 5 月 ③ 18.2 × 13cm、152 頁
④ 1,000 円 ⑤ 西山氏



ACTION, the 1960s

平田 実

① タカ・イシイギャラリーフォトグラフィー/フィルム
② 2014 年 4 月 ③ 21 × 14.8cm、72 頁 ④ 2,500 円
⑤ 平田氏



聖地 伊勢へ

南川三治郎

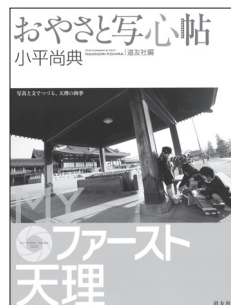
① 中日新聞社 ② 2014 年 4 月
③ 21.5 × 16.5cm、133 頁
④ 1,200 円 ⑤ 南川氏



犬と、走る

本多有香、
写真・佐藤日出夫

① 集英社インターナショナル
② 2014 年 4 月 ③ 19.4 × 14cm、258 頁
④ 1,800 円 ⑤ 佐藤氏



**おやさと写心帖
MY ファースト天理**

小平尚典

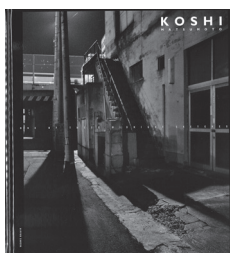
① 天理教道友社 ② 2014 年 5 月
③ 28 × 21cm、128 頁 ④ 1,200 円
⑤ 小平氏



虹の贈りもの

大沼英樹

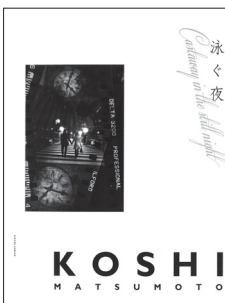
① 窓社 ② 2013 年 11 月
③ 15.5 × 21.7cm、62 頁
④ 2,500 円 ⑤ 大沼氏



午前零時のスケッチ

松本コウシ

① 日本カメラ社 ② 2014 年 6 月
③ 25.5 × 23.3cm、132 頁
④ 2,980 円 ⑤ 発行所



泳ぐ夜

松本コウシ

① 日本カメラ社 ② 2014 年 6 月
③ 25.5 × 21.5cm、184 頁
④ 2,980 円 ⑤ 発行所



**第六十二回神宮式年遷宮
御遷宮対策委員会
公式記録写真集「遷宮」**

写真・宮澤正明

① 御遷宮対策委員会 ② 2014 年 3 月
③ 27 × 22.5cm、256 頁 ④ 5,000 円
⑤ 宮澤氏

寄 贈 図 書

立本寛彦殿……………長野県生まれの写真家たち・
写信州「長野県生まれの写真家たち」代表作品展
矢藤己喜郎殿……………迷路の天使
近藤誠宏殿……………藤中浩、監修・近藤誠宏・奥能登絶景 白米千枚田
……………岐阜県写真作家協会会員・岐阜県写真作家協会 15 周年記念誌
菅野光夫殿……………食彩感撮
青木敏二殿……………編集・(株)アフロ・ソチオリンピック日本代表選手団
日本オリンピック委員会 公式写真集 2014
國森康弘殿……………歩未とばあやんのシャボン玉
……………ぼくはクマシにならなかった
JCH フォトサロン殿
……………井桜直美・古写真に見る明治の東京「下谷区編」
……………渋谷高弘・なつかしい東京「昭和写真帖」
……………宅島正二・緑なき島を去る人々 その時「軍艦島 1974」
(株)キタムラ殿
……………スマホで撮った写真を素敵な思い出に変える 5 つの魔法
日本大学芸術学部写真学科殿……………LOCUS 2014

東京都写真美術館殿……………第 6 回恵比寿映像祭 ツール・カラーズ
……………黒部と槍 冠松次郎と穂苅三寿雄
……………下岡蓮枝 日本写真の開拓者
ニッコールクラブ殿……………ニッコール年鑑 2013-2014
求龍堂殿……………山下茂樹・城
平凡社殿……………新倉孝雄・いい日、ハビネス
……………現代デザイン事典 2014 年版
光村推古書院殿・写真・産経新聞社・昭和の大坂Ⅱ 昭和 50 ～平成元年
全日本写真連盟殿……………第 74 回国際写真サロン
NPO 法人 日本の写真文化を海外へプロジェクト殿
……………Michael Hitoshi・JPCO シリーズ 01 Line
……………上原ゼンジ・JPCO シリーズ 02 Circular Cosmos
……………—まあるい宇宙—
……………高崎勉・JPCO シリーズ 03 Silhouette
……………佐藤倫子・JPCO シリーズ 04 Hopscotchings
……………小橋城・JPCO シリーズ 05 Face
日経ナショナルジオグラフィック社殿
……………ハル・ビュエル・ピュリツァー賞 受賞写真 全記録
……………ウーマン・オブ・ビジョン
ナショナルジオグラフィックの女性写真家

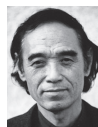
受賞おめでとうございます。今後ますますの活躍をご期待申し上げます。(50 音順)



■ 2013 年 (第 31 回) 「毎日ファッション大賞・鯨岡阿美子賞」 受賞 平成25年10月29日

受賞者：大石一男 (1983 年入会)

パリコレを 30 年以上取材し、コレクションにおける日本人カメラマンの地位向上にも尽力した功績に対して。



■ 第 33 回土門拳賞受賞 平成26年4月16日

受賞者：桑原史成 (1963 年入会)

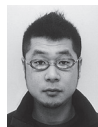
受賞作の『水俣事件』は、半世紀にわたり水俣市に通い続け、「事件」を記録し続けたモノクロ作品。ジャーナリスティックで距離感を保った一貫した姿勢によるドキュメント写真で、日本の写真界に刺激と重みを与えた点が高く評価された。



■ 第 9 回飯田市藤本四八写真文化賞受賞 平成26年5月11日

受賞者：齋藤康一 (1959 年入会)

人物写真一筋に撮り続け、そのポートレートは各界の著名人におよぶ。作品の記録性は貴重であると同時に厚みある「昭和の肖像」としての価値が評される。



■ 平成 26 年「日本写真協会賞新人賞」受賞 平成26年6月2日

受賞者：清水哲朗 (2004 年入会)

1997 年からモンゴルへ通い、風景とそこに暮らす人の営みを取材し続け、写真集と写真展に結実させた。国境を越え、人と人を写真の力で結びつけるその活動に対して。



■ 平成 26 年「日本写真協会賞作家賞」受賞 平成26年6月2日

受賞者：須田一政 (1969 年入会)

40 数年にわたり、日本各地を旅して出会った光景を一貫した作風で写しとめ、それらの作品を東京都写真美術館「風の片」展で結実させた。その長年の写真制作活動に対して。



■ 平成 26 年「日本写真協会賞功労賞」受賞 平成26年6月2日

受賞者：田沼武能 (1950 年入会)

現役を貫いて精力的に作家活動を続けるとともに、日本写真家協会会長、日本写真保存センター設立推進連盟副代表をはじめとした要職につき、永年にわたり写真界に多大な貢献を果たした功績に対して。



■ 平成 26 年「日本写真協会賞国際賞」受賞 平成26年6月2日

受賞者：野町和嘉 (1974 年入会)

世界各地を取材・撮影し、人々の宗教的な祈りの力と普遍的な人間の営みを国内外で発表して日本写真文化の力を知らしめた。その国際的功績に対して。



岡村 崔 正会員

平成 26 年 2 月 4 日、肺ガンのため逝去。
86 歳。

昭和 38 (1963) 年入会。

昭和 2 (1927) 年生、東京都出身。

文化学院卒。欧州の風景、山岳写真を主として撮影し活躍された。ミケランジェロやラファエロの壁画などを撮影しバチカンのシステリーナ礼拝堂の「天地創造」の修復作業を記録し続けた。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

システリーナ礼拝堂の大壁画写真集を残した岡村崔氏の功績 田沼 武能

岡村崔さんは 1963 年に JPS に入会した。当時はアルビニストとしてヨーロッパに通信山岳写真を手がけていた。次第に西洋美術にも関心を持つようになり、65 年から活動の拠点をローマに移し、本格的にヨーロッパの取材に力を入れることになった。岡村さんの代表作は、何といってもバチカンのシステリーナ礼拝堂の天井と祭壇に描かれたミケランジェロの大壁画の撮影である。78 年にバチカンとの協議を終え、その翌年の 2 月から延べ 45 日間をかけて全作品を数百カット撮影している。毎日参拝者のいなくなる午後 4 時から 10 時にかけ、足場の上の狭いテラスに登り、大判カメラを構え天井画とニラメッコの日々が続いた。そのプレスコ画は、16 世紀の前半、40 年の歳月を費やして制作したミケランジェロの大傑作である。2メートルたらずの距離にある原画は筆のタッチから亀裂、クモの巣に至るまで克明に見える。彼は感無量の心境で二度とチャンスがないであろうそれらの作品を丹念に描写して発表した。200 部限定のその写真集は 78 万円という豪華なものになってしまった。そのため、大型にプリントして西武美術館で一般に披露している。それとは別に、彼がローマに在住中に数多くの写真家が、彼の世話になっており、三代目の会長三木淳氏を始め、富士フィルムの石井彰氏からも、話を聞いている。私自身も世界の食卓を撮るために、ローマ在住の家族を紹介して頂いたこともあり、たくさんの写真家が世話になっていた。晩年は静岡に住み、お会いする機会も少なくなりました。そして今日の訃報を聞き、残念でならない。ご冥福をお祈りしお別れの言葉とする。合掌



内山 英明 正会員

平成 26 年 4 月 14 日、脳出血のため逝去。65 歳。

平成 19 (2007) 年入会。

昭和 23 (1948) 年生、静岡県出身。

1976 年東京総合写真専門学校中退、フリーランスとなり放浪芸人を撮影、週刊、月刊誌の仕事を経て、アジア、欧州の都市、その後東京と地下をテーマにした撮影を続けドキュメントや人物写真の分野で活躍された。写真集『JAPAN UNDERGROUND III』などで第 25 回土門拳賞を受賞した。伊奈信男賞、日本写真協会年度賞受賞。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

内山英明の死を悼む

野町 和嘉

地球の真裏での旅の途上で友人の急死を知らされ、そして追悼文を書くことになった。これもグローバル時代ならではの因縁であろうか。

内山氏と知り合ったのは 10 年ほど前、カメラ雑誌の鼎談がきっかけだった。都市の地下に張り巡らされた人工空間にこだわる彼と、海外の広い土地を撮り続けてきた私ではあまりにも対照的だったが、個人的なつきあいは妙に馬が合った。というか、胸の内を明け透けに語る内山氏の聞き役のようなかたちで付き合いが続いていた気がする。

癌に冒され再発を繰り返し、精神的にも追い詰められた時期があつて家族には迷惑をかけた、とも語っていた。ある日、拙宅で話し込んでいて、メシでもと誘ったところ、いや、今日は一緒に暮らす娘に夕食を作る約束があるので、と子煩悩な一面を見せ、そそくさと帰っていったこともあった。

内山氏の業績については、地下世界を執拗に撮り続けた 4 冊の写真集に尽きると思う。内山氏の言う“地図に載っていない異形の世界”その魔性に魅入られた写真家の息づかいが連綿と綴られている。ただ残念なのは、“Under Ground”の完結編を撮り終えているにもかかわらず、昨今の出版事情のせいで形に出来ないままに逝ってしまったことだ。

葬儀に参加できず、最後の姿と対面することも叶わなかった私にしてみれば、ひたむきな生き方の延長で時に寂しげな独特の笑みを浮かべ振り返りながら、地底の迷宮をどこまでも歩き続けているような気がしてならない。心からご冥福をお祈りします。

経過報告 (2014年2月～5月)

◎ 2 月 7 日～13 日 2013 年第 9 回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(東京展)
富士フィルムフォトサロン東京 入場者 8,525 名

◎ 2 月 13 日～16 日 「プロフェッショナルの世界」
みなとみらいギャラリー 入場者 3,439 名

◎ 2 月 14 日 第 1 回国際交流セミナー
PM5:00～7:00 日本アセアンセンター「アセアンホール」参加者 46 名
○インドネシア撮影情報センター

◎ 2 月 19 日 第 3 回著作権研究会
PM1:30～4:30 大阪本町愛日会館 参加者 60 名
○写真著作権と文化～著作権の基礎と追及権を学ぶ～

◎ 2 月 21 日 新入会員入会資格審査会
PM1:30～4:00 JPS 会議室 9 名

◎ 2 月 21 日 三団体懇談会
PM6:00～8:00 一般社団法人日本写真文化協会

◎ 2 月 27 日～3 月 2 日 2013 年第 9 回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(福島展)
福島市民ギャラリー 入場者 77 名

◎ 3 月 3 日 第 30 回公益社団法人日本写真家協会理事会
PM2:00～3:00 JCII 会議室 17 名、欠席 3 名、監事 2 名、欠席監事 1 名
第 1 号議案:平成 26 年度事業計画案の件 第 2 号議案:平成 26 年度収支予算案の件 第 3 号議案:平成 26 年度新入会員承認の件、他

◎ 3 月 8 日 第 2 回国際交流セミナー
PM1:30～4:30 大阪本町愛日会館 参加者 44 名
○ランドセルは海を越えて 写真家の国際貢献援助活動

◎ 3 月 8 日～30 日 ぼくたちの 3 年～写真展「生きる」から見えるもの～
グランシップ 6 階展示ギャラリー 入場者 2,404 名

◎ 3 月 17 日 「写真学習プログラム」に関する懇談会
PM3:00～5:00 JPS 会議室 参加者 13 名

◎ 3 月 19 日～4 月 1 日 2013 年第 9 回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(仙台展)
ニコプラザ仙台フォトギャラリー 入場者 613 名

◎ 3 月 26 日 第 39 回 2014 JPS 展「文部科学大臣賞」受賞者インタビュー
AM10:30～12:00 受賞者:高田泰子(たかだやすこ)さん

◎ 4 月 4 日～10 日 2013 年第 9 回「名取洋之助写真賞」受賞作品写真展(大阪展)
富士フィルムフォトサロン大阪 入場者 3,336 名

◎ 4 月 7 日 平成 26 年度新入会員説明会
PM1:00～4:00 JCII 会議室 新入会員 38 名、役員 14 名、委員 13 名

◎ 4 月 8 日 出版広報座談会
PM2:30～4:00 JCII 会議室 8 名

◎ 4 月 11 日 写真学習プログラム指導者説明会・大阪
PM5:00～7:00 愛日会館 3F 参加者 15 名

◎ 4 月 15 日 第 1 回技術研究会
PM1:30～4:30 JCII 会議室 参加者 76 名
○「デジタルフォト再検討その 1 - Raw 現像・Raw と JPEG の違い」JdXO Optics Pro 9 と Adobe Photoshop Lightroom による処理について

◎ 4 月 21 日 第 31 回公益社団法人日本写真家協会理事会
PM2:00～3:20 JCII 会議室 16 名、欠席 3 名、監事 3 名 第 1 号議案:平成 25 年度事業報告承認の件 第 2 号議案:平成 25 年度決算報告承認の件 第 3 号議案:第 40 回「日本写真家協会賞」承認の件 第 4 号議案:名誉会員推荐承認の件 第 5 号議案:平成 25 年度会費滞納による正会員資格の喪失の件 第 6 号議案:理事辞任に伴う補欠の理事選任の件、他

◎ 4 月 23 日 写真学習プログラム指導者説明会・東京
PM3:00～5:00 JPS 会議室 参加者 17 名

◎ 5 月 13 日 第 2 回技術研究会
PM1:30～6:00 JCII 会議室 参加者 75 名
○デジタルフォト再検討その 2 - Raw 現像・その効率的処理 1 部 中判デジタルカメラメーカーが開発した Raw 現像ソフトウェア 2 部 Lightroom を効率的に使うには?

2014 年 第 10 回「名取洋之助写真賞」作品募集

社会の動向に鋭い視線を投げかけ、情熱を燃やす新進写真家へ！

公益社団法人日本写真家協会が公募する第 10 回「名取洋之助写真賞」

時代を捉える鋭い眼差しと豊かな感性による、斬新な作品を期待します。若い写真家を元気づける「名取洋之助写真賞」はプロ写真家への登竜門として創設しました。第 6 回より表彰・賞金に加え、名取賞受賞作品を写真集制作することになりました。また、2013 年の第 9 回「名取洋之助写真賞」から応募資格の対象年齢を 35 歳までに引き上げ、より多くの方を対象に“新進写真家発掘と活動を奨励する”ことにいたしました。

お知り合いの若い写真家に是非、応募をお勧め下さい。



2013 年 第 9 回名取洋之助写真賞：山本剛士
「黙殺黙止～福島が消えた歳月～」

【第 10 回応募要項】

- 応募期間：2014 年 7 月 1 日(火)～8 月 20 日(水)午後 5 時必着。
- 応募資格：応募者は 35 歳まで(1979 年 1 月 1 日以降生まれ)の方で、プロ、アマチュアは問いません。
- 応募規定：詳しい応募規定は 2014 年 第 10 回「名取洋之助写真賞」作品募集パンフレットをご覧ください。
- 選考委員：鎌田慧(ルポライター)、大島洋(写真家)、田沼武能(写真家・公益社団法人日本写真家協会会長)。(予定)
- 表彰・賞金等：名取洋之助写真賞 1 名・賞金 30 万円、及び JPS が企画する写真集の制作(写真集の印税等は発生しません)。奨励賞 1 名・賞金 10 万円、東京、大阪で受賞作品 写真展の開催、授賞式。
- 著作権・使用権について：受賞作品の著作権は撮影者に帰属します。受賞作品は受賞後 2 年間、主催者(日本写真家協会)が名取洋之助写真賞の広報・宣伝活動に優先して使用します。ただし、その後も協会の PR 活動や歴史展、沿革史等に掲載させていただくことがあります。データは上記目的以外には使用いたしません。
- 提出先：送付・提出先 書留郵便または宅配便(送料は応募者負担)または持参。

〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 JCII ビル 303 公益社団法人日本写真家協会「名取洋之助写真賞」係
TEL: 03-3265-7451 FAX: 03-3265-7460 <http://www.jps.gr.jp/>

編集後記

◎今号から会報の印刷会社が変更になりました。1996 年の 103 号から 18 年間、会報の編集・出版作業に携わっていますが吸収合併による社名変更以外、外注先の変更は初めての経験となります。目的は勿論、印刷クオリティの維持と経費削減です。約 1 年の準備を経ての断行ですが、ご覧の結果は皆様にどう映っているでしょうか。(小池)

◎フィルムで撮影したのは、いつが最後だったろうか。私が長年撮影に使っていたモノクロ・フィルムが、販売終了になるというニュースがこの春に流れた。数年前に完全にデジタルに移行したときから、フィルムは使っていなかった。だが露出や現像処理の失敗から多くを学んできた私には、フィルムが消えてゆくのは無念でならない。(飯塚)

◎街スナップには専ら LEICA M9-P を使ってきましたが、最近消費税アップ前に駆け込みで購入したフジフィルムの「X100S ブラック」という単焦点コンデジの番が増えています。イマドキにしては珍しい光学ファインダーがロートルにはとて

も便利。コンバートレンズではなく他の焦点距離のモデルもぜひ出して！(関)

◎以前にも編集後記で触れた父親が残してくれた我が家の昔の 8 ミリ、VHS 化していたものを最近ようやくビデオキャプチャーしたものでデジタル化し始めた。ついつい懐かしく見入ってしまうのだが、作業が完成してしまうと今度は HD にデジタルでお蔵入りとなるであろう。映像再生が出来なくなる心配をしつつ、記録媒体の変貌も見えかけとしては良いのかな…。(小野)

◎この号が届く頃はブラジルのワールドカップが始まる頃ですが、最近私の周りにわかに盛り上がりつつあるのが、2020 年東京五輪の話題。さすがに 6 年という時間が見えると、人も物もいろいろ動き出すようです。6 年後、自分がどこで何をしているのかはわかりませんが、できることならかわっていたいものです。(小城)

◎4 カ月のうちに 12 冊の写真集を作るというミッションをプロデュースした。5 月で終了したこのミッションは、ほぼ月刊誌ペースでの作業。途中、上海で写真展を開催したりと、気がつけば今年も半分が過ぎてしまった。今秋はフォトキナがある

ので、頭を切り替えてハードの情報に追いつかなければ。(柴田)

◎このところ、少し派手な中堅雑誌社が倒産したり、ファッション系雑誌のフォトグラファーへの経費締め付けが厳しくなっている。「無駄」が無くなると、楽しい良い写真は無くなってしまふ。出版文化は風前のとしびだ。負のスパイラルだ。出版社は自分で自分の首を絞めている。(伏見)

◎UHS、クラス 10、VPG-65、UDMA…。これらは SD や CF の記録カードに書かれている規格の名称。つい容量と価格で決めてしまいがちですが、最新カメラをフルに活用するには、カードの性能も重要です。良いカメラを買っても、手元のカードは大丈夫ですか？(桃井)

◎1 カ月半にわたってアムステルダムとパリに滞在していたため、今号の編集はお休みさせていただきました。ギャラリーや美術館を巡ったり、現地の写真関係者と情報交換しているうちにあっという間に時間が過ぎました。ヨーロッパ特有の歴史や宗教観の上に芸術が成り立っていることを強く実感した滞在でした。(山縣)

日本写真家協会会報 第 156 号 (年 3 回発行) 2014 年 6 月 20 日 印刷・発行 ©編集・発行人 田沼武能

URL <http://www.jps.gr.jp/> Email info@jps.gr.jp 本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます

頒価 1 年・3 回 3,500 円(消費税・送料共込)

出版広報委員 小池良幸(理事)、飯塚明夫(委員長)、関 行宏(副委員長)、小野吉彦、小城崇史、柴田 誠、伏見介、桃井一至、山縣 勉

発行所 公益社団法人日本写真家協会 (JPS)

〒102-0082 東京都千代田区一番町 25 番地 JCII ビル 303 電話 03 (3265) 7451 (代表) FAX 03 (3265) 7460

印刷所 株式会社光裕

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋 1 丁目 2 番 2 号 住友商事竹橋ビル 12 階 電話 03 (3265) 0611

The 39th JPS Photo Exposition 2014 will be held

The Photo Exposition organized by the Japan Professional Photographers Society will take place also in this year beginning at Tokyo, Nagoya and Kyoto.

The number of applicants reached to 2,165 for the public entry, and the number of applied works were 7,298.

For the Minister of Education, Culture, Sports, Science & Technology Award as the supreme prize, selected the work of Ms. Yasuko Takada, Saitama Prefecture, titled "95 years old stays on standby".

Technical level of all applied works is high and selected works are combining with good use of progressed performance of the digital camera to their representation ability.

Furthermore, on recognizing of observability of photos after the East Japan Earthquake and Tsunami, there were many works awaking on this point.

For the "Young Eye" category, 17 schools specialized the photography participated from all Japan, composing of works of multiple students on the single panel, there were a lot of experimental and challenging works, and it makes us to feel possibility on the expression with the photograph. JPS members joined 50 persons exhibiting 3 works each of them with the theme of "EYE of the professional".

The level of the works drawing a line between the amateurs both on the techniques and the expression, and the works expressing the deep understanding to the object and fastening their passion were possible to appeal domestically and abroad that the JPS is a group of the professional photographers.

Contract Manual for the photographers

The Japan Professional Photographers Society came to show as an organization of professional photographers the crusade of establishment of copyrights since it has been founded the Society. However, entering the Digital Network period and increasing the contracts without wishes of the authors and troubles never exists before. The major part of these troubles include the contract making use of the supremacy of position and asking for the transfer of copyright without any compensation or the limit of copyright based on the name of contract. Under such circumstances, the Society elaborated a sample of the contract and the manual concerned to the contract with the viewpoint of the copyright owners, and made it possible to download from the HP. Written in Japanese only.

Mr. Yukio Kitamura, (Director of Toranomon General Lawyer's Office), who is a Legal Advisor of this Society drew up this manual.

Concerning the "Basic Knowledge of Copyright Agreement", we use with some arrangements for the photographers, "Manual for easy to use to make the Copyright Agreement" published by the Agency for Cultural Affairs. Since the working condition of photographers is varied 100 for 100 photographers, it will be impossible to correspond with only one sample, we would like to apply with its proper style.

<http://www.jps.gr.jp/rights/contract4.html>

International Affairs Committee
Executive Director, Naoki Wada

About the Japan Professional Photographers Society

The Japan Professional Photographers Society was established in 1950. Through its activities it strives to define the role of the professional photographer and secure copyright protection while working to develop photographic culture. In 2001 it received recognition as an Incorporated Body from the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, in March 2011 it was officially recognized as being a Public Interest Incorporated Association by the Prime Minister's office, and since April 1 of that year it has been active under the title, Japan Professional Photographers Society, Public Interest Incorporated Association.

Since its foundation, the society has succeeded in receiving an extension for the period of copyright protection (to 50 years after the death of the artist), held numerous exhibitions concerning photographic history and expression (A Century of Japanese Photography, History of Japanese Contemporary Photography, Sixty Years of Japanese Children, Women, etc.), and published numerous books on photographic history and collections of photographs. In order to contribute to the promotion and development of photographic culture, it holds the JPS Exhibition as an open exhibition, presents a nationwide Photography Study Pro-

gram for elementary school students, the Photo Forum that aims to develop photographic expression, Digital Photography Lectures for the advisors of high school photographic clubs, and presents the Yonosuke Natori Photographic Award to uncover and foster new talent. At the same time, it carries out a wide range of activities to contribute the development of photographic culture, such as: cultural exchange with overseas photographers, PR through publishing and information dissemination via the Internet.

Furthermore, it presents the Japan Professional Photographers Society Award in recognition of individuals or organizations who have achieved notable achievements in the development of photographic technology, education, or critique.

The Japan Professional Photographers Society has devoted itself to the establishment of photographic museums, such as the Tokyo Metropolitan Museum of Photography, and is currently actively working towards the creation of the 'Japan Photographic Preservation Center' (archive) for the collection and preservation of original photographs.

Japan Professional Photographers Society

JCII Bldg. #303, Ichibancho 25, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082

Tel: +81-3-3265-7451 Fax: +81-3-3265-7460

E-mail: info@jps.gr.jp Web site: <http://jps.gr.jp/int/index-e.html>

RICOH
imagine. change.

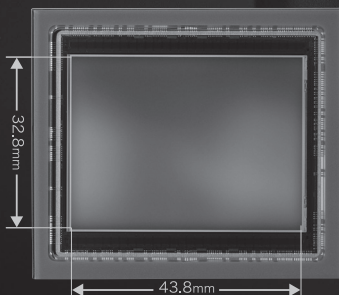
NEW 645 DEBUT.

孤高の頂へ。

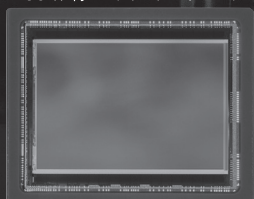
PENTAX 645Zは、新型CMOSセンサーの搭載で有効約5140万画素の超高精細画像を手に入れた。新たに装備されたチルト式液晶&ライブビュー機能に加え、画像処理の高速化などレスポンス能力も大幅に向上。機動性・俊敏性に磨きをかけ、遥かなる高みへ、未知なる撮影領域に挑む。



▼PENTAX 645Zの大型CMOSセンサー



▼35ミリ判フルサイズイメージセンサー



- 有効約5140万画素&約43.8×32.8mm大型CMOSセンサー（35ミリ判フルサイズの約1.7倍）
- 約3コマ/秒連写&高レスポンス
- チルト式液晶モニター&ライブビュー
- ローパスフィルターレス
- 最高ISO 204800
- PRIME III
- SAFOX11
- ペンタックス リアルタイムシーン解析システム
- 約8.6万画素RGB測光センサー
- 防塵・防滴構造
- -10℃耐寒動作保証
- 4Kインターバル動画

PENTAX 645Z

堀内カラーのネットオーダーサービス



大サイズプリントとパネル加工
を同時にオーダー

ネット@ザ・プリント

銀塩の表現力を最大限に活かしたラム
ダプリントで、作品表現に最適な組み合
わせが選べ、ドライマウント・マットパ
ネル・アルミフレームのパネル加工も
同時に注文できます。

プリント

- ペーパー：コダックプロ、メタリックの2タイプ
- サイズ：六ツ切～B1までの19タイプ
- フチ取り：白フチ、黒フチ、フチなしの3タイプ

パネル加工

- 高級アルミフレーム（額縁／シルバー、ブラック）
- マットパネル（オフホワイト、ブラック）
- ドライマウント

高品質なフォトアルバムや
ポートフォリオの制作に

ネット@ザ・フォトアルバム

多彩な編集機能と仕様でさまざまな用
途に合わせ、表紙はハードとソフト、本
文は高級銀塩写真とオンデマンド高精細
印刷の各2タイプでオリジナリティ溢れ
る作品集ができます。

<PRO>シリーズ

- 高級写真タイプ：銀塩光沢印画紙＋液ラミ
- サイズ／ページ：1975Q、A4、20～30p
- カバー：ソフト（ブックカバー付）、ハード（巻き表紙）

<ENJOY>シリーズ

- 高精細印刷タイプ：
表紙／マットPP加工、ブックケース
- サイズ／ページ：1405Q、2005Q、A4、20～50p
- カバー：ソフト（並製本）、ハード（上製本）

インクジェット用漆喰シートが
プリントの概念を変える

フレスコジクレ・プリントサービス

繊細で不連続な突起が並ぶ漆喰特有の
テクスチャーによって独特の「ゆらぎ」
とともに自然な奥行き感が生まれ、絵画
のように長期の鑑賞に耐える情緒性豊か
な作品が得られます。

R(ラフ)タイプ

- 表面に柔らかな凹凸のテクスチャーを施したコットンベースの無光沢紙
- キャンバスを連想させる暖かみのある風合いが得られます。

S(スムース)タイプ

- 表面に上品で繊細なテクスチャーを施した無光沢紙
- 美しい表現と落ち着いた質感が得られます。

※詳細な商品情報 www.fresco-g.com/

個展・グループ展などの開催を受付けています。



HCL— フォトギャラリー新宿御苑

東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎03-3226-9602

- 平日＝10:00～19:00 ●土曜＝10:00～17:00
- 最終日＝10:00～15:00 ●休館日＝日曜・祝日・年末年始
- 地下鉄丸の内線「新宿御苑前駅」新宿門口より徒歩1分



HCL— フォトギャラリー名古屋

名古屋市中区錦 1-11-20 大永ビルディング2F ☎052-211-6151

- 平日＝9:00～18:00 ●土曜＝9:00～17:00
- 最終日＝9:00～13:00 ●休館日＝日曜・祝日・年末年始
- 地下鉄鶴舞線・東山線「伏見駅」10番出口より徒歩1分

堀内カラー

フォトアートセンター

東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3358

フォトイメージングセンター（旧新宿事業所）

東京都新宿区新宿 1-6-5 ☎(03) 3226-9581

青山サービスセンター

東京都渋谷区神宮前 3-41-6 ☎(03) 3479-5351

神田サービスセンター

東京都千代田区神田小川町 2-6-14 ☎(03) 3295-2191

東京サービスセンター

東京都杉並区和田 1-6-7 ☎(03) 3383-3321

名古屋サービスセンター

名古屋市中区錦 1-11-20 ☎(052) 211-6151

関西営業部

大阪市北区万歳町 3-17 ☎(06) 6313-2351

サービスの詳細やご注文はホームページから…www.horiuchi-color.co.jp

SIGMA

超高画素時代にふさわしい圧倒的な描画力。
大口径標準レンズの決定版、誕生。



A Art
50mm F1.4 DG HSM

希望小売価格(税別) : 127,000 円 ケース、花形フード (LH830-02) 付

シグマの新しいプロダクト・ラインについては、こちらへ。

sigma-global.com

プロのために、そのすべてが造られている。

Canon

make it possible with canon

プロフェッショナル・フルサイズ

1DX

クオリティーへの圧倒的な要求を満たすフルサイズ。

描写力と機動力。異なる要素を高い次元で融合。あらゆる撮影領域をかつてない高画質で撮影するために、EOS-1D Xは誕生した。新開発35mmフルサイズ 約1810万画素CMOSセンサーを搭載。常用ISO感度51200、最高約12コマ/秒*の高速連写、新AE・AFシステムなど、プロフォトグラファーの理想に挑んだ解答がここにある。

*ISO感度32000以上(低温下の場合はISO感度20000以上)では、最高約10コマ/秒

35mmフルサイズ/最高約12fps/ISO51200

EOS-1DX canon.jp/eos



70
million
EOS

100
MILLION
EF LENSES
おかげさまで
1億本

EOSは累計生産台数7,000万台、^{※1}
EFレンズは累計生産本数
1億本を達成。^{※2}

※1 2014年2月5日現在
※2 2014年4月22日現在



キヤノンお客様相談センター/デジタルカメラ

050-555-90002

【受付時間】平日9:00～20:00 土・日・祝日10:00～17:00(1/1～3は休ませてください。)
※海外からご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は043-211-9556
をご利用ください。※受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

写真集電子出版サービス

Di-Po

写真集出版と写真展開催 2つの夢を同時に叶えるサービス

Di-Po **3**つのメリット

企画
制作

写真と電子出版のプロが
写真集の企画から出版まで
サポート致します。

写真展

Di-Poで出版された方は、
フォトギャラリー・アルティザンにて
出版記念写真展を開催いただけます。

流通
販売

流通や販売に関する複雑な手続きを
すべて弊社が管理致します。

Di-Po作品
Kindleにて
好評販売中!!



清永安雄
『ブエノスアイレス』



只今、Di-Poで出版された方には
簡易写真集を20部プレゼントいたします。

**6/10
OPEN**

アルティザンTOKYOを表参道に アルティザン ジャパネスクを京都岡崎にオープン

フォトギャラリー・アルティザンは、6/10に東京は世界的な旗艦店多く集まる表参道に、京都は京町屋の趣を残したフォトギャラリー・アルティザン ジャパネスクを岡崎にオープンしました。私たちはこの2つの国際色豊かなエリアから、写真のある暮らしをご提案すると共に、日本らしい写真作品を世界に向けて発信いたします。

ARTisan
フォトギャラリー・アルティザン

Di-Po お問い合わせ | 担当：相山 TEL : 03 (3470) 4570 MAIL : di-po@artisan-tokyo.com

トウキョウ | 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 4-21-10-1F TEL : 03(3470)4570 営業時間：11:00～19:00 (日曜 / 祝日休)

ジャパネスク | 〒605-0038 京都府京都市東山区堀池町 373-44 TEL : 075(746)2931 営業時間：11:00～18:00 (日曜 / 祝日休)

MAIL : info@artisan-tokyo.com (共通) WEB URL : <http://www.artisan-tokyo.com>

待望の広角端 16mm。
これが、高倍率ズームの新基準。



世界初[®]
約18.8倍
ズーム

16-300mm

F/3.5-6.3 Di II VC PZD MACRO

広角から超望遠までをカバーする驚異の「約18.8倍」ズーム。
手ブレ補正機構と高速AFを搭載した万能レンズの決定版。

Di II: デジタル一眼レフカメラ(APS-Cサイズ相当)専用レンズ
Model: B016 希望小売価格 87,000円(税抜) 花型フード付
発売中: キヤノン用/ニコン用 順次発売予定: ソニー用^{**}

^{*}デジタル一眼レフカメラ用交換レンズにおいて。(2014年3月現在、タムロン調べ。)

^{**}ソニー用は、ソニー製デジタル一眼レフカメラがボディ内に手ブレ補正機能を搭載しているため、手ブレ補正機構「VC」を搭載していません。



タムロンレンズ お客様相談窓口 ナビダイヤル

0570-03-7070

受付時間 平日9:00~17:00(土日・祝日・弊社指定休業日は除く) ※一般電話・公衆電話から市内電話料金にてご利用いただけます。
ナビダイヤルをご利用できない場合は048-684-9889におかけください。FAXでのお問い合わせは048-689-0538に送信ください。

東京修理受付窓口

〒110-0005 東京都台東区上野6丁目16番22号 上野TGビル3階 TEL 03-5817-7210 FAX 03-3837-1790

タムロンは、様々な産業分野において精密、高品質な光学製品を創出し、社会に貢献しています。

株式会社 タムロン www.tamron.co.jp

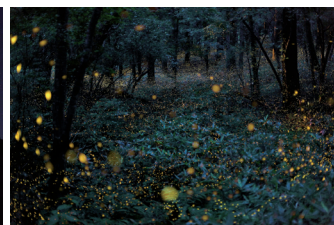
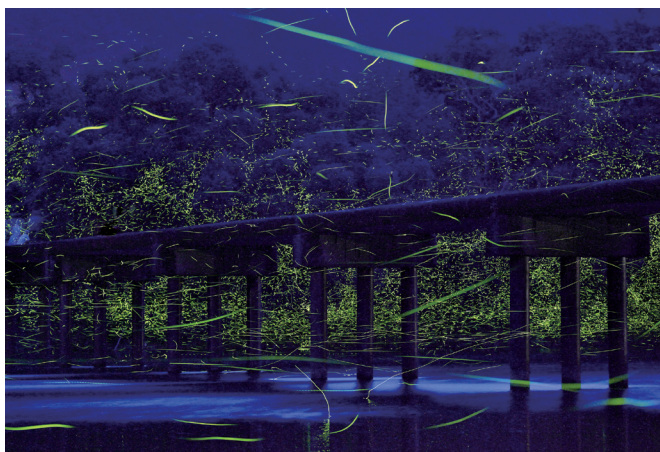
TAMRON[®]

産業の眼を創造貢献するタムロン

日経ナショナルジオグラフィック写真賞 2014

作品募集開始

国際的に活躍できるドキュメンタリー写真家を発掘し、日本から世界へ送り出したい——。そんな願いを込めて創設された日経ナショナルジオグラフィック写真賞。今年、2014年は第3回目にあたります。わたしたちの賞は世界基準で通用する作品を探している一方、子どもたちでも感じ取れる作品の強さも同時に求めています。自然や人間のありのままの姿を写した、美しく驚きと発見に満ちたドキュメンタリー写真のご応募をお待ちしています。



【2013グランプリ】宮武 健仁さん「輝く光景」(組写真) 撮影地：高知県、鹿児島県、富山県、東京都（八丈島）、広島県

グランプリ受賞者(1名)には、賞金100万円と副賞のほか、
米国ニューヨークの写真ギャラリーでグランプリ受賞者個展を開催するチャンスが与えられます。

詳細は nationalgeographic.jp をご覧ください

エプソンの デジタル プリント 最前線

Comment

プリンティングディレクター

松平光弘氏

株式会社アフロ(アフロアトリエ)

Profile 1999年、ロンドンのラボでプリンターとしてのキャリアを開始。帰国後、プラチナパラジウムプリントやゼラチンシルバープリントで高い「ザ・プリンツ」に在籍。2011年、株式会社アフロのプリンティングディレクターに就任し、国内外の写真展のプリント制作や文化財の複製などを手がける。atelier.aflo.com

ファインアート用紙で発見する インクジェットプリントの可能性

今日、国内外の美術館やギャラリーでもインクジェットプリントの作品展示や販売が多く見受けられるようになってきました。

デジタル関連技術の発展に伴い、ますます可能性を広げるインクジェットプリント。

今回はインクジェットプリントの価値を高めたファインアート用紙について松平氏にお話を伺いました。

風合いの生きるファインアート用紙

ファインアート用紙とは、一般的に水彩紙や版画紙など主に美術の分野で使用されている紙のことを指します。これらの用紙をそのまま使用するとインクがにじんでしまうので、精細にプリントできるように紙表面にインク受容層がコーティングされています。エプソンの用紙では、ベルベツファインアートペーパーやウルトラスムーズファインアートペーパーが「ファインアート用紙」に相当します。

素材はコットンや木材パルプからできており、従来の樹脂コートされた紙(RC紙)に比べて独特の風合いを持っています。作品の存在価値を高めるだけではなく紙自体の保存性が優れており、国内外のギャラリーでの写真展やポートフォリオ(作品集)制作の場面において、ファインアート用紙が選ばれています。

Check!

エプソンのファインアート用紙



エプソン
ベルベツ
ファインアートペーパー

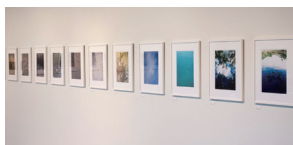


エプソン
ウルトラスムーズ
ファインアートペーパー

プリントの現場

写真家 木村朗子さんの場合

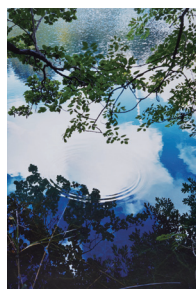
木村朗子さんの写真展「i-croatian blue-」では、ハーネミュレ社のフォトラグ バライタという用紙にプリントをしました。100%コットンの無酸性紙で、紙表面には銀塩印画紙と同じようにバライタ層を持っています。階調再現性に優れていて色域がとて広いので、このシリーズで基調とする「青」の再現に、紙の選択が重要な要素のひとつであったと考えています。



木村 朗子 Profile

1971年、茨城県生まれ。小学生時代に父のカメラを使い撮影を始める。立教大学社会学部を卒業後、会社勤務のかたわら写真作品を制作中。2008年に整体師としての許も取得し、写真と整体との思想相関に引かれ続けている。

<http://roof-8.com/akikokimura>



紙の特徴によって異なる仕上がり

私がかぎりでも国内外のインクジェット用紙メーカーは20社以上、用紙の種類にするとゆうに100種類以上が販売されています。たくさんありすぎてどれを使ったらよいのかわからないと感じられたことはないでしょうか。紙を構成する要素を大別すると下記の3つになります。

1. 表面の光沢感(光沢系・マット系)

光沢系の用紙は銀塩パライト印画紙のように、紙の表面に硫酸バリウムがコーティングされています。それによりマット系の用紙に比べて黒濃度が高くなるため、写真のもっとも明るい部分から暗い部分までの幅が広く再現され、階調豊かで写真的な仕上がりになります。一方、マット系の用紙は光沢感がないため黒が締まりにくい傾向がありますが、紙表面の風合いと相まって落ち着いた仕上がりにすることができます。

2. 紙白の色合い

ファインアート用紙に限りませんが、用紙によって紙の色合いが

変わります。一見白く見える紙白も他の紙白と比較すると、青みが強いものから黄みが強いものまであります。その色合いが作品全体の色調に影響するのです。

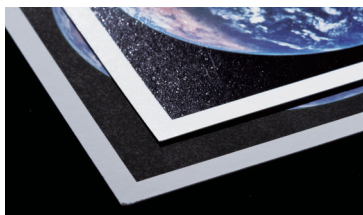
3. 用紙の面質

マット系の用紙には表面に細かい、あるいは粗めの凹凸があります。細かな凹凸を持った用紙は、プリントでの細部の再現性に優れています。粗い面質を持った用紙は、その凹凸の影響でプリントに反射する光が乱反射するため、被写体に立体感や奥行きを与えてくれる場合があります。

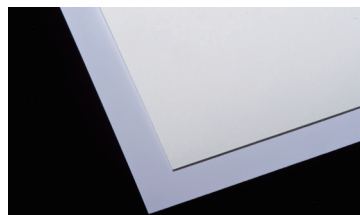
ファインアート用紙の特筆すべきこととして保存性の高さがあります。ファインアート用紙の主な原料になるコットンには、紙を劣化させる酸やリグニンという物質が入っていないため保存性に優れています。またコットンは毎年収穫できるために、木材から作られた紙に比べて「環境にやさしい」という側面もあるのです。

紙の違いを比較してみよう

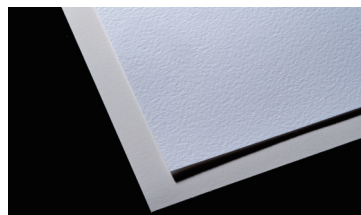
1. 光沢感の違い



2. 紙白の違い



3. 面質の違い



紙を選ぶ行為も写真の醍醐味

上記の紙の要素で、写真の明るさやコントラスト、色合いや彩度などが大きく変わります。もちろん画像処理ソフトである程度の補正はできますが、最終的には紙自体の風合いがその仕上がりを大きく左右するのです。例えば、雨に濡れたあじさいが朝日を浴びて輝いている写真であれば光沢系の用紙が向いているかもしれませんが、砂漠の乾いた空気感を再現するのであればマット系の用紙がより効果的かもしれません。

ただし、用紙選びに正解はありません。ご自身の表現に適した用紙を選ぶ方法は、仕上がりを想像しながら、様々な紙にプリントと比較を繰り返すことが最も大切だと考えています。

こうして紙を選ぶ行為そのものが写真の楽しさのひとつであり、同時に作家の責任でもあります。ファインアート用紙は顔料インクも染料インクも両方対応しているものが多いのですが、ファインアート用紙へのプリントには顔料系のPXシリーズをおすすめします。モノクロプリントもカラープリントも階調再現性と色

再現性が高く、顔料インクの保存性也非常に優れています。作品の価値を最大限に高め、できるだけ永く存続させるためにも、用紙と同様にプリンタの選択が重要であるという事は言うまでもありません。

PX-5V



●印刷方式/最高解像度:MACH方式/5760dpi×1440dpi※●インターフェイス:Hi-Speed USB×2(PC接続用×1<背面>、USB DIRECT Print/PictBridge用×1<前面>)、10BASE-T/100BASE-TX、IEEE802.11b/IEEE802.11g/IEEE802.11n●インク:顔料タイプ各色独立インクカートリッジ(フォトブラックまたはマットブラック、シアン、ビビッドマゼンタ、イエロー、ライトシアン、ビビッドライト、マゼンタ、グレー、ライトグレー)●対応用紙サイズ:L判/KG/2L判/ハイビジョン/六切/四切/A6縦~A3/ビ縦CD/DVDプリントレイ/ファインアート用紙・厚紙(フロント手差し)用紙厚1.3mm●外形寸法(W×D×H):収納時616×369×228(mm)●質量:約15.0kg ※最小1/5760インチのドット間隔で印刷します。

NEXT

今回は、写真の魅力をより引き出すための画像調整のポイントについての話です。ご期待ください。

プリントテクニック情報は、エプソンのフォトポータルサイトへ。 <http://www.epson.jp/katsuyou/photo/>

エプソン販売株式会社

写真の力を信じます。

MASH
+
MASH*management*
+
MASH*creative*

私達は、広告・エディトリアル写真を撮影するグループです。
写真がデジタルになって、もう何年になるでしょうか？
カメラがデジタルになっても、写真は写真です。広告写真でも、エディトリアル写真でも、ドキュメント写真でも、写真は人が写すもの、カメラは写真を写しません。
どんなに、デジタルカメラや画像処理ソフトがすすんでも、いい写真を写すのに必要なのは、力のあるフォトグラファーなのです。マッシュは、そんなフォトグラファーを応援します。

株式会社マッシュ

市ヶ谷スタジオ・オフィス
東京都新宿区市谷本村町 2-23
京都荘ビル B1
〒162-0845
TEL 03-3269-6368
FAX03-3269-1774

原宿マネージメントオフィス
東京都渋谷区神宮前 6-35-3
コープオリンピア #317
〒150-0001
TEL 03-6418-0886
FAX03-6418-0887

www.mash.vg / info@mash.vg

フィルムの表現、つづく。

19世紀に誕生した銀塩写真は、その歴史のなかで、人々の営み、美しい風景、様々な出来事を写し続けてきました。デジタル映像の時代になっても、銀塩ならではの表現力が放つ魅力は変わりません。そしていま、富士フィルムのプロフェッショナルフィルムのラインナップが、従来の高性能はそのままに、新しい外装をまといました。写真フィルム技術の到達点、最高水準の品質がここにあります。これからも、富士フィルムは、かけがえのない文化として、銀塩写真の魅力を伝え続けます。



フジクローム、フジカラー、ネオパン。 富士フィルムのプロフェッショナルフィルムラインナップ。

FUJICHROME



ベルビア 50
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック※
シート(20枚入) 4×5/8×10



ベルビア 100
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック※
シート(20枚入) 4×5/8×10



プロビア 100F
135(35mm 36枚撮) 1本/5本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
220(6×6cm 24枚撮) 5本パック※
シート(20枚入) 4×5/8×10

FUJICOLOR



プロ 400H
135(35mm 36枚撮) 1本
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック

NEOPAN



アクロス 100
135(35mm 36枚撮) 1本/3本パック
120(6×6cm 12枚撮) 5本パック
シート(20枚入) 4×5/8×10

※ベルビア50/100、プロビア100Fの220・5本パックのパッケージは従来のままです。



Photo Yoshiko Annen